

324. 2-Ma67ウ

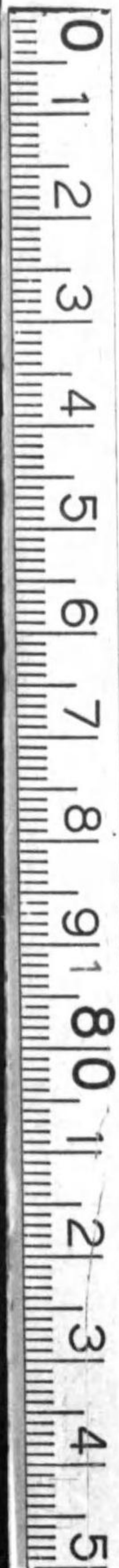


1200800296496

324.2

Ma67

ウ



始



25.10.27

51.170

324.2

Mad 76

財

法學士

東京

產
法
全

增島六二郎著

博文堂發兌

4

財産法

法パリ士すとる

増島六一郎講義

田中成美筆記

凡ソ法律ハ權利ノ何物グルヲ示シ次ニ其權利ヲ得之ヲ保テ之ヲ保護スルノ道如何ヲ示スモノナリ

權利ヲ得ルノ方法ハ人ノ生ル、ヤ否直チニ存スルモノアリ夫ノ身體

保護ヲ受テ權利ノ如キハ是ナリ又何事ヲ爲スニ及ハサルモノト

ス其他ノ權利ニ至テハ皆法律ノ定メタル手續ヲ經ルニアラサレハ之

レヲ得ルハ能ハサルナリ

權利ヲ保テ及之ヲ保護スルノ方法ヨリ起ル所ノ争ハ尤モ實地ノ問

題ニシテ常ニ裁判所ノ裁決ヲ煩スモノナリ而シテ裁判所ハ法律ノ許

ス方法ニヨリ之レヲ保タシメ之ヲ保護スルノ制裁ヲ下スヲ以テ其掌



ル所トス

權利ヲ得及ヒ之ヲ保チ之ヲ保護スルノ道其權利ノ性質ニヨリ各同シ
カラス即國是經濟等ノ點ニヨリ差異ヲ生スルニ至ルモノトス是ヲ以
テ財產ヲ有スル人ノ權利契約ヲ爲ス人ノ權利等各其性質ニヨリ定ム
ル所ノ手續ヲ異ニセリ

去レハ予ハ之ヨリ財產ニ關スル者ヲ講述セントス財產トハ何ヲ謂フ
カ曰ク法律ノ享有ヲ許ス所ノ物是ナリ而シテ此法律ノ享有ヲ許ス所
ノ物ニ關スル權利ヲ規定スル者即予ノ講述セントスル財產法ナリト
ス

財產法ヲ討究センニモ須ラク先ツ權利ノ何物タルヲ了解セサルヘカ
ラス權利トハ人ト人トノ間ニ存シ或ハ起ル所ノ物又ハ行爲ニ付法律
ノ認許スル關係ヲ云フ而シテ財產法上ノ權利トハ一物アリ一人之ヲ

握有シ且之ヲ使用スルノ權利ヲ行シ他人ハ之ヲ敬視セサルヘカラサ
ル關係ヲ謂フ

此ノ如キヲ以テ財產法ノ關スル物トハ凡ソ先ツ一人カ法律ノ許ス所
ニ從ヒ其物ニ付權利ヲ保有シ他人ハ之ヲ敬視セサルヘカラサル一個
有形ノ容ヲ有スルモノト云フテ可ナリ

財產權トハ法律ノ定メタル手續ニヨリ現ニ又ハ將來ニ於テ財產ニ付
正當安寧ナル占有ヲ得ルノ權利ヲ謂フ而シテ其占有ノ權ヲ得ルノ手
續ト之ヲ保護スルノ事柄モ又財產法ノ中ニ包含ス

然レモ財產法ハ右ノ權利一切ノ事ヲ論スルニアラス唯財產ニ關スル
權利ノ何物タルト之ヲ授受スルノ手續トヲ論究スルニ止ル者トス故
ニ他人ノ占有ヲ奪取スル等ノ事ハ法律家ノ所謂義務ノ點ヨリシテ之
ヲ論シ之ヲ私犯法ニ編シ或ハ刑法ニ入ル其他害ノ正ニ生シ或ハ將サ

ニ生セントシ或ハ既ニ生シテ物之カ爲メニ消滅シタルカ如キ場合ニ於テ之ヲ辨償セシメ或ハ返還セシムル等ニ關スル方法手續等ハ訴訟法ニ於テ論究スルモノトス

財産ニ關シテ權利ヲ犯ス者アルハ之ヲ民事トナシ或ハ刑事トナス、其國ニヨリ異ナレリ我國ノ如キ詐欺取財ヲ以テ凡ヘテ刑事トナセハ英國ハ其輕キ場合ニ於テハ民事ノ性質ヲ帶フル事アリ

財産ヲ保護スル爲メ訴訟法ニ於テ論スヘキ一斑ヲ舉クレハ財産差押、不健康ナル製造場ノ土地ヲ害スル時ニ於テ之ヲ禁止スルカ如キ是ナリ

之ヲ要スルニ財産法ハ財産ニ關スル權利ノ何物タルト之ヲ得ルノ方法及ヒ之ヲ授受スルノ手續ニ付テ論究スル者トス其他保護救濟等ノ事ニ至テハ民事犯、刑事、訴訟法等ニ屬ス

財産ヲ分ツテ動産、不動産トナス動産トハ所有者ノ己レト共ニ隨意動シ得ヘキ者ヲ謂ヒ不動産トハ所有者ノ己レト共ニ移轉スルヲ能ハス永久始ノ場所ニ停止スル者ヲ謂フ即土地ノ如シ家屋モ亦不動産トシテ論ス

去レトモ動産、不動産ノ名稱ハ今日ニアツテハ万般ノ財産ヲ悉ク網羅シ得ヘキ廣濶ナル者ニアラス羅馬法國ニテモ英吉利法國ニテモ總ヘテ適當ニ動産、不動産ノ名稱ヲ下スニアラスシテ唯便宜ノ爲メ此名ヲ假ツテ万般ノ財産ヲ區分スルノ名トスルニ止ルモノトス故ニ近來生シタル商標、專有權、版權、專賣特權ノ如キハ其眞性ヨリ考フルトキハ無形物ナレハ動産、不動産ノ何レニモ屬セサルモノナリト雖モ法律著者ハ多クハ之ヲ動産中ニ編入ス然レモ是眞性的ノ名ニアラサルナリ

動産、不動産ノ名稱素ヨリ財産ヲ網羅シ盡ス能ハサルヲ夫レ此ノ如シ

ト雖予ハ尙ホ此名稱ニヨリ財産法ヲ講述セントス蓋シ動産ニ屬スヘキ者ハ悉ク動産ノ規則ヲ以テ論シ得ルト言フニアラス唯其大體ニ於テ同規則ヲ適用スルノミ財産法中動産不動産ノ別ヲ立ツルハ其眞性物質ヨリスルニアラスシテ之ヲ授受シ之ヲ保護スルノ法式手續ニ自ラ異ナル所アリ其異ナル所ハ古代唯財産ハ眞ニ動産不動産ニ限レルノ時ニ淵源シタルヨリ來レルモノナリ

凡ソ法律ノ一部ヲ學フニ當リテ其部ノ如何ナル者ナルカ又其部類ノ位置及ヒ他ノ部類ニ對スル關係ヲ知ルコト必要ナリ殊ニ英國法ノ如キ部類錯雜ナル者ヲ講スルニ至リテハ最モ然リトス去レトモ予ノ講述スルハ敢テ英米人ノ其法律ヲ研究スルノ順序ニ據ラス專ラ法理學ノ理論ヲ根據トシテ新ニ順序ヲ立テ以テ諸君ノ了得ニ便ナラシメント欲ス

ル
ハ
○

財産トハ目ニ視手ニ觸レ得ル者ニシテ法律ノ所有スルコトヲ許ス者ナリ故ニ宇宙間ノ物悉ク之ヲ財産ナリト謂フヘカラス彼空氣日光ノ如キハ諸人皆之ヲ使用シ敢テ一人ノ所有シ得ヘカヲサル者ナルカ故ニ之ヲ財産ト謂フヘカラス其他政府ノ家屋寺院神殿ノ如キハ社會ニ屬スル共有物ニシテ同シク一人一己ノ所有シ得ヘキ者ニアラサルナリ

夫レ斯ノ如ク財産ハ一個人又ハ法律ノ認メテ一個人トナス所ノ者ニ於テ享有シ得ル有形ノ物ニ限レリ故ニ之ヲ所有セント欲スルハ必ス其所有セント欲スル意思ト之ヲ所有スルノ行爲ナカルヘカラス唯此二者ハ元來證據ニ係ルモノニシテ法律ノ進度ニ從ヒ異ナリ

此二者備具スルハ始メテ所有權ヲ得ルモノトス財産ノ所有權ハ之ヲ分析スルハ專有權握有權ノ二ニ區別スルコトヲ得ヘシ而シテ專有權握有權ハ即チ法律進度ヲ異ニシテ生シタルノ區別ニシテ其始ハ物

體所有ノ權握有權ヨリ起リ占有權ニ達シタルモノナレモ今日ニ在リ
 テハ法律家ハ此權利二者ヲ假リテ一個所有權ノ分レテ所有者以外ノ
 手ニ渡リタレトキノ關係ヲ表スルニ至リシナリ
 專有者ハ實地物ヲ握有セサルモ何時ニテモ之ヲ握有スルノ權ヲ有シ
 握有者ハ其握有ヲ持續スルノ權ヲ有ス而シテ若シ其握有ヲ奪ヒ妨ク
 ル者アルキハ之ヲ取戻スノ權アリ握有者ハ時トシテ專有者ニ對シテ
 モ握有權ヲ有スルコトアリトス
 專有權ハ握有權ヨリモ大ニ且進歩シタル者ナリ古昔人民定住ナク水
 草ヲ追テ轉移シタルノ時代ニ於テハ永ク物ヲ享有スルノ念ナク獨リ
 握有ノ行爲アツテ而シテ所有權ノミ存セシカ世ノ進歩スルニ從ヒ唯
 目ニ視、手ニ觸ル物ノミナラス之ヲ所有スルノ念ヲ生スルノミナルモ
 所有權ヲ生スルニ至レリ即チ更ニ占有權ノ別名ヲ以テ稱示スルコトヲ

得ルノ權利起リシナリ

握有權ハ握有スル所ノカト握有スル所ノ意思ノニヨリ成ル者トス、古
 代ニ在リテ握有力ハ實地握持シ得ル爲メ己ノ眼前ニアラサレハ不可
 ナリシカ今日ニ於テハ敢テ眼前ニアルヲ要セス故ニ米廩ニアル穀物
 ヲ買ハントセハ設令其眼前ニ穀物ヲ積マサルモ米廩ノ鍵ヲ有スルキ
 ハ之ヲ以テ足レリトス

握有スルノ意思ハ握有權ニ要スル第二ノ原素ニシテ物ニ對シ之ヲ我
 有トシ他人ニ對シ之ヲ保護セントスルノ意思ナリ此意思ハ必スシモ
 握有者ノ自ラ有スルヲ要セス其從僕代人等ニ於テ有スルモ亦可ナリ
 トス

物品ノ借主賃借人及ヒ運送人等ハ握有權ヲ有スル者トス蓋シ借主賃
 借人等ハ之ヲ使用スルノ利益アリ運送人ハ之ヲ運送スルノ義務アル

ヲ以テ握有權ヲ與ヘ以テ之ヲ使用シ之ヲ運送スルノ妨ヲナス者ナカ
 ラシムルナリ

借主預主ノ如キ他人ノ財産ヲ握有スル所ノ權利ニ二種アリ其第一ハ
 握有者直接ノ利益若クハ直接ノ責任ヲ負フニヨリ厭シマテ之ヲ握有
 スル場合ニシテ第二ハ專有者ノ思望ニヨリ之ヲ放棄セサルヘカラサ
 ル場合ナリ

右第一ノ場合ニ於テハ專有者ニ於テ握有者ニ満足ヲ與フル丈ノ手續
 ナ爲スニアラサレハ握有者ハ之ヲ放棄スルヲ要セス畢竟スルニ握有
 權ハ專有權ノ有無ニ拘ハラズ正ニ之ヲ妨クル者アルキハ救済スルノ
 權ナリトス

凡ソ專有者ハ必ス握有權ヲ有スルト謂フニアラス時ニ握有權ヲ他人
 ニ割與シ自ラ之ヲ有セサルコトアリ譬ヘハ專有者ハ單ニ專有權ノミヲ

有シ借主其握有權ヲ有スル場合ノ如シ

專有者握有者ノ權利ヲ妨ケサル限ハ己レノ所有物ニ付何事ヲ爲スモ
 可ナリト雖モ握有者ハ己レノ專有者ヨリ得タル目的内ニアラサレハ
 之ヲ使用スルコトヲ得ス故ニ其物ニ付爭論ノ生スルキハ握有者ハ握有
 ニ付特別ノ權利義務ヲ有スルキハ其握有權ヲ使用シテ救済ヲ求ムル
 ノ權アレモ其他ノ場合ニ於テハ專有者ニ於テ之ヲ訴フヘキモノトス

右專有握有二者ヲ共ニ有スル者ヲ所有者ト謂フ故ニ所有者ニシテ握
 有權ヲ他人ニ賦與スルキハ之ヲ專有者ト謂フ

握有權ノ發生ハ如何ニシテ起ル歟譬ヘハ爰ニ一ノ財産アリ他人ヲシ
 テ之ヲ使用スルヲ妨シメサルノ權カチ有シ且專有者ヲ除クノ外何人
 ニ對シテモ之ヲ妨シメサルノ權カチ實行スルノ意思并存スルキハ始
 メテ握有權ノ成立スル者トス

去レハ握有權ハ何ニ依テ消滅スルカ他ナシ之ヲ得ルノ意思ニ反シタル新意思ヲ以テ其意思即握有ヲ棄ツルノ意思ヲ實行シタルキハ握有權全ク消滅ス

專有權ハ握有權ヨリ大ナルヲ前既ニ述ヘタルカ如シ辭ヲ更ヘテ之ヲ言ヘハ握有權ハ專有權ノ中ニ包含スルモノナリ而シテ此二者ノ合シタルモノ即チ所有權ナリ

所有權トハ如何ナル者ヲ云フ乎今オースチン氏ノ言ニ據レハ凡ソ所有權トハ確定物ヲ握有シ無限ニ之ヲ使用シ之ヲ授受シ且其握有ヲ繼續スルノ權利ヲ謂フ

然レモ所有權ハ必スシモ制限ナシト言フヘカラス要スルニ他人ヲ妨害ス政府ヲ害セサル以上ハ之ヲ使用スルヲ得法律ニテ禁セサル以上ハ之ヲ授受スルヲ得ルナリ而シテ之ヲ使用授受スルノ權利ハ其

人ノ死亡ト共ニ消滅スルモノトス唯英國財産法ニ於テ不動産及ヒ動産中ノ資本ノ如キハ死後二十一年間ハ其授受ヲ許スニ付指示スルノ權アレモ斯ハ英國固有ノ法ニシテ他國ニ於テ見サル所ナリ

凡ソ所有權ハ財産ヲ握有シ享有シ及ヒ之ヲ處分スルノ三權ヨリ成レル者トス

財産ヲ握有スルノ權利トハ何時ニテモ之ヲ握有シ得ルノ權力ヲ稱シ、財産ヲ享有スルノ權利トハ其物ヲ使用シ又其物ヨリ生スル増殖物ヲ費消シ得ルノ權力ヲ謂フ而シテ處分スルノ權利トハ物質ヲ毀損贈與、賣買、委棄スル等ノ權ヲ謂フ

然レモ財産ヲ享有シ又之ヲ處分スルニ付テハ法律ノ定ムル所アリ之ニ從ハサルヘカラス故ニ享有ニ付テハ不動産ノ所有主ハ隣地ノ持主ヲシテ其享有ヲ爲スニ妨ナカラシメサルヘカラス又處分ニ付テハ詐

欺チ以テ財産ヲ賣買スルコトヲ許サ、ルカ如キ其一例ナリ

以上説明ニ依リ財産法ノ大要及ヒ財産ニ關スル權利ノ何物タルコトヲ説了セリ故ニ之ヨリ財産權ノ基礎タル物品即財産ニ就キ講述スヘシ

財産

往古人文未タ開ケサルノ時ニ當リテハ財産トハ目ニ視手ニ觸レ得ル處ノ有形物ニ限リシカ近時世ノ發達スルニ從ヒ漸々有形物ニアラサル者ニシテ財産ノ性質ヲ有スル者増加スルニ至レリ是ヲ以テ財産權ノ主トナル物ヲ分ツテ左ノ二種トス

第一、有形物

第二、無形物

有形物トハ書籍、家屋、土地ノ如ク手ヲ以テ人ノ指示ニ得ヘキ者ヲ謂フ無形物トハ法律ノ許ス所ノ權利ノ集合ニシテ人ノ心中ニ之ヲ指定シ

得ルモ手ヲ以テ指示シ得サル者ヲ謂フ譬ハ商標、專賣特權、振權等ノ如シ

右二別ノ必要ハ之ヲ處分スル名義ヲ定ムルニ於テ法律家ノ理論モ立法者ノ規則モ相異ナル者ナレハ尤モ至重ナルモノトス

又財産ヲ區別シテ左ノ二種トス

第一、交換シ得ヘキ者

第二、交換シ得ヘカラサル者

交換シ得ヘキ者トハ金銀貨幣及ヒ穀物ノ類コシテ交換シ得ヘカラサル者トハ某ノ家、某ノ衣服ト云フカ如シ

右ノ區別ハ物品預主ノ權利義務ヲ定ムル時等ニ於テ必要ナリトス又財産ヲ區別シテ左ノ二種トス

第一、動産

第二、不動産

右ノ區別ハ前既ニ講述シタレハ今茲ニ贅セス

財産權ヲ得ルノ方法

財産ヲ得ルニ付法律ノ認定スル所ノ方法ニ數種アリ左ニ之ヲ敘述スヘシ

第一、有形物ニ付財産權ヲ得ルノ方法

有形物ニ付財産權ヲ得ルノ方法ヲ分テ左ノ二トス

一、新ニ財産權ヲ得ル場合

二、財産權ノ既ニ存スル物品ニ付キ財産權ヲ得ル場合

新ニ財産權ヲ得ル場合ヲ更ニ小別シテ左ノ二種トス

(甲) 握有ノ行爲ヲ要スル者

(乙) 握有ノ行爲ヲ要セサル者

握有ノ行爲ヲ要スル者ハ左ノ四種トス

獵夫ノ禽獸ヲ捕ヘ寶石ヲ山中ニ採掘スルカ如キハ之ヲ實際握有セ

サルヘカラス

既ニ財産トナリ居ル者ニ勞力ヲ費シ之ヲ製造シテ我所有トスル者

譬ヘハ甲カ乙ノ銀ヲ以テ鑄ヲ作ルカ如シ

所有者ニアラサルモノ他人ノ所有物ヨリ生スル所ノモノヲ得ル

ヲ法律ノ許スアルトキハ其人ノ之ヲ握有スルノ行爲ヲ表スルヲ要

ス譬ヘハ秣草ヲ他人ノ地内ヨリ艾リ取ル權利ノ爲メ之ヲ艾ルカ如

シ

法律ニ從ヒ規定ノ年限間財産ヲ握有スルニヨリ其權利ヲ得ル者即

期滿得權ニヨリ財産ヲ得ルナリ

握有ノ行爲ヲ要セサル者ハ左ノ二種トス

已ノ財産ヨリ増殖シタル所ノ者ハ亦其所有物トナル譬へハ田地ニ
生殖シタル穀物ノ所有主トナリ木ニ實リタル果實ヲ所得トスルカ
如シ

甲乙二物相混合シテ分ツヘカラサルキハ其兩所有者ハ相互ニ混合
物ノ共有者トナル者トス譬へハ甲乙ノ二藥相混和シテ更ニ一種ノ
藥種ヲ爲スキハ其兩所有者ハ其藥種ノ共有主トナルヘシ

以上新ニ財産權ヲ得ル場合ヲ講述セリ然レモ此等ノ場合ハ甚タ稀ニ
シテ隨テ實際ノ應用ヲ要スルコトモ亦稀ナリトス是ヨリ財産權ノ既ニ
存スル物品ニ付財産權ヲ得ル場合ヲ説明スヘシ
財産權ノ既ニ存スル物品ニ付財産權ヲ得ル場合ニ亦二種アリ即左ノ
如シ

(甲)財産所有者ノ生前ニ處分スルコト

(乙)財産所有者ノ死後ニ處分スルコト

甲ノ場合ハ即贈與、賣買、交換等ニヨリ財産權ヲ得ルコトニシテ乙ノ場合
ハ遺囑又ハ相續ニヨリ財産權ヲ得ルコトナリ而シテ其贈與、賣買、交換、遺
囑若シハ相續ハ如何ナル方法ニヨリ之ヲ爲スヘキヤハ各國其法ヲ異
ニシ財産ニヨリ亦各異ナレリ

第二、無形物ニ付財産權ヲ得ルノ方法

無形物即商標、板權、專賣特權等ヲ得ルニハ商標ハ己ノ撰ヒタル者ナル
コト、板權ハ己ノ著述シタル書物ナルコト、專賣特權ハ己ノ發明シタル品ナ
ルコトヲ明白ニシ法律ノ定メタル手續ニヨリテ此等ノ權ヲ得ル者ト
ス
而シテ既ニ之ヲ得タル以上ハ之ヲ贈與、賣買等ヲナスニモ亦各其規則
ニ從ヒ授受スヘキモノトス

財産權ヲ失フノ方法

財産權ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ失フモノトス

第一、人ノ死亡スルキハ之ヲ失フ

第二、法律ヨリ沒收ヲ命セラル、或ハ之ヲ失フ

第三、贈與、交換等ノ手續ニヨリ他人ニ讓與スルキハ之ヲ失フ

凡ソ財産ハ其何タルヲ問ハス政府ニ於テ特別ノ法ヲ以テ之ヲ所有スルヲ禁スルカ若クハ其物ノ性質ニヨリ私有スルヲ禁スル場合ノ外ハ相當ノ手續ヲ悉スルハ之ヲ所有スルヲ得ヘシ彼ノ專賣特許權ノ發明品ニ於ケル板權ノ著書ニ於ケル商標登錄權ノ商標ニ於ケル是等ハ皆記録シタル手續ニヨリ其權ヲ全フスル者ナレトモ其所有主ハ是等ノ手續ヲ待テ後此權ヲ得タルニアラス唯此手續ニヨリ他人ノ其發明品ヲ作り著書ヲ出版シ若クハ商標ヲ使用スルヲ禁スル法律ノ保護

ヲ得ルノミ其所有ハ固ヨリ所有主ニ存在スルモノトス故ニ其物ノ性ニヨリ又ハ法律ノ定ムル所ニヨリ權利ヲ廣狹ノ差ハアレトモ實地其物ニ付テハ争ノ生スルヲ稀ナリトス

凡ソ争ノ生スルハ所有主ハ握有主ノ權利ノ廣狹及ヒ其財産權ヲ讓與移轉スルノ手續完備スルヤ否ヤノ二點ニアリトス故ニ是等ニ關スル規則ハ尤モ至重ナル者トス

法律ニ定メタルカ又ハ物ノ性質ニヨリ權利ノ性質ト其處分ノ手續ニ差異ハアレトモ要スルニ有形物無形物、交換物、不交換物、動産、不動産又ハ法律上動産、不動産トナス所ノ別ニヨリ差異アルニ過キサレトモトス船舶、專賣特許權、板權、通用手形ノ如キモ亦皆財産ナリト雖モ是等ハ特別ノ性質ヲ有シ特別ノ物ナルカ故ニ其授受手續ハ布告習慣等ニヨリ特別ナル者トス蓋シ是等ハ財産法ノ區域外ト云フヘキノミ、

104

以上ハ財産ノ處分ヲ講述セリ以下財産ヲ享有スルニハ如何ナル手續
 ニヨルカヲ説明セントス財産ハ一人之ヲ享有スルコトアリ又二人以上
 之ヲ共有セサルヲ得サル場合アリ是等ハ皆財産法ノ定ムヘキ所トス
 而シテ右ハ所有權ヲ充全ナル者トシテ論シタル者ナリ若シ前代ノ時
 ヨリ又ハ物ノ性質ニヨリ若シハ所有者ノ意ニヨリ財産權ノ幾分ヲ他
 人ニ割與スルキハ之ヲ支分權ト稱ス
 全體權ハ政府ノ法律若シハ他人ノ權利ヲ犯サ、ル以上ハ其所有主ニ
 於テ何事ヲナスモ可ナリト雖モ支分權ハ之ニ制限アリ唯其事コノミ
 權利ヲ有スルモノトス譬ヘハ甲ノ所有地ニ就キ乙カ收益權ヲ有スル
 カ如キ又ハ甲地ヨリ乙地ヘ水溜ヲ落シ得ル權、他人ノ地上ヲ通行スル
 ノ權、他人ノ田地ヲ若干年使用スルノ權、漁獵權等ハ皆支分權ナリトス
 而シテ支分權得喪移轉ノ手續ハ後日之ヲ詳説スヘキニヨリ今暫ク略

214

ス
 次ニ財産ノ書入質入ヲ畧説セント欲ス書入トハ財産ノ所有主カ其財
 産ハ己レ之ヲ握有シ借金ノ抵當トシテ書入レ若シ期限ニ至テ其返金
 ナサ、レハ之ヲ賣却スルコト許シタル者ナリ、質入ハ握有ヲ債主ニ
 渡シ若シ期限ニ至テ返金シテ之ヲ受ケ戻スコト能ハサルトキハ債主ニ
 於テ之ヲ處分スルヲ得ルモノヲ謂フ、書入ニハ時トシテ記録ニ登記ス
 ルヲ要スルコトアリ若シ二重抵當ニ取りタル者トノ間ニ争ノ生スルキ
 ハ如何ナル順序ニヨルヘキカ又其負債ヲ辨償スルキハ如何ニシテ書
 入質入ヲ解放スルカ又期限ニ至リ負債ヲ辨償セサルキハ如何ナル手
 續ニヨリ財産ヲ得ルカ又若シ質入ノ場合ニ於テ債主既ニ之ヲ握有シ
 マル後返金スルキハ如何ニシテ譲リ戻スカ是等ノ問題ヲ生スルニ至
 ルヘシ

我國ニテハ不動産ハ多クハ書入ニシテ時ニ農家中ニハ質入ニナス
 アリト雖モ動産ニ至テ殆ハント全ク握有ヲ放棄スル者ト去レトモ
 英國ニテハ動産ノ書入ヲナスコト少カラズ譬ヘハ新聞社ノ負債ヲナス
 ニ其抵當トシテ印刷器械ヲ書入スルカ如シ是等ハ假令抵當ニ入ル、
 モ尙ホ依然トシテ店頭ニ排置スルカ故ニ時ニ二重抵當ニ入ル、ヤモ
 知ルヘカラス故ニ此場合ニハ登録スルノ制ナリトス
 質入書入ハ上陳ノ如ク所有權ノ握有ヲ渡シ若クハ所有權ノ幾分ヲ渡
 ス者ナレモ支分權トハ自ラ異ナレリ何トナレハ支分權ニテハ其權限
 内ナレハ隨意ニ之ヲ處分スルコト得ヘシト雖モ質入書入ハ負債ノ償
 却ナキ時ニ限り之レヲ處分スルノ權アル者ナレハナリ之ヲ以テ質入
 書入ノ場合ニハ所有權ハ全ク所有者ニ存スルモノトス
 次キニ物品差留ノ權アリ此權ハ動産ニ限ル者ニシテ若シ爰ニ人アリ

他人ノ財産ヲ預カルカ若クハ仕事ヲナシタルモハ其所有主預ケ品若
 クハ仕事ヲ依頼シタル物品ニ付拂フヘキ預ケ賃若クハ仕事賃ヲ拂ハ
 サルニ於テハ其支辨アルマテ之ヲ差留置クコト得ルノ權ナリ故ニ差
 留權ニ係ル金員請求ノ權ハ握有品ニ就キ生スルモノナレハ握有ハ其
 權利ヲ存スルカ爲メ必要ニシテ若シ存セサルモハ差留權ハ消滅スル
 モノトス譬ヘハ馬ヲ預カリタルニ預ケ主ニ於テ其飼料ヲ拂ハサルモ
 ハ其馬ヲ抑留シテ返却セス又代言ヲ依頼シナカラ其代言料ヲ拂ハサ
 ルモハ訴訟書類ヲ抑留シテ返却セサルカ如シ
 物品差留權ノ質入書入ト異ナル點ハ質入書入ニ於テハ負債主若シ返
 金セサレハ之ヲ賣却スルノ權アレモ差留權ニ於テハ單ニ之ヲ留置シ
 ニ過キス又質入書入ニ於テハ握有ヲ放スモ尙ホ其權利ハ存スルコト
 アレモ差留權ハ握有ヲ放スヤ否直ニ其權利ヲ失フコトアリ

民法の基礎

以上説明シ來リタル所ヲ以テ財産權及ヒ財産ノ何物タルヲ并ニ之ヲ授受交換スルノ如何ヲ説明シタレハ財産法ニ於テ論スヘキヲハ右ニテ全ク終リタルモノト謂フヘシ其他財産ヲ保護スルノ道如何ニ至リテハ蓋シ財産法ニ於テ論スヘキモ者ニアラサルヲ前既ニ説明シタル如クナレハナリ故ニ余ハ之ヨリ上陳ノ諸項ヲ詳説スルニ先チ一言ノ説明ヲナサント欲スルモノアリ財産權ノ性質如何即チ是ナリ

法學者權利ヲ分ツテ定マリタル人ニ對スル權定マラサル人ニ對スル權ノ二トス譬ヘハ契約ニ基キタル權訴訟權ノ如キハ定マリタル人ニ對スル權ニシテ財産ニ關スル權名譽ヲ害セラレサルノ權身體自由ノ權ノ如キハ定マラサル人ニ對スルノ權ナリ何トナレハ契約ハ其對手必ス確定スル者ナルヲ以テ若シ義務者ノ其履行ヲ怠ルヲアルハ權利者ノ之ニ向ツテ履行ヲ請求スルノ權アルヤ疑チ容レス亦訴訟權ニ

於テハ譬ヘハ名譽ヲ害セラレサルノ權ヲ侵ス者アルハ之ニ對シテ損害賠償ノ權アルカ如キ皆定マリタル人ニ對スル者ナリ之ニ反シテ財産ニ關スル權名譽ヲ害セラレサルノ權ハ財産ヲ有シ又ハ一國民タルカ故ニ世上万民ニ對シテ其財産ヲ奪ハレス名譽ヲ害セラレサルノ權ヲ有シ世上万民ハ其財産ヲ奪フヘカラサルノ義務ヲ有シ又其名譽ヲ害セサルノ義務ヲ有ス蓋シ此等ノ權ハ定マラサル人ニ對スル權利ナルカ爲メナリ

凡ソ定マリタル人ニ對スル權利ニ伴フ所ノ義務ハ一事ヲ爲シ或ハ爲サ、ルニアリ然レモ定マラサル人ニ對スル權利ニ伴フ所ノ義務ハ凡テ爲スヘカラサルニアリ他言スレハ定マリタル人ニ對スル權利ハ義務者ノ誰ナルヲ定マリ其義務ハ或事ヲ爲シ若クハ爲サ、ルニアリト雖モ定マラサル人ニ對スル權利ハ義務者ノ誰タルヲ定マラスシテ其

義務ハ悉ク爲サ、ニアリ
 夫レ斯ノ如ク定マリタル人ニ對スル權利ト定マラサル人ニ對スル權利ノ二別アリ而シテ定マリタル人ニ對スル權利ハ契約ニ本ツクノ權利訟權ノ二個ニシテ定マラサル人ニ對スル權利ハ財產權、名譽權、身體自由權及ヒ生命保護權等ナルヲ前陳ノ如シ是ヲ以テ財產權ハ財產ニ關シ定マラサル人ニ對スル權利ナリト云フヲ得ヘシ
 凡ソ財產ノ全體權ヨリ論スルモ亦支分權ヨリ論スルモ其權利ノ大小コソアレ博ク天下万民ヨリ之ヲ見レハ共ニ犯スヘカラサルノ義務ヲ負フモノトス故ニ握有權ヲ有スル者ハ安全ニ之ヲ握有シ所有權ヲ有スル者ハ安全ニ之ヲ所有スルヲ得ヘシ
 前既ニ講述シタルカ如ク財產ニ關スル權ハ定マラサル人ニ對スル權利ナリトセハ爰ニ區別ヲ要スル場合アリ譬ヘハ財產賣買ノ手續ニ於

テ甲カ米百俵ヲ乙ニ賣ラントノ約束ヲ爲スキハ其約束ニヨリ財產直ニ乙者ニ移ル者ナリトノ法律アルニアラサレハ乙ハ甲ニ對シ只其引渡ヲ請求スルノ權アルノミニシテ未ダ其所有權ハ乙ニ移ラサルナリ故ニ甲又其米ヲ丙ニ賣リ丙ハ之ヲ受取り且其既ニ乙ニ賣渡ノ約束アリタルヲ知ラサルキハ乙ハ之ニ對シテ取戻ノ權利ナキモノトス何トナレハ乙者ニ未ダ所有權ナケレハナリ去レモ法律ニ於テ約束スルヤ否ヤ財產移轉スル者ナリト規定スル場合ニ於テハ其約束スルト同時ニ定マラサル人ニ對スル權利ヲ得ルヲ前陳ノ次第ニヨリ自ラ明カナルヘシ
 然ラハ則チ賣買契約ナル語ハ穩當ナリヤ否多クハ賣買契約ト云ヘル語ノ中ニハ二個ノ手續ヲ混スルカ如シ所謂契約トハ新ニ權利ヲ作ル所ノ者ニソ賣買ハ素ト財產ヲ賣ルノ手續ニテ權利ヲ新ニ作ルニアラ

ラスシテ之ヲ移ス者ナリ故ニ契約ノ手續ト移轉ノ手續ノ二個ナリト云フベシ之ヲ以テ法律ニ於テ約束ト同時ニ定マラサル人ニ對スル權利モ又移轉スル者ナリト規定スル場合ニ於テハ其賣買ハ移轉ノ手續ニシテ若シ約束ハ唯其引渡ヲ請求スルノ權ヲ與フルノミナル場合ニ於テハ其賣買ハ契約ノ手續ナリトス且又動產不動產ノ別ニヨリ賣買手續ニ帶ハシムルニ契約ト移轉ノ性質ヲ以テスルアリ或ハ之ヲ分ツテ各別段ノ手續ヲ要スルアリ其詳細ハ後章ニ於テ之ヲ明ニスルニアルヘシ

以上講述シ來リタル所ニテ財産法ノ大綱ヲ終リタレハ是ヨリ以下不動產ニ就テ講述ス可シ

不動產

人間社會發達ノ狀態ヲ考察スルニ古代ハ財産少ク中ニ就キ土地即チ不動產最モ多分ヲ占メタリシカ後封建ノ制起ルニ及ヒ土地取極ノ規則ハ之カ爲ニ干涉ヲ受ケタリ我國ニテ維新ノ際封建ノ制チ一洗スルニ及ヒ博ク人民ニ就テ之ヲ見レハ土地取極ノ規則等ヲ改良シ甚々良果ヲ奏セシト雖モ亦一方ニ就テ之ヲ見レハ舊諸侯ノ跡ヲ絶チ今日ノ所謂貧究華族トナリテ世人ニ愚人視セラレ、ニ至リシハ甚々好マキ事ニハアラサルナリ去レト予ハ華族ノ制ヲ尊ムニアラス又華族アリト雖モ之ヲ保維スル位地アルニアラサレハ何ノ益モアラサルヘシ英國ノ如キモ五六百年以前ニ在ツテ封建ノ制衰ヘタリト雖モ我國維新ノ結果ト同シカラス諸侯ハ唯其兵權ヲ失ヒタルノミニテ其餘尙ホ古來ノ土地ヲ保チ其領民ハ猶臣下ノ如ク藩籍財産ハ依然之ヲ保有シ殆ント有名無實ノ改革トモ稱スヘキモノナリシ之レヲ以テ近年ニ至ルモ英國ノ不動產ハ舊時封建ノ時ノ如ク尙ホ其舊慣ヲ改ムコトナク其

授受手續モ亦舊式ノ跡ヲ存ス

我國現今土地取極規則ハ甚々簡端ニシテ土地即チ不動産ハ日本國ニ屬ス即チ天皇陛下ニ屬シ其命ヲ奉シテ政府ノ發布シタル地券ニヨリ土地所有者タルノ名義ヲ得ルモノトス故ニ土地所有者カ其土地ヲ授受センニハ地券ヲ渡シ公證ヲ經サルヘカラス而シテ若シ土地所有者ノ血統絶ユルトキハ其土地ノ歸スル所ハ政府ナリトス英國ニ於テモ亦之ト同シク理ニ依テ之ヲ言ヘハ現今土地ハ女帝陛下ニ屬シ其管理ニ歸ス去レト五百年前封建ノ制ノ廢スル時ニ當リ諸侯ハ容易ニ其土地ヲ奉還セス之ヲ保有セシカ故ニ今日ト雖モ舊諸侯ナリシ華族ハ皆多少ノ領地ヲ有シ其地ノ人民ハ之ヲ女帝ヨリ權利ヲ賦與セラレタル者ト云ハンヨリ寧ロ領主ヨリ權利ヲ賦與セラレテ其土地ヲ有スル者ナリト云フヘシ之ヲ以テ英國ニテハ女帝ト所有者トノ間ニ領主ナル

fee simple

一ノ階級アリ土地所有者ノ血統盡クルキハ直ニ女帝ニ歸セスシテ領主ニ歸ス若シ領主ノ血統盡クルキハ茲ニ始メテ女帝ニ歸スル者ナリ」
財産ヲ有スルニハ制限アリ政府ノ特權ト他人ノ權利ノ相關スル所ニヨリ制セラル、者ナリ故ニ土地ノ所有ハ法律ノ許ス所ノ最大財産權ヲ有スルニ止マリ其餘ハ女帝陛下ニ屬ス
英國法ニテ人ノ土地不動産ヲ所有スルニ最モ博ク且備ハリタルモノヲ「ふいしんぶる」ト云フ「ふいしんぶる」トハ不動産ニ付法律ノ許ス限り充分ノ權利ヲ執行スルノ力ヲ與フルモノナリ故ニ之ヲ授受スルニ制限ナク唯會社ノ如キ寺院ノ如キ又ハ商賣組合會社ノ如キ者ニ此權利ヲ授與スルニ付法律ノ制限アルト「ふいしんぶる」所有者カ己ノ債主ニ詐ハリ其財産ヲ以テ債主ニ對スル責ヲ免レン爲メ之ヲ移轉スルヲ禁スルノ制限アルニミ其他ハ毫モ授受スルニ付制限アルヲナシ

「ふいゝんぶる」所有者ハ其土地内ニ鑛物アレハ之ヲ掘出シ材木アレハ之ヲ伐截シ其他土地ヲ使用スルニ付自由ナリトス故ニ亦長期貸貸ヲ爲シ或ハ其不動産ヲ抵當トシテ金錢ヲ借入レ或ハ其不動産ヲノ毎年若干ノ金額ヲ人ニ拂ハシムル義務ヲ負ハス等一切ノ權利アリトス又「ふいゝんぶる」ノ不動産ハ前所有者ナル死者ノ負債アルキハ其不動産中ヨリ之ヲ償却スヘキモノトス

斯ノ如ク「ふいゝんぶる」ノ不動産ニ關スル權利ハ大ニシテ其負フ所ノ義務モ又前述ノ如シ去レト「ふいゝんぶる」所有者ニテ自ラ其權利ヲ執行スルノ權ヲ放棄シ又其財產ヲシテ其負フ所ノ義務ヲ免レシムルノ處分ヲ爲スヲ許サス故ニ「ふいゝんぶる」所有者ノ死去スルニ當リ其財產相續人ニ移ル者ナルニ相續人ハ其權ヲ放棄シ其財產ヲ受クルヲ拒ム能ハス若シ之ヲ欲セサルキハ一タヒ之ヲ相續シタル上直ニ他

人ニ讓ルノ外途ナシトス

「ふいゝんぶる」不動産ノ所有者ハ我國ノ如ク地租ヲ納ムルヲナク唯古來ノ慣習ニヨリ僅少ニシテ殆ント有名無實トモ稱スヘキ地代ヲ領主ニ納ム而シテ其所有者ノ代替リニハ兼テ豫定セル所ノ金額ヲ上納シ若シ相續人盡キタルキハ領主之ヲ沒收ス但シ茲ニ領主ト稱スルハ女帝自ラ土地ヲ所有スルノ場合ナレハ女帝ヲ稱シ領主ノ土地ヲ管轄スル場合ナレハ其領主ヲ稱スルナリ

又「ふいゝんぶる」所有者ハ各其所轄裁判所ニ出テ土地支配ノ事ニ關スル裁決ニ參坐スルノ義務ヲ負フモノトス

斯ノ如ク「ふいゝんぶる」ハ博ク大ナル者ニシテ猶ホ此外ニ「ふいゝんぶる」所有者ハ實行スルノ權ヲ有スル場合アリ即チ(第一)人ノ一代ヲ限り生涯ノ間不動産ヲ享有セシムルノ權利ヲ與フルヲ(第二)長期貸貸スル

「是ナリ此ニハ全キ財産所有權ノ幾分ヲ割キ年限ヲ限リテ財産所有
 ナ得セシムルモノトス故ニ此二者ハ之ヲ「ふいゑんぷる」所有者ヨリ言
 ヘハ其權ノ幾分ヲ損シタルモノナレト使用人若クハ賃借人ヨリ言フ
 キハ博シ財産ヲ所有スルモノナリト云フコトヲ得ヘシ
 生涯使用ノ場合ニアリテ甲ハ「ふいゑんぷる」所有者ニシテ乙其使用者
 トスレハ乙ノ生涯間之ヲ使用スルコトヲ許スノミナラス又第三者ナル
 丙ノ生涯間乙ノ之ヲ使用スルコトヲ許スヲ得而シテ斯等ノ場合ニ於テ
 甲ハ唯其虛權ヲ有シ實權ハ乙ニアリ乙ノ有スル權利ノ「ふいゑんぷる」
 ト異ナルハ唯其年限ハ定マラスト雖モ限アリテ「ふいゑんぷる」如ク
 永久ニ之ヲ所有スルヲ得ス且其土地ノ木ヲ伐ルヲ得ルハ薪ヲ伐リ耕
 作ノ器具ヲ製シ家屋ヲ修復シ垣牆ヲ作り若クハ其枝葉ヲ伐截スルコ
 トニ供スルノ外「ふいゑんぷる」所有者ノ如ク材木ト稱スヘキ大木ヲ伐截

life tenant

スルコトヲ得サルニアリ此生涯使用者ヲ名ケテ原語「らいふてなんと」ト
 云フ生涯所有者ヲ義ナリ
 「らいふてなんと」ハ二十一年間ノ長期賃貸ヲ爲スノ權利アル外己レニ
 賦與セラレタル權利ヲ他人ニ讓ルコトヲ得ス若シ「らいふてなんと」死去
 ノ時ニ際シ其生前ニ植タル作物アルキハ唯其收穫ニ際シ之ニ限り遺
 産處分人ニ於テ取入ルノ權アリ
 元來「らいふてなんと」ノ使用期限ハ定マラスト雖モ期限アルカ故ニ其
 地ヲ改良スル爲メ金錢ヲ投スルモ明日死シテ其資本ヲ無ニスルノ恐
 アレハ遂ニ之ヲ改良スル者ナク「らいふてなんと」ノ土地ハ常ニ豊饒ニナ
 ルコト能ハサルノ弊ヲ防カン爲メ法律ハ土地ノ水捌ヲ能クスル等ノ
 爲メ收穫ノ中ヨリ其費用ヲ徵收シ若クハ貸下金ヲ爲シ之ヲ其土地ノ
 收穫ノ中ヨリ徵收スルノ制アリ

以上ハ專ラ「らいふてなんと」ニ付略述セリ以下長期貸貸ノ事ヲ畧述ス
ヘシ

長期貸貸ハ概チ土地ヲ借り之ニ家ヲ建築スルノ場合ナリ譬ヘハ東京
檜物町ノ家ハ余ノ所有ナレトモ其地所ハ何某ノ所有ニシテ余ハ之ヲ長
期貸貸ニヨリ借入ルモノナリ唯英國法ノ長期貸貸ト異ナルハ其期限
ナキノ一點ニアリ故ニ余若シ何年間檜物町ノ家ヲ他人ニ賣ルコトアル
モ地主ハ余ノ買主ニ對シテ抗辯スルノ權ナシトス去レト英國コトハ
土地ヲ借入ル、期限ヲ多クハ九十九年ト定メ「ふいぞんぶる」所有者ハ
九十九年ノ間長期貸貸ヲ爲スモノトス而シテ長期貸貸ニ關スル權ハ
「らいふてなんと」ノ如ク法律上ノ權ヲ爲シ不動産權ノ一種ナラヌモノ
ナリ英國ノ法律ニテハ封建制ノ理論ヨリ長期貸貸權利ヲ動産權ニ屬
スト雖モ固ト歴史ニ基キシ者ニテ理論ニ依ル者ニアラサレハ斯ニ之

ヲ名ケテ不動産ノ一部ト云フ是レ理ニ於テ素ト不動産ニ屬スレハナ
リ若シ九十九年ヲ經過シタル後地主ヨリ之ヲ取戻スコトナク借主依然
其地ニ住スルキハ其期限後ノ借用期限ハ各一ケ年ト定ム若シ又地所
ヲ借入ル、ニ當リ其期限ヲ定メサルキハ一ケ年ノ期限トシ貸主ヨリ
六ケ月以前ニ其立退ヲ命スルモノトス故ニ一月一日ニ土地ヲ借入レ
六月三十日マテニ立退ノ報知ナキキハ次年モ之ニ住スルノ權利アリ
土地ヲ借入ル、ニハ其地代ヲ拂ハンコトヲ約シ又其借用ニ付特別ニ約
シタルコトヲ履行センコトヲ約スルモノトス而シテ地主若シ九十九年ノ
後ニ續ケテ其土地ヲ貸サント欲スルキハ新ニ其約定ヲナシ然ラサレ
ハ家ヲ立退カシメ耕作地ナレハ其年ノ收穫ヲ借主ニ於テ取入レ家屋
アレハ其家屋ハ皆地主ノ所有ニ歸スルモノトス
斯ノ如ク長期貸貸ノ期限盡クルニ當リ地主ノ之ヲ取戻スノ權ハ洪大

ナルヲ以テ倫敦ウゑすとみんすた一區ノ所有主ナルウゑすとみんす
た一公ハ近々其地ノ期限盡クルニヨリ非常ノ利益ヲ占ムヘシトハ世
人ノ話柄トスル所ナリ

英國ノ不動産及ヒ之ニ關スル權利ハ甚々大ナリ蓋シ英國ノ地主即チ
華族ハ日本ノ華族ノ比ニアラス常ニ其位地ヲ保チ國事ニ參與シ百事
皆國民ニ先ツテ之ヲ爲ス而シテ其之ヲ達スルニ當リテヤ財産ナカル
ヘカラス故ニ之ヲ同族内ニ保存スルノ念アルヲ以テ不動産ハ其血統
内ニ止メントチ欲シ漫ニ身代限等ヲ爲サス法律家ハ種々ノ方法ヲ考
出シ假令其財産ヲ授受スルモ尙ホ之ヲ同族内ニ止メントチ欲シ之ニ
關スルノ法律アリ諸君ニシテ若シ英人トシテ英國法ヲ學フ者ナラシ
メハ之ヲ講述スルノ要アルヘシト雖モ我法律ヲ研究スルノ參考トシ
又ハ英國法ニヨリ法律ノ能力ヲ養成セントスル諸君ニシテ更ニ之ヲ

講述スルノ要ナカルヘシト信ス彼ノ甲ヨリ乙ニ土地ヲ賦與スルコト
ノ生涯間又ハ期限間使用セシムル如キ我國ニアリテハ甚々稀有ノ事
云フヘシ又乙ト其子ニ丙ノ生涯間財産ヲ賦與シ若クハ乙ト其當時

ノ妻ニ依リ舉ケタル子ニ財産ヲ賦與スト云ヘルカ如キ制限ヲ作り爲
メニ錯雜ノ理ヲ生スルニ至リシ者アリ此等ハ爰ニ講述スルノ勞ヲ省
キ單ニ英國法ノ不動産ニ付キ存スル權利ヲ論スルニハ「ふいゑんぶる」
「ふいふてなんど」及ヒ長期賃貸ノ三項ヲ説明スルノミヲ以テ足レリト
ス蓋シ此等ニ關スルノ法理ハ皆參考トスルノ利益アリト信スレハナ
リ
以上講述シ來リタル所ニテ英國ニ於テ土地即チ不動産ニ付人民ノ有
シ得ル權利ノ何物タルヲ略論セリ故ニ之ヨリ右等ノ權利ヲ得ル手
續ニ付講述セントス而シテ其之ヲ講述スルニ當リテヤ正當ノ順序ニ
依ルキハ新ニ財産ヲ得ル手續ヨリ之ヲ始ムヘキナレト今日英國ナリ
我國ナリ世上人ノ知ラサル土地ナク各皆之ヲ所有シ時ニ或ハ蝦夷地
ノ如キ人ノ所有セサル土地之アルモ此等ハ政府ヨリ其得ル手續ヲ定

ムルカ故ニ今日ニ於テハ斯ノ如キ問題ハ唯法學ノ歴史トシテ考フルノ外殆ント實用ナシト云フテ可ナルヘシ故ニ余ハ直チニ進ンテ實地起ル手續ヲ講述セントス而シテ相續手續ヨリ始ムヘシ

相續ニ二種アリ法律ノ定ムル相續遺言ニヨル相續是ナリ法律ノ定ムル相續トハ其財産所有者死去シタルキ法律ヲ以テ其相續人ヲ定ムル場合ニシテ遺言ニヨル相續トハ死者遺言書ニヨリ財産ヲ渡スヘキ人ヲ指定シ相續セシムル場合ヲ云フ凡ソ英國ノ不動産ニ關スル法律ハ封建時代ノ田制ニ基キタルモノナルカ故ニ相續手續ニ至テモ亦皆封建ノ餘勢ヲ受ケタルモノナルヲ以テ英國不動産ニ就テ第一ニ論スヘキ者ハ法律ノ定ムル相續手續ニシテ遺言書ヲ以テ爲ス相續ニアラサルナリ

相續ニ關スル財産處分ノ規則凡テ九箇條アリ左ニ逐次説明スヘシ

第一則 凡ソ家督ハ第一ニ最終ノ得權者ノ直系ノ子孫ニ移ルヘキモノトス即チ人若シ遺言書ナクシテ死去シタルキハ其財産ハ死者ノ子孫ニアラスシテ得權者ノ系圖アル者ニ移ルモノトス茲ニ所謂得權者ナル者ハ相續ノ名義ニヨラス其他ノ手續ヲ以テ財産ヲ所有シタル者ヲ云フ譬ヘハ遺言書ニヨリ財産ヲ所有スル者はナリ

第二則 男子ハ女子ニ先ツテ相續ス

第三則 男子二人以上アリテ皆同等ノ親ナル時ハ長子之ニ相續シ女子二人以上アリテ男子ナキ時ハ女子皆共ニ相續ス譬ヘハ甲者乙丙ノ二男丁戊ノ二女ヲ有スル時ハ乙ハ長子ナルヲ以テ相續シ丙丁戊ノ三人ハ一切相續スルヲ得ス又其女ハ乙ヨリ年長ナルモ尙ホ相續スルヲ能ハサルモノトス若シ亦乙子ナクシテ死亡スル時ハ丙姉妹ニ先ツテ相續シ丙亦子ナクシテ死シタル時ハ丁戊ノ二女共ニ相續スルモノ

トス

長子相續法ハ遺言書ヲ以テ財産ノ相續ヲ定ムルコヨリ以前ニ發生シタルモノニシテ封建ノ制度ニ緣因シタル者ナリ歐羅巴大陸ニテハ長子ノミチ相續セシムルコナク其他ノ子女ニモ家督ノ幾分ヲ相續セシメ若クハ假令家督ハ長子ニ於テ相續スルモ其家督ノ中ヨリ相當ノ養育料ヲ其他ノ子女ニ與フヘキコトナレリ去レニ英國ニテハ古來長子相續ノ制ナレハ今日ニ於テハ男女婚姻スル時ニ當リ依テ生ル、所ノ長子ニ一家ノ家督ヲ讓與スヘキ財産處分書ヲ作ルコト通例ナリトス

第四則 死者直系ノ子孫限リナク其祖先ヲ繼イテ相續ス即チ其子孫ハ祖先ヲ代表シ猶ホ祖先ノ生存スルカ如ク同一ノ權利ヲ有ス前例ニ於テ甲ニ先ツテ長子乙死亡シ一人ノ子已チ殘ス時ハ已ハ丙及ヒ丁戊ニ先ツテ相續ス若シ又已子ナクシテ死シ其姉妹ヲ殘ス時ハ已ノ姉妹

ハ丙及ヒ丁戊ヲ除斥シテ相續ス

第五則 最終得權者ノ直系ノ子孫アラサル時ハ家督ハ最終得權者ノ祖先及ヒ其卑屬親ニ移ルモノトス譬ヘハ甲不動産ヲ有シ子ナクシテ死去スル時ハ其親乙之ニ相續ス若シ又其親ナキ時ハ其兄弟相續シ兄弟死シテ其子アル時ハ其子之ニ相續ス

第六則 最終得權者ノ父及ヒ父系ノ男ノ尊屬親並ニ其子孫ハ父系ノ女ノ尊屬親及ヒ其子孫ニ先ツテ相續ス又父系ノ女ノ尊屬親ト其子孫ハ母系ノ尊屬親及ヒ其子孫ニ先ツテ相續ス又最終得權者ノ母及ヒ母系ノ男ノ尊屬親及ヒ其子孫ハ母系ノ女ノ尊屬親及ヒ其子孫ニ先ツテ相續ス

右ノ規則ハ男又ハ男ノ血統ノ者チ女又ハ女ノ血統ノ者ニ先ツテ相續セシムルモノニテ普通ノ人情ヨリ言ヘハ不公平ナルカ如シト雖モ斯

ハ封建ノ制度ニ淵源セル者ニシテ封建ノ頃ニ當ツテハ獨リ用テ爲ス者ハ男子ニ限リタレハ斯ノ如キ法律ヲ生スルニ至リシナリ此法律ニ據ルキハ最終得權者ノ父及ヒ其父ト親族ノ關係ヲ有スルモノハ母ニ先チテ相續ス故ニ母ノ相續シ得ルハ父系ノ男女尊屬親及ヒ子孫トモ一切存在セサルキニ限ルモノトス而シテ父ハ右等ノ場合ニ於テ最近ノ男ノ直系ノ尊族親トシテ第一ニ相續シ若シ死亡スルキハ其子即チ最終得權者ノ兄弟之ニ相續スルモノトス

第七則 異父母ノ親族ハ同父母親族ノ盡キタル後ニ於テ相續スルヲ得依テ異父母ノ親族ハ同父母ノ同等親及ヒ其子孫ノ盡キタル後ニアラサレハ一切相續ノ權ナシ而シテ若シ分血ノ祖先男ナル時ハ同等親ノ子孫ノ後ニ於テシ若シ分血ノ祖先女ナル時ハ其祖先ノ後ニ相續スルモノトス

第八則 父系ノ女ノ尊屬親ノ相續スル時ハ父系ノ遠キ男ノ尊屬親ノ母及ヒ其子孫ハ父系ノ近キ男ノ尊屬親ノ母及ヒ其子孫ニ先ツテ相續ス若シ亦母系ノ女ノ尊屬親カ相續スル時ハ遠キ母系ノ男ノ尊屬親及ヒ其子孫ハ近キ母系ノ男ノ尊屬親及ヒ其子孫ニ先ツテ相續ス

第九則 最終得權者ノ子孫全ク盡クルカ又ハ其相續スヘキ人ノ子孫絶エタル場合ニ於テハ最終ノ相續者ヨリ其血統ヲ尋テ其相續者ハ恰モ最終得權者ナリシカ如ク之ヲ遇スルモノトス故ニ最終得權者遺言書ヲ作ラスシテ死去シ一人ノ男子ヲ殘シタルニ其男子モ亦死スル時ハ最終得權者ノ子孫ハ絶ヘタル者ナレハ此場合ニ於テハ母系ノ親屬若クハ其母殘ル時ハ其母ハ相續ノ名義ニ因リ之ニ相續スル者トス凡ソ英國法ニ於テハ私生ノ子ヲ嫌忌シ婚姻ニ依テ生シタル子ノ如ク同視セス故ニ私生ノ子ニハ一切相續ノ權利ヲ賦與セサルモノトス譬

此等ノ事ハ
古昔ノ法

へハ甲者乙女ト通シテ私生ノ子丙ヲ舉ケ死去スル時ハ甲ノ財産ハ私
生ノ子丙ニ於テ相續スルヲ得ス甲ノ父兄弟等ニ相續セシメ此等ノ
親屬ナキ時ハ政府又ハ領主ニ於テ其不動産ヲ沒収スルモノトス
斯ノ如シ英國相續法ハ封建ノ制ニ成レルモノナレトモ今日ニ於テハ法
律ニヨリ定メタル相續法ニヨラス財産處分書ヲ作りテ動産不動産ノ
處分ヲ定ムルモノトス故ニ甲乙婚姻セントスルニ當リテ甲乙ノ財産
ニ就キ其不動産ハ長子ヲシテ相續セシメ長子ハ生涯之ヲ所有シ若シ
死去スル時ハ又其長子ニ相續セシメ母ハ財産ノ幾分ヲ享有スルヲ得
得ルヲ通例トス
以上相續ノ事ヲ畧説シタルヲ以テ以下所有者ノ生存中ニ爲ス財産讓
渡ノ事ヲ論スヘシ
古昔封建ノ頃ニ在テハ不動産ヲ授受スルノ頗ル難ク又唯ふいぞんぶ

財産法

るニ限リシカ近來ニ至テハ書面ヲ以テ恣ニ授受シ得ルニ至レリ

「いぞんぶ」ヲ授受スルニハ書面ヲ以テスルヲ要ス書面ニハ賣主買
主双方ノ姓名住所職業、不動産ヲ賣買スル理由、代價、家宅田地及ヒ附屬
物、買主及ヒ其相續人ニ賣與スルヲ賣渡スヘキ土地ハ完全ニシテ後日
異議ノ生セサルヘキヲ買主ヲシテ享有セシムヘキヲ若シ賣渡ノ土地
ニ付負債アルキハ買主ニ於テ之ヲ引受クヘキヲ賣渡ニ付他ニ賣買ヲ
充分ニスル爲メ必要ナルキハ如何様ノ證書ニテモ之ヲ作ルヘキヲ賣
主買主双方ノ記名調印、年月日ヲ記シ其裏面ニハ代價ヲ受取リタル旨
ヲ記入ス、而シテ又二人ノ證人ヲシテ之ニ署名捺印セシメ印税規則ニ
定ムル所ニ從ヒ相當ノ印紙ヲ貼付スヘキモノトス
以上不動産ノ賣買ニ關スル讓渡手續ヲ略説シタレハ次ニ不動産ニ關
スル遺言書ヲ以テナス讓渡ノ事ヲ略説スヘシ

此等ノ事ハ
古昔ノ法

財産法

英國ノ不動産ハ古代ハ相續法ニヨリ讓渡スモノニテ遺言書ヲ以テ讓渡スコトハ許サ、リシカ今日ニ於テハ法定ノ式ニ從ヒ遺言書ヲ作ルハ不動産ノ何タルニ拘ハラズ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘシ遺言書ハ自ラ之ヲ認ムルカ又ハ自ラ記名調印シ若シハ己ノ面前ニ於テ代人ヲシテ差圖ニ從ヒ之ニ記名調印セシメ二人以上ノ證人ノ前ニ於テ記名ノ正シキヲ證明シ而シテ證人ハ之ニ參坐シタル旨ヲ記入スルモノトス遺言書ハ生存中何時ニテモ之ヲ作ルコトヲ得レヒ其効ハ遺言者ノ死去シタルキ初メテ生スルモノトス故ニ其死前ニ在テハ何時ニテモ無効トスルコトヲ得ヘシ譬ヘハ婚姻スレハ無効トナリ破毀燒却スレハ無効トナルカ如シ去レヒ遺言書正當ニ成リタル上ニテ筋ヲ引キ之ヲ取消スコトアルモ無効トナラス若シ變更シタルキハ其變更ノ傍ハラニ姓名ヲ記スヘシ

或ル場合ニ於テハ遺言書ニ一通ノ添書ヲ附スルコトアリ此場合ニ於テハ添書ニ効力アルモノニシテ其抵觸スル分ハ本書ノ方効力ナキモノトス斯ノ如ク一タヒ作リタル遺言ノ本書ハ添書ヲ以テ之ヲ變更消滅スルノ外正當ナル途ニ依リ之ヲ取消シ得ヘキモノナリ又遺言書ヲ作りタル後ト雖モ其財產ヲ賣ルコトヲ得ヘシ故ニ此場合ニ於テハ其部分丈ハ無効トナルモノトス蓋シ遺言書ハ死後ニ至リ始メテ効ヲ生スヘキ者ナレハナリ故ニ遺言書ヲ作りタル後財產ヲ得ルコトアルキハ同シシ遺言書ニ依リ所分スヘキモノトス尤モ其書ニ之ヲ除ク旨ヲ記載スルキハ此限ニアラス遺言書ハ之ニ依リ讓ル財產ノ何物タルト讓受人トヲ明示スル者ナリ去レヒ時ニヨリ讓受人ノ在ラサル場合アリ此時ニ於テハ其財產ヲ讓リ受クヘキ人ヲ遺言者ニ於テ指名スルキハ格別其他ハ相續者ニ於テ

相續スヘキモノトス而シテ斯ノ如キ場合ニ於テハ假令遺言書ニ甲及ヒ其子孫ニ讓渡スヘキ旨ヲ記入シアルモ其効ナシ何トナレハ甲ノ相續人ハ甲ノ相續シタル後ニアラサレハ之ヲ有スルコト能ハサル者ナレハナリ

英國不動産ノ規則ニヨリ生存中賣買ニヨリ「ふい玄んぶる」ヲ與ヘンニハ必ス買主甲及ヒ其相續人ニ賣渡スヘキ旨ヲ記載セサルヘラカス若シ之ヲ記載セサルニ於テハ甲生存間ノ所有ニ止マルモノニテ凡テ嚴重ニ解釋スヘキモノトス故ニ「ふい玄んぶる」ヲ讓渡ス者トセサル作ハ必ス生涯間ノ所有權ニ止マルモノトス去レテ遺言書ノ場合ニ於テハ寧ロ遺言者ノ意思ニヨリ解釋スヘキモノトス蓋シ遺言書ハ死去ノ際ニ當リ老人ノ認ムル者多キニ居ルヲ以テ通常ノ現則ニヨラス遺言者ノ意思ノアル所ヲ尋ヌルヲ法トスレハ假令相續人ノ字ヲ加記セサル

Handwritten note: 遺言書

モ必スシモ生涯間ノモノ所有權ヲ讓與セシモノト云フヲ得サルナリ以上遺言書ニ就キ之ヲ講述シタレハ次ニ遺言書ニ依リ配當ヲ受クヘキ人ニ就テ講述セントス遺言書ニ依リ配當ヲ受クヘキ人ニ二種アリ(第一)尋常配當受取人(第二)殘額配當受取人之ナリ尋常配當受取人トハ遺言者ノ指名シタル人ニシテ第一ニ遺言者ノ指定シタル物品ヲ領取スル者ヲ云ヒ殘額配當受取人トハ尋常配當受取人ニ於テ之ヲ得ル前死去スル時ニ於テ其受クヘキ殘額ヲ受クル人ヲ云フ前既ニ講述シタルカ如ク遺言書ハ遺言者ノ死去シタル時ニ於テ始メテ其効ヲ生スルモノナレハ若シ遺言書ヲ作りテヨリ死去スルマテノ間ニ其遺言書ヲ變更スルコトアルハ前ノ遺言書ハ無効ニ屬スルモノトス故ニ尋常配當受取人若シ遺言者ノ生存中ニ死去スルキハ其受ク

〜キ財産ハ最早殘額配當受取人ニ於テ之ヲ得ルヲ能ハス相續人ノ受
ク〜キモノトセシカ右ハ徒ラニ字句ニ拘泥シ理單ニ論理ニ偏倚シテ
便宜ヲ考ヘサリシニ依リ實際大ニ不都合ヲ生シタリシカハ法律ハ之
ヲ改正シテ尙ホ殘額配當受取人ニ於テ尋常配當受人ノ受取ル〜キ財
産ヲ得ヘキモノトセリ

又尋常配當受取人ニ於テ遺言者ノ生存中死去シタル時ハ假令其遺言
書ニ尋常配當受取人及ヒ其子孫ニ讓與ス〜キ旨ヲ記載シアルモ其子
孫ニ於テ之ヲ得ルヲ能ハストセシカ之レ亦不都合尠カラサルヲナレ
ハ今日ニ於テハ或ル場合ニハ其子孫ニ於テ得ルヲトナレリ前ニ相續
法ヲ講述スル時ニ當リ若シ死者ノ不動産ヲ相續ス〜キ人分明ナラサ
ルキハ最終得權者ヨリ始メテ之ヲ搜索ス〜キ旨ヲ説明セリ故ニ此場
合ニ於テハ尋常配當受取人ハ即チ最終得權者ナリトス

42

administrator
executor

之ヨリ人ノ死後財産ヲ處分ス〜キ人ニ就テ講述ス〜シ即チ斯ノ如キ
人ヲ稱シテ遺產處分人ト云フ

諸君ハ既ニめいん氏法律沿革論第六章ニ於テ昔時羅馬法ニヨレハ一
家ノ財産ハ動産、不動産共ニ法定又ハ遺言書ニ依リ指名シタル相續人
ニ於テ處分セシヲ學ハレシナラシ然レモ英國法ニ於テハ動産不動
産各其法律ノ源ヲ異ニセルカ故ニ不動産ハ悉ク相續人ノ處分ス〜キ
モノニテ假令相續スルヲ好マサルニモセヨ必ス一度ハ之ヲ受ケサ
ルヲ得スト雖モ動産ハ之ニ反シ遺言ノアリタルキハ遺言者ノ指定シ
タル財産管理人ヲシテ之ヲ主トラシメ若シ遺言ナキハ裁判所ヨリ
撰定シタル財産管理人ニ於テ之ヲ處分ス〜キモノトス
動産處分人即チ財産管理人ハ素ヨリ不動産ノ處分ヲナスヲ能ハサレ
モ若シ同一ノ遺言書ノ中ニ動産不動産共ニ讓渡ス〜キ旨ヲ記載シア

ル時等ニ於テハ其不動産ヲ處分シ得ルノ權アリヤ法律ハ特ニ遺言書ニ於テ其不動産處分ノ權ヲ附與シタル場合ニアラサレハ一切之ニ干渉スルヲ能ハストセリ

去レト死者若シ其不動産ヲ以テ負債ヲ辨償スヘキ旨ヲ遺言書ニ記載シ置クキハ財産管理人ニ於テ之ヲ賣却スルモ可ナルヘク或ハ書入質トナスモ可ナルヘシ而シテ其得タル金員中ヨリ負債ヲ辨償シ或ハ配當金ニ充ツルモノトス

凡ソ財産管理人ハ他人ノ財産ヲ取扱フ者ナレハ其責任甚ク重シ故ニ不動産ヲ賣却又ハ書入質トナスモ漫ニ之ヲ爲スヲ能ハス殊ニ買主若クハ質取主ト雖モ漫ニ是ト取引スルヲ許サス或ル場合ニテハ必ス先ツ何ノ爲ニ賣却若クハ書入質ヲナスヤ其者ハ果シテ之ヲナスノ權利アルヤヲ調ヘタル上ニアラサレハ買取若クハ質取スルヲ能ハサルモ

財産法

ノトス譬ヘハ遺言書ニ記載シタル不動産ノ中ヨリ配當金ヲ作出スカ如キ場合ニ於テ其不動産ヲ賣却若クハ書入質トナサント欲スルキハ之カ買主若ハ質取主タルヘキ者ハ財産管理人カ果シテ其權利アリヤ否ヤヲ調ヘサルヘカラス然レモ若シ配當金ノ如ク一定シタルモノニアラスシテ買主若クハ質取主ニ於テ容易ニ之ヲ調フルヲ能ハサルモノナルキハ必シモ調査スルニ及ハサルモノトス

財産管理人ノ權利義務ニ就テハ親族法ニ於テ之ヲ説明スヘキモノナレハ爰ニ贅セズ

凡ソ英國ノ法律ハ「こんもんろー」及ヒ「ゑくいちーろー」ノ二種アリ「こんもんろー」ハ古來ノ慣習ニ本キタルモノニシテ「ゑくいちーろー」ハ「こんもんろー」ノ足ラサル所ヲ補ヒ其嚴ヲ剛リ其弊ヲ矯ムル爲メニ起リタルモノナリ今日ニ於テハ「ゑくいちーろー」尤モ行ハレ且勢力甚ク大ヒ

ニシテ殊ニ財産法ニ關シテハ其勢力尤モ大ナリトス今財産法ヲ講述スルニ當リ「こんもん、ろー」ト「ゑくいち、ろー」トノ區別ヲ論スルハ贅辦ニ似タリト雖モ財産授受手續ニ就キ「ゑくいち、ろー」ハ大ニ「こんもん、ろー」ヲ改正シタレハ今其場合ニ關スル部分ノミヲ説明セントス而シテ其詳細ナルハ法學通論ニヨリ之ヲ了得スヘシ

太古ノ者ハ精神ヨリ寧ロ外形ヲ貴フノ弊アリ故ニ不動産授受手續ニ關シテモ亦古代「こんもん、ろー」ノ頃ニアリテハ封建制度ニ要スル外形ノ体裁ヲノミ飾リ毫モ實地ノ利害ヲ顧ミサリシカ「ゑくいち、ろー」ハ之ヲ改良シテ大ニ其弊害ヲ矯正セリ蓋シ封建ノ頃ニ於テハ不動産ヲ所有スル者ハ從軍ノ義務アリ故ニ王家及ヒ領主ハ不動産ヲ其配下ノ者ニ所有セシメ是等ニ軍役ノ義務ヲ負ハシ代々相續テ軍役ニ服セシメノカ爲メ其不動産ヲ配下ノ外ニ出テサランヲ務メタリ然レモ此

目的ヲ達スルニ其頃貴ヒシ外形ノ手續ニノミ注意シ實地ノ利害ヲ顧ミサリシカ故其頃ノ學者タル僧侶ハ各己レカ基礎ヲ鞏固ニセント欲シ漸々封建ノ不動産ヲ寺院ニ略取スルニ至レリ夫レ不動産ノ軍人ノ手ニアルヤ從軍ノ義務ヲ子孫ニマテ及ホシ若シ子孫ナケレハ之ヲ取上ケテ他ノ軍役ニ任ユヘキ者ニ與フルカ故領主ハ常ニ軍人ヲ養成スルニ餘裕アリト雖モ一タヒ不動産寺院ノ手ニ入ルキハ寺院ハ永久不朽ノ者ニシテ亦其不動産領主ノ許ニ戻ルヲナシ之ヲ以テ政府ハ法律ヲ設ケ凡不動産ハ寺院ニ讓渡スコト能ハスト布告セリ於是其頃ノ僧侶ハ亦解釋ヲ下シテ曰ク假令寺院ハ不動産ノ名義主トナルヲ能ハサルモ之カ使用ヲ爲スコトハ不可ナカルヘシト故ニ寺院ノ不動産ヲ所有セントスルキハ其名義丈ケ他人ノモノトシ實ハ寺院ノ所有トナシ遂ニ不動産武人ノ手ニ在ルヲ稀少ナルニ至レリ

又封建ノ頃ニ當ツテハ人徒ヲニ外形ノ体裁ノミニ心醉セシカ故ニ田地ヲ買フニ封建制度ニ要スル手續サヘ履行セハ一錢ノ代價ヲ拂フニ及ハスト定メタレハ詐欺ノ手段屢々起レリ之ヲ以テ「えくいちゝろ」ハ其弊害ヲ矯正センカ爲メ假令封建制度ノ要スル手續備具スルモ之カ代價ヲ拂ハサル以上ハ其取引ハ無効ニシテ尙ホ田地ハ賣主ノ所有ナリ故ニ「こんもんゝろ」ニ於テハ既ニ買主ニ移レリトスルモ「えくいちゝろ」ニ於テハ其田地ハ唯賣主ノ爲メニ預カルモノナリト云ヘリ然レヒ亦「えくいちゝろ」ノ理由ヲ免ル、コ敢テ難キニアラス何トナレハ凡ソ物ヲ賣買スルニ代價ヲ要ストハ云ヘ其當不當ヲ問ハサルカ故ニ僅少ノ代價ヲ與フルモ之ヲ以テ「えくいちゝろ」ノ理由ニ反セス正當ニ買主タルコトヲ得レハ甲ノ丙ニ田地ヲ讓渡サントスルヤ乙ノ名義ニテ賣渡シ乙ハ至僅ノ代價ヲ拂フテ其所有權ヲ得實ハ丙ノ預リ主

トシテ之ヲ有スルニ至レリ
斯ノ如キ名義主ハ其實用ナキヲ以テ遂ニ軍役ニ從事スルコト能ハサルニ至リケレハ法律ハ亦布告シテ凡ソ何人ニテモ己レノ名義ニテ他人ノ爲メニ財産ヲ所持スルキハ法律上其名義主ヲ以テ所有主トセス實地財産ノ利益ヲ受ル者ヲ以テ所有主トナスヘシト云ヘリ之ヲ以テ甲カ丙ニ財産ヲ與ヘント欲シ乙ノ名義ニテ讓渡スルキハ其所有者ハ丙ニシテ乙ハ假令名義主ナルモ法律上所有主トハ見サルニ至レリ於是僧侶ノ輩ハ再ヒ辭ヲナシテ曰ク假令甲カ丙ノ爲メニ乙ヲシテ財産ヲ所有セシムルキハ其實丙ヲ以テ所有主トナスモ若シ甲カ乙ヲ以テ財産所有ノ名義主トナシ丙ヲシテ丁ノ爲メニ其財産ノ預リ主ヲラシムルキハ丁ハ其實財産ノ所有主ナルモ法律上之ヲ以テ所有主ナリトハ云フコト能ハサルヘシト云ヘリ蓋シ法律ハ乙カ丙ノ爲メニ所有スルコト能

ハストハ云フモ丙カ丁ノ爲メニ所有スルヲ能ハストハ云ハサレハナ
 リ
 以上ノ事蹟ニヨリ英國財産法中尤モ勢力ヲ有スル財産管護ノ制起ル
 ニ至レリ蓋シ今日ニ於テハ「こんもん、ろー」及ヒ「ゑくいち、ろー」ノ間各
 一致シ凡ソ他人ノ爲メニ財産ヲ預ル者ハ假令其名義ハ預リ主ノモノ
 ナルモ其利益ハ之ヲ受クヘキ人ノ爲メニ保護セサルヲ得ス故ニ婚姻
 ノ時ニ當リ其新婦ノ親新婦ニ財産ヲ與ヘントスルモ夫ノ之ヲ費消セ
 ンヲ慮ハカルキハ其財産ヲ管護人ノ名義ニテ所有セシメ其利益ヲ
 新婦ノ用ニ供スルモノトス、又救育院學校等ニ財産ヲ寄附セントスル
 ニ當リ己レノ目的外ニ費消セシメサラント欲スルキハ財産管護人ヲ
 設ケ以テ其目的ヲ達スルモノトス故ニ今日英國ニ於テ財産ヲ保護ス
 ルニハ「トシテ」財産管護ノ道ニヨラサルハナシ

財産法

元來英國ノ法律ヲ講述スル通則ニヨレハ「あんもんろー」及ヒ「ゑくいち
 ーろー」ノ二派ニ區別スレトス、斯ハ古代ノ區別ニ依ル者ニシテ今日ハ之
 ナ區別セス若シ其間ニ相牴觸スルコアルキハ「ゑくいち、ろー」ニ從ヒ
 之ヲ處分スルモノトス而シテ「あんもんろー」ノ權利ヲ稱シテ「どー」が
 らいと「ト云ヒ」ゑくいち、ろー」ノ權利ヲ稱シテ「ゑくいち、ろー」が
 ト云フ譬ヘハ甲ハ財産管護者ニシテ其名義主トナリ乙實際ノ持主ナ
 ルキハ甲ノ權利ヲ「どー」がらいと「ト云ヒ」乙ノ權利ヲ「ゑくいち、ろー」
 がいと「ト云フ」之ヲ以テ今田地ノ所有者甲ナル者乙及ヒ其子孫ニ田地
 ヲ讓渡サントスルニ當リ丙ニ宛テ、乙ノ使用スル爲メ之ヲ讓渡スル
 ハ法律ノ所謂所有者ハ丙ニシテ丙ハ之ヲ乙ノ爲メニ預カリ乙ヲシテ
 其利益ヲ受ケシムル者ナレハ丙ノ有スル權利ハ即チ「どー」がらいと「
 ニシテ」乙ノ有スル權利ハ即チ「ゑくいち、ろー」がらいと「ナリ」而シテ此丙

財産法

ガ乙ノ爲メニ財産ヲ預カルコトヲ名ケテ「どらそと」ト云ヒ丙ヲ「どらそち
 ー」ト稱シ乙ヲ「せそちゆい、く、どらそと」ト稱ス且斯ノ如ク乙ノ有スル財
 産ヲ「えくいて」ト云フ、えそて「どらそと」ト云ヒ丙ノ有スル者ヲ「どらそち
 て」ト云フ其詳ナルハ後同之ヲ説明スル所アルヘシ
 「どらそと」ノ法律ハ英國財産法中尤モ勢力アルモノニシテ「ろー」るど、ち
 やんせろる」ノ管理スル裁判所ノ慣行ヨリ始マレリ元來英國ニ於テハ
 「えくいちー、ろー」ト「あんもん、ろー」トノ二種アレヒ今日ニテハ其區別ナ
 ク若シ其間ニ異ナルコトアルキハ「えくいちー、ろー」ニ從フヘキコトハ既ニ
 説明シタルカ如シ而シテ「どらそと」ハ「えくいちー、ろー」ノ中最モ至重ナ
 ルモノナリ往昔ニ在ツテハ「あんもん、ろー」裁判所ハ「どらそと」ヲ認知セ
 ス故ニ亦丙ハ乙ノ爲メニ預カル者ナルコトヲ認メスシテ全然丙ヲ以テ
 所有者トナス之ヲ以テ「えくいて」ト云フ、らいど」ヲ有スル者ハ「あんもん、

ろー」裁判所ニ於テハ敗訴スヘシト雖モ更ニ「えくいちー、ろー」裁判所ニ
 訴ヘ其「えくいて」ト云フ、らいど」ヲ主張シ以テ其權利ヲ確守スルコトナリ
 シカ今日ハ其區別ヲ合同シ常ニ「えくいちー、ろー」ノ主義ヲ採ツテ裁判
 ノ標準トスルコトナレリ尙ホ之ヲ詳説スレハ「えくいちー、ろー」ノ濫觴
 ハ此ノ如ク「あんもん、ろー」ヲ改良スルニアリシナレヒ其始ハ猶ホ其主
 義ノ狹隘タリシヲ免レサリシカ漸ク以テ其應用ヲ擴ムルニ至レリ譬
 へハ曩時ハ「えくいちー、ろー」裁判所ニ於テハ法律ノ許ス所ノ「あんぞと
 れ」ト云ふ「ナル理由ノ存セサル取引」ハ之ヲ許サ、リシト雖モ若シ五
 十錢ノ少額ニテモ代價トシテ拂フタルキハ鉅萬ノ取引ト雖モ之ヲ可
 トシ之ヲ取上ケタリ故ニ何人ガ所有權ヲ有スルヤ否ヤノ點ニ付議論
 起ルキハ單ニ右ノ理由存セシヤ否ヤノ一點ヲ以テ判決セシカ今日ニ
 於テハ詐欺錯誤等取引ノ正否ヲ疑フノ證端アルキハ斯ノ如キ讓渡ナ

カリシモノトシ譲受人ノ得シ所ノ財産ハ譲渡人ノ「どらそち」トシテ
 預カリタルモノトスルニ至レリ故ニ「ゑくいち、ろ」ハ右ノ場合ハ孰
 レニテモ「どらそち」ノ理ニヨリ處分スルコトセリ
 英國ニテ「ゑくいち、ろ」ハ「あんもん、ろ」ニ勝リ「どらそち」ノ法律ヲ創
 始シタレトモ之ヲ解釋スル等ノ事ニ至リテハ「あんもん、ろ」ノ用例ニ從
 フモノトス譬ヘハ不動産ヲ「どらそち」ノ制ニヨリ譲渡スルハ唯其譲渡
 方法異ナルノミニテ其他「あんもん、ろ」ニ從ヒ要スル丈ノ文言ヲ用ヒ
 タルキハ「あんもん、ろ」ニ於テ許ス所ノ効力アルモノトス去レト「ゑく
 いち、ろ」ニ於テハ凡ソ事ノ爲スヘキモノハ實際之ヲ爲シタルト爲
 サ、ルトナ問ハス渾ヘテ之ヲ爲シタルモノト認定ス故ニ財産譲渡人
 ガ差圖セシ如ク處分セサルモ既ニ之ヲ處分シタルモノトナスコトアリ
 譬ヘハ甲カ乙ニ土地ヲ托シ其土地ヲ賣却シテ他ノ田地ヲ買ヒ之ヲ丙

ニ譲渡スヘシト差圖シタルキハ其差圖書ヲ作ルヤ否丙ハ新ナル田地
 ナ所有スルモノトシテ之ヲ論スヘキモノトス故ニ亦前ノ土地ヲ賣却
 シテ未ダ新ナル田地ヲ買ハサルキハ其金員ハ不動産ノ性質トシテ論
 スルモノトス、又若シ甲カ乙ニ金圓ヲ托シ其金圓ヲ以テ田地ヲ買ヒ之
 ナ丙ニ譲渡スヘシト差圖シタルキハ乙未ダ田地ヲ買ハサルモ其金圓
 ハ土地ノ性質ヲ以テ論スルモノトス
 又財産ヲ譲ル場合ニ於テ土地ヲ買ハン爲メ契約ヲナスキハ未ダ其讓
 渡書ハ作ラサルモ既ニ譲渡アリタルモノトス故ニ其契約ノ時ヨリ買
 主ハ財産權ヲ得譲渡人ハ「どらそち」トシテ之ヲ預カルモノナリ之ヲ
 以テ買主若シ死去スルキハ其相續人ノ「どらそち」トシテ預カルモノ
 トス又若シ前例ニ於テ土地ヲ買フヘキ金圓若クハ金圓トスヘキ土地
 ニシテ其性質ヲ變スヘキ者ノ未ダ利益ヲ得サル前ニ死去スルキハ不

動産トナルヘキモノナレハ相續人之ヲ取り動産トナルヘキモノナレハ動産處分人之ヲ取ルモノトス蓋シ土地ニスヘキ金圓ナレハ土地ヲ以テ論シ金圓ニスヘキ土地ナレハ金圓ヲ以テ之ヲ論スレハナリ前ニ講述セシ如ク財産權ハ「ぢゆそ、いん、れむ」即チ定マラサル人ニ對スル權利ニシテ契約權ノ如キハ「ぢゆそ、いん、べるそねむ」即チ定マリタル人ニ對スル權利ナルヲ云ヘリ今「どー」が、る、らいと「及ヒ」をくいて「ぶる、らいと」ナ右ノ二類ニ配合スルキハ「どー」が、る、らいと「ハ定マラサル人ニ對スル權利ノ一種ニシテ」をくいて「ぶる、らいと」ハ定マリタル人ニ對スル權利ノ一種ナリ故ニ「どー」が、る、をふある「即チ」「どー」が、る、をくいて「ぶる、らいと」ノ所有主ハ「ぶんもん、ろー」ノ勢力ニヨリ定マラサル世上ノ公衆ニ對シテ財産ヲ所有スルノ權ヲ有シ「をくいて」ぶる、をふある「即チ」をくいて「ぶる、をくいて」ノ所有主ハ「どー」が、る、をふある「即チ」どらそちー」ニ

財産法

對シ己レノ爲メニ委託サレタル處分ヲ盡サシムルノ權ヲ有ス「をくいて」ぶる、をくいて「ど」ヲ讓渡ス書式文言即チ「どらそど」ヲ爲スノ法式ハ別ニ一定ノモノトテハナク只「どらそど」ヲ爲スノ意明瞭ニシテ書面ニ認メ調印シタルモノナルキハ足レリトス凡ソ「をくいて」ぶる、をくいて「ど」ハ「どー」が、る、をくいて「ど」ト同シ「ぶんもん、ろー」ノ規則ニ從ヒ處分スヘキモノニシテ其持主ニ負債アル時ハ之レカ辨償ニ充テサルヘカラス以上「どらそど」及「どらそちー」ノ法律ノ起原ヲ畧論セリ以下其有用ナル所以ヲ説明スヘシ

不動産ノ法律ハ英國豪族ノ財産ヲ管護スル爲メニ起リタルモノニシテ英國ノ不動産ハ舊諸侯及ヒ巨富豪ノ所有スル所ナリ而シテ該貴族等ハ此等巨萬ノ財産ヲ永久一家内ニ保持シ永ク我家名ヲ發揚セント

欲スルカ故ニ百方此等ノ手段ヲ旋ラシテ至ラサルナシ去レハ長子相
 續法ヲ設ケテ其財産ヲ長子ノ所有ニ歸セシメ敢テ他家ニ分離セシメ
 スト雖モ猶ホ之ヲ以テ足レリトセス更ニ他ノ制度ヲ採用スルニ至レ
 リ即チ貴族ノ婚姻セントスルヤ新婦ノ財産ニ付處分書ヲ作り之ヲ以
 テ婦ノ財産ヲ永シ一家内ニ止メ子々孫々ニ傳ユルニアリ英語ニテ此
 處分書ノ「セ」セとるめんどト稱シ夫生存間ハ其所有ニ歸シ婦ハ其間
 相當ノ小使料ヲ得若シ夫死亡スル時ハ其財産ノ中ヨリ婦ニ相當ノ生
 涯扶持ヲ與ヘ又其上リ高ノ中ヨリ女子及ヒ二男三男等ニ相當ノ分配
 金ヲ與フルノ外餘ハ皆長子ノ所有ニ歸スルモノトス而シテ長子亦死
 去スル時ハ其財産ヲ其子ニ與ヘ其子婚姻スル時ハ亦同上ノ處分ヲナ
 シ斯ク親族中ニ相輪轉シテ遂ニ他家ニ移ル時ナシ
 又若シ長子死シテ子ナキ時ハ次男其財産ヲ所得シ次男亦死去シタル

時ハ其子之ヲ所得ス而シテ其子若シ女子ニシテ他ニ男子ナキ時ハ其
 女子之ヲ所得ス女子ノ之ヲ所得スルモ亦同一ノ方法ニヨリ「セ」セとるめ
 んトノ定ムル所ニヨルモノトス
 斯ノ如ク財産ヲ永ク一家ニ止メテ他ニ流通スルヲ妨クルハ今日文
 明ノ社會ニ於テハ甚ハタ嘉ミスヘキ「ト」ニハアラスト雖モ法律ハ以テ
 人力ニ勝ツヘカラサレハ到底之ヲ抑制スルヲ能ハス遂ニ貴族ノ財産
 ハ永久不拔容易ニ動シ得ヘカラサルニ至レリ而シテ此等財産ノ處分
 ヲ定ムルニ就テハ爰ニ「どらそと」及ヒ「どらそち」ノ用起ルニ至レリ蓋
 シ斯ノ如キ財産ヲ讓渡スニハ先ツ之ヲ「どらそち」ニ讓リ「どらそち」
 ヲシテ「せ」せとるめんどノ定ムル所ヲ處分セシムルモノナレハナリ
 又長期貸貸ハ前ニ講述シタルカ如ク元來九十九年間ノモノナレト時
 トシテハ千年間長期貸貸ヲナス「ア」アリ其場合ノ一例ヲ舉ケレハ甲者

乙ニ土地ヨリ上ル收穫高チ附與セント欲スレモ其所有ノ名義ハ尙ホ
 己レニ有セントスル時ハ乙ニ千年間長期貸貸チナスカ如シ千年間ト
 ハ之チ口ニ言フヘキモ實際爲シ能ハサルコト即チ人ノ一生タル千
 年ニ達スルモノニアラサレハ此權利チ附與セラレタル者ハ永久（以
 玄んぶる）チ有スルト云フニ異ナラサレモ到底其人ハ生涯間其收穫チ
 享有スルト云フニ過キサルナリ故ニ乙ハ其土地ニ付有スル丈ノ所有
 權ナレハ其借用期限内ニ於テ之チ貸與ヘ或ハ質入シ若クハ賣却スル
 コトヲ得而シテ此等ノ場合ニ於テハ直ニ乙ニ讓渡スコトヲ爲スニアラス
 シテ先ツ第三者ナル丙チ以テ「どらそち」ト爲シ之ニ讓渡シテ乙ノ爲
 メニ預カラシメ其土地ヨリ上ル利益若クハ其土地チ長期貸貸ノ期限
 内賣却若クハ質入シタル金額チ以テ乙ノ受クヘキ分チ乙ニ附與シ其
 殘額ハ之チ甲ニ與フルモノトス然ル時ハ甲ノ所有權ハ全ク而シテ乙

ハ「どらそち」ニ對シテ充分ノ權チ有シ丙ハ「どらそち」トシテ其義務
 チ負ヒ以テ甲ノ讓渡チシテ充分其目的チ達セシムルコトヲ得ヘシ是亦
 「どらそち」法ノ用法ナリ

又遺言書チ作り不動産ノ中ヨリ幾分ノ金額チ配當受人ヘ與ヘント欲
 ルカ或ハ之チ債主ニ拂ハント欲スル時ハ「どらそち」チ設ケ以テ「どら
 そち」ニ其不動産チ預カラシメ其収獲ノ中ヨリ配當受人ニ其受クヘ
 キ分チ給シ若クハ債主ニ其負債チ償却セシムルコトアリ
 夫レ斯ノ如ク「どらそち」ノ法ハ必要至重ノモノニシテ所有主ノ財產チ
 保護シ亦其土地ヨリ生スル利益チ受クヘキ者チ保護シ爲メニ英國ノ
 不動産ハ安全ナルニ至レリ故ニ若シ親族ナクシテ死去スル者アルモ
 其生前「どらそち」サヘ定メ置ク時ハ其者法律上ノ義務チ負ヒ識ラヌ
 知ラス財產ハ法律ノ保護チ受クルニ至ルヘシ

之ヲ以テ「どらそと」ノ制ニヨリ財産處分ノ方法ヲ定ムル時ハ「どらそち」ハ法律上最モ正直ニシテ且ツ嚴肅ニ其職務ヲ盡スノ義務アリ決シテ恣ニ其委託サレタル財産ヲ費消スルヲ得サルモノトス
 斯ノ如ク「どらそと」ノ法ハ英國ニ於テ要用ナルニ至リシヲ以テ今日ニ於テハ「せとる宛んど」ヲ作ル時ニモ遺言書ヲ作ル時ニモ他人へ金圓ヲ贈與スル時ニモ一家内ニ財産ヲ保持セントスル時ニモ夫婦間ノ財産權ヲ定ムル時ニモ長子ト其他ノ子女トノ權利ヲ定ムル時ニモ又死後負債ヲ辨償セシムル時ニモ皆「どらそと」ノ制ヲ用ユルヲトナレリ
 以下「どらそと」及「どらそち」ノ法律ヲ説明セントス而シテ此法ヲ説明スルコトハ先ツ「どらそと」ノ何者タルヤヲ明ニシ次ニ如何ニシテ「どらそと」ヲ作ルカ又如何ニシテ「どらそち」ヲ撰任スルカ「どらそち」ノ責任如何「どらそち」ヲ改撰スルノ方法如何等ヲ説明スヘシ

財産法

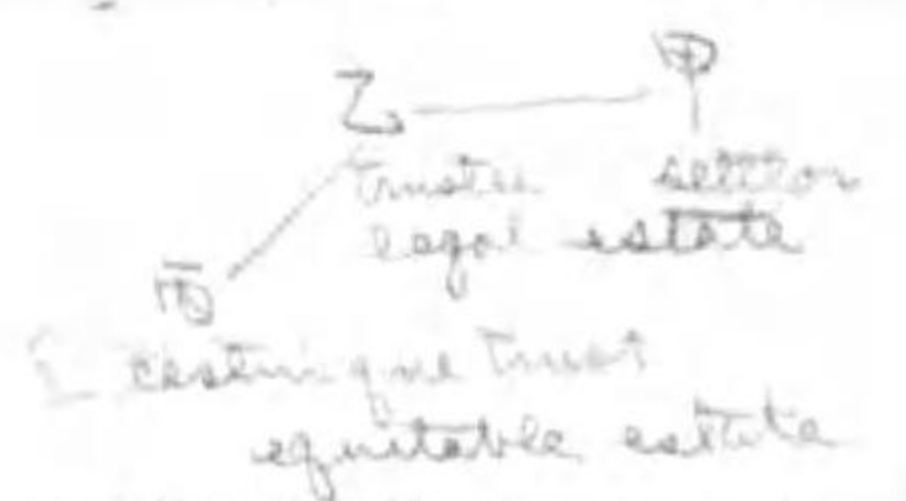
「どらすど」ハ財産保護ノ制度ニ關シタルモノニテ苟モ法律ニ於テ人民ノ權利ヲ保護スル以上ハ裁判所ノ外又他ニ保護ヲ要スル等ノ「ハナカル」ヘキカ如クナレモ實際已ムヲ得サルノ事ニシテ其保護ヲ要スルノ多少ハ職トシテ法律規則ノ不完ニ依レリ而シテ彼ノ自由權ノ如キ無形ノ權利ニ關シテハ其之ヲ犯サ、ラシムル所ノ規則ヲ設クルヲ以テ足レリトスレモ財産ノ如キ有形ノ權利ニ關シテハ啻ニ之ヲ犯サシメサルノ規則ノミナラス亦其財産ヲ保護スルノ規則ヲ設ケサルヘカラス譬へハ横濱ノ商人甲ナル者東京ノ商人乙ニ或ル物品ヲ賣却スヘキ約束ヲ爲シタルニ乙者不當ニモ之ヲ引取ルヲナサ、ルカ故ニ裁判所ニ訴フルヲアリトセンニ若シ裁判遷延シテ速ニ決セサルカ如キ「アテ」ハ假令甲者ハ勝訴トナルモ之カ爲メ非常ノ損害ヲ蒙リ時ニ或ハ物品ノ代價ニ超過スルノ損害ヲ受クルヲナシトモ云フヘカラス

財産法

故ニ財産ノ如キハ管ニ其權利ヲ犯サシメサルノ權利ヲ與フルノミナ
 ラス亦之ヲ保護スルノ道ナカルヘカラス所謂「どらすと」ハ此目的ニヨ
 リ設ケタル制度ニシテ其源ハ「えくいちろ」ノ力ニヨリ生シタルモ
 ノナレトモ今日ニ於テハ財産授受ノ方法ニ付渾テ用フルトハナレリ
 譬ヘハ爰ニ甲ナル者アリ正式ヲ履行シテ乙へ百万圓ノ公債證書ヲ讓
 渡シテ謂ヘラシ乙ハ丙ノ存命中此公債證書ヲ監護シ之ヨリ生スル利
 益ヲ丙ニ與ヘ若シ丙死スルハ丁ニ公債證書ヲ讓渡スヘシト此場合
 ニ於テ乙若シ其旨ヲ承諾スレハ乙ハ之ヲ盡スヘキノ責任ヲ生スヘシ
 即チ此乙カ丙丁ノ爲メ公債證書ヲ監護スルノ責任ヲ負フカ爲メ生ス
 ル所ノ事ヲ稱シテ「どらすと」ト云ヒ其正式ノ證書ヲ「せとるめんど」ト云
 フ
 之ヲ以テ今「どらすと」ノ實義ヲ下サハ「どらすと」トハ甲者乙ニ財産ヲ讓

渡シ其財産ヲ甲ノ差圖ニ從ヒ示ス所ノ目的ヲ達セシムル様此財産ニ
 付利益ヲ受クヘキノ人ノ爲メニ差圖通り目的ヲ實行セシムルノ責任ヲ
 負ハス所ノ關係ヲ云フ而シテ「どらすと」ニヨリ利益ヲ受クヘキノ者ハ一
 人ナルトアリ又二人以上ナルトアリ而シテ二人以上アル場合ニ於テ
 名義主自ラ受益者ノ一人ナルモ敢テ妨ナシ

「せとるめんど」ハ「どらすと」ノ事ヲ規定シ其方法及ヒ目的ヲ指示シタル
 正式ノ證書ニシテ此證書ニヨリ財産ヲ讓渡スノ人ヲ「せとるる」ト云フ
 「せとるる」ハ設令自ラ此證書ヲ作ラサルモ法律上ノ解釋ニヨリ之ヲ作
 リタリト見做ストアリ而シテ此證書ニヨリ財産ヲ讓受ク「どらすと」ノ
 爲メニ責任ヲ負ヒ之ヲ實行スヘキノ人ヲ「どらすち」ト云フ「どらす
 ち」モ亦「せとるる」ノ作リタル證書ニ依ラサルモ法律ノ解釋ニヨリ此
 責任アリトセラル、トアリ



又「どらすと」ヨリ其財産ニ關シ利益ヲ受クヘキ人ヲ「せすちゆいく」と
 らすと「ト云フ」どらすとノ處分ヲ受ケタル財産ヲ「どらすとぶろをるて
 い」ト云フ
 「どらすとぶろをるてい」ニ關シ「どらすち」ニ屬スル權利ヲ「ど」が
 る、
 又「どらすと」ト稱シ其法律上ノ名義ヲ有スルニ止マレモ博ク世上一般
 ノ人ニ對シテハ充分所有權ノ効アリ而シテ若シ之ヲ他人ニ讓渡サン
 ト欲スルキハ法律ニ定メタル讓與式ニヨルカ又ハ裁判所ノ命令ニヨ
 ラサルヘカラス又「どらすとぶろをるてい」ニ對シ「せすちゆいく」とら
 すと「ノ有スル權利ヲ名ケテ」
 「えくいて」
 「ぶるゑて」
 「ど」ト稱シ「ど」が
 る、
 又「どらすと」ノ所有主即チ「どらすち」ニ對シテハ其効アレモ博ク世
 上一般ノ人ニ對シテハ効力ナク之ヲ讓渡スニ正式ヲ履ムヲ要セサル
 モノナリ

「ど」が、
 「えくいて」
 「ぶるゑて」
 「ど」トノ差異ニヨリ法
 律上其趣ヲ異ニスルコトハ漸次之ヲ説明スヘシト雖モ此等ノ區別ヲ生
 スルハ獨リ「どらすと」ノ場合ノミニアラサシテ賣買契約其他ノ場合ニ
 モ之ヲ發見スルコトアルヘシ而シテ前ニ賣買ハ契約ナリヤ將タ權利移
 轉ノ手續ナリヤ此等ハ法律ノ定ムル所ニヨリ孰レニモ爲リ得ルコトヲ
 説明セシカ今此事ヲ參照スルヲ要ス譬ヘハ甲者其田地ヲ乙ニ賣ラン
 コトヲ約シ既ニ代價ヲ受取リタレモ未タ法律ニ要スル所ノ公債證書ヲ
 作り之ニ公證ヲナサハルノ間ハ尙ホ「ど」が、
 「えくいて」
 「ぶるゑて」
 「ど」ヲ有スルモ
 ノニシテ即チ「ど」が、
 「えくいて」
 「ぶるゑて」
 「ど」ヲ得タルモノニシテ即チ「えくい
 て」
 「ぶるゑて」
 「ど」ナリトス此場合ニ於テ甲者若シ正當ニ公證ヲ得タ
 ル上其讓渡證書ヲ乙ニ渡スルハ乙ハ更ニ「ど」が、
 「えくいて」
 「ぶるゑて」
 「ど」ナルヘ

カラシムルノミナラス其財産ニ關シテ丙ノ生存内ハ其レヨリ上ル利益ヲ收集シ依テ以テ之カ修繕ヲ加ヘ其火災保險料ヲ拂ヒ殘ス所ノ利益ハ之ヲ丙ニ拂ハシメ若シ丙死去スルキハ更ニ丁ノ爲メニ之ヲ預カラシムルカ如キ場合ニ於テ丙ノ爲メニ作リタル「どらすと」ハ「どべしある、どらすと」ナリ、而シテ此場合ニ於テ丙ノ死去シタル後ハ「どべしある、どらすと」ハ變シテ「えんぶる、どらすと」トナルヘシ蓋シ此場合ニ至レハ乙ハ唯「丁」ニ財産ヲ讓渡ス爲メニ財産ヲ預カル所ノ「どらすと」トナレハナリ

「えんぶる、どらすと」ノ「どらすと」ヲ名ケテ「えいぶ、どらすと」ト云フ「えいぶ」ト云フ、どらすと」ニモ亦財産ニ關シテ多少ノ權利ヲ有スル者ト有セサル者トノ二種アリ而シテ其權利ヲ有セサル「どらすと」ヲ稱シテ「べあどらすと」ト云フ

又「どべし」ある、どらすと」ヲ處分スル「どらすと」ヲ「あくち」ト云フ、どらすと」トハ稱スルナリ譬ヘハ甲ハ乙ニ財産ヲ賣リタル場合ニ於テ單ニ之ヲ賣却スルノ約束ノミナルキハ甲ハ乙ノ「ばつし」ト云フ、どらすと」ニシテ其財産ヲ乙ニ渡スヘキノ義務アレヒ未タ代價ヲ受取ラサル以上ハ尙ホ權利ヲ有シ未タ「べや、どらすと」ノ地ニ下ラサルヲ以テ之ヲ渡スニ及ハサルモノトス、去レヒ甲若シ其代價ヲ受取ルキハ變シテ「べや、どらすと」トナリ之ヲ渡サ、ルヘカラサルニ至ルモノトス、又若シ乙ハ財産ノ利益ヲ收集シ丙ノ生存中ハ之ヲ丙ニ與ヘ其死去シタル後ハ丁ノ爲メニ之ヲ預カルカ如キ場合ニ於テハ丙ノ生存中ハ乙ハ「あくち」ト云フ、どらすと」ニシテ丙ノ死後ハ「べや、どらすと」トナリトス

「どらすと」ハ「せとるる」ノ作リタル證書又ハ法律ノ解釋ニヨリ定ムルモノナルトハ前ニ説明シタル所ニシテ此「せとるる」ノ正式ニヨリ作リタ

ル「どらそと」ヲ「でくれや」ト、どらそと「ト云ヒ或ル財産ニ關シテ特別ナル目的ヲ達スル爲メ作りタル」どらそと「ニシテ之ヲ作ルノ意思タル該證書ニヨリ明ニ若クハ暗ニ知り得ヘキモノヲ云フ」
 法律ノ解釋ニヨリ生スル所ノ「どらそと」ヲ「おんそとらくち」ト、どらそと「ト云ヒ證書ニ依テハ明暗共ニ」どらそと「タル」ヲ知ルヲ得サレモ法律ノ解釋ニヨリ或ハ條理ニ基キテ「どらそと」ナリト判定スルモノヲ云フ
 「えきせきゆ」トつと、どらそと「ハせとるる」カ其作りタル正式ノ證書ニヨリ完全ニ「どらそと」及ヒ「せそちゆい、く、どらそと」ニ於テ享有スヘキ財産權利ノ制限ヲ明示シタル「どらそと」ヲ云ヒ、えきせきゆ「どらそと」或ハ「せそちゆい、く、どらそと」ニ於テ享有スヘキ財産權利ノ制限ヲ完全ニ明示セサリシト

ノニシテ其作りタル約定書ニヨリ又ハ指圖書ニヨリ完全ナル正式ノ證書ヲ作ルヘキノ用意ヲナシタルニ止マレル書類ヨリ其何タルヲ知ルヘキノ「どらそと」ヲ云フ

「どらそとべ」ト、おばん、ばりゆ「ハ法律ノ認ムル」ばりゆ「おん、おん、おん」ト、おん「ニヨリテ」せとるる「ノ作りタル」どらそと「ヲ云フ」ばりゆ「おん、おん、おん」トハ婚姻スヘキ男女ノ間ニ作りタル契約書ニ基キテ作りタルモノナルカ又ハ法律カ認メテ「どらそと」ヲ作ルニ當リ「結約ニ充分ナル理由アリトスルモノニシテ」今「どらそと」ヲ作ルニ當リ「結約者雙方ノ間ニ盡サントスル約束アルキハ其者ノ間ニ」ばりゆ「おん、おん、おん」ト、おん「存スルモノナリ、譬ヘハ夫婦アリ其所有財産ノ利益ニ付大小厚薄及ヒ性質ノ如何ヲ問ハス相共ニ約スル」ヲアリテ其約束「せとるめんど」ニ記入スルキハ此夫婦ハ「ばりゆ」おん、おん、おん

れ一玄よんニ關シタル約束ヲナシタルモノトス然レモ若シ財産ヲせ
どるめんどニテ讓渡スニ當リ讓受人カ地代ヲ拂フ等ノ約定ヲ履行ス
ヘキ義務ヲ負ヘルコアルモ之ヲ以テ「ばゞゆゑ」一ふる、まんまどれ一玄
よんトナスヲ得ス元來地代ヲ拂フ等ノ事ハ其財産ニ附屬スル所ノモ
ノニシテ財産ヲ讓受クルカ爲メニ生スルモノニアラス「ばゞゆゑ」一ふる
る、まんまどれ一玄よんハ必ス財産權附屬ノ事ト全ク異ナルモノナラ
サルヘカラサレハナリ

「ぼらんたり」どらそと「ハせどるる」カ別ニ理由アルニアラスシテ自ラ
好ンテ之ヲ爲スカ又ハ只道德仁愛等ノ點ヨリ之ヲ爲スカ或ハ一ノ「ど
らそと、べーそと、あぼん、ばゞゆ」ノ濟ミタル後ニ効力ヲ生スル所ノ「どら
そと」ニシテ明暗共「どらそと、べーそと、あぼん、ばゞゆ」ノ基ク所ノ約束
書ノ目的外ノ事ニ依リ作りタル「どらそと」ナリ

「どらそと、べーそと、あぼん、ばゞゆ」ノ「まんまどれ」一玄よん「若シ婚姻ナル
ルハ其後ニ効力ヲ得ルモノハ左ノ場合ニ於テハ婚姻ノ目的内ニアル
モノト法律上假定ス

第一 婚姻ヨリ生スル子ノ爲メニナシタル時

第二 「せどるる」ノ親族ニアラスシテ「せどるめんど」ノ他ノ對手ノ傍

系親ノ爲メニナシタルモノナル時

第三 「せどるる」カ將ニ婚姻ヲナサントスル婦ニシテ其夫タルヘキ
者ノ有スヘキ權力ヲ侵シ婦ノ親族ノ爲メニナシ且ツ其「どらそと」
ろむるち「タル法律上婦ノ獨有スヘキ財産ニアラサル時

右三個ノ場合ノ外ハ「どらそと、べーそと、あぼん、ばゞゆ」ノ目的ヲ達シタ
ル後効力ヲ有スルモノニシテ他ノ對手カ明文ヲ以テ「せどるめんど」ニ
記入シタルコトヲ證シ得ルノ場合ニアラサレハ「ぼらんたり」どらそと

タルヲ免レサルモノトス

警ヘハ千八百七十一年ニ於テ書入質ノ證書ヲ作り其中ニ記載シテ曰ク質入人ハ質取人ヨリ借リタル一萬五千圓ノ金額ヲ質取人ニ辨償スルノ義務アルニ付此書入質ヲ以テ右ノ辨償ヲ保證スヘシト然レモ右ノ金額ハ千八百六十四年ニ貸借シタルモノニシテ其當時ハ此書入質ノ約束ナカリシモノニシテ其後質取人ヨリ請求シタルコトモナク其證書モ尙ホ質入人ノ手ニ存セリ此實例ニ於テ其書入質ハ「ぼらんたり、どらそと」ナリトス

又將ニ結婚セントスル時ニ際シ約定書ニ夫婦生存間ハ各其利益ヲ受ケ若シ死スルキハ其子孫、子孫ナケレハ夫ノ近親ニ讓渡スヘキヲ記入シタルカ如キ場合ニ於テ最後ノ記入即チ夫ノ近親ニ讓渡スコトハ「ぼらんたり、どらそと」ナリトス何トナレハ夫ノ近親カ夫ヨリ受ケタル

財産ハ法律上婦カ好ンテ「せとるめん」と記入シタルモノト見ルコト能ハサレハナリ然レモ斯ノ如キ記入シタル事柄ヲ以テ結婚約束ノ一部ト見ル場合ニ於テハ必スシモ「ぼらんたり、どらそと」ニアラサルナリ元來「ぼらんたり、どらそと」ノ説明スノ如シト雖モ「ぼらんたり、どらそと」ハ必スシモ無効ノ取引ナリ又無効トシテ取消シ得ヘキ取引ナリト速了スヘカラス若シ「せとるる」ト「せそちゆい、く、どらそと」ノ内ニ於テ相當ノ手續ヲ完了シ詐欺脅迫ノアラサル限リハ「ぼらんたり、どらそと」ト雖モ有効ナリ

又「ぼらんたり、どらそと」ハ「せとるる」ノ債主ニ對シテモ皆之ヲ無効トスヘキモノニアラス其詳細ハ後ニ説明スヘシ「ぼらんたり、どらそと」ノアリタルコトヲ知ラスシテ「せとるる」ヨリ其財産ヲ買ヒタル所ノ買主ハ「せそちゆい、く、どらそと」ニ先ンシテ財産ヲ得ルノ權利ヲ有ス

次ニ「去ん去どれ」去よん」ノ對手及ヒ「ぼらんちや」ノ何物タルヲテ説明スヘシ而シテ「去ん去どれ」去よん」ノ對手左ノ如シ

一、「どらそと、べーすど、あばん、ばりゆ」ヲ作ル爲メ「ばりゆ」を「ふる、去ん去どれ」去よん」ヲ與ヘタル人

二、第三者カ與ヘタル「去ん去どれ」去よん」ニ基キテ「せとるる」カ作ルヲテ約シタル「せとるめんど」ノ他ノ對手

三、婚姻ノ「去ん去どれ」去よん」ニ基キタル「せとるめんど」ニヨリ利益ヲ受クル子

四、婦女ノ再婚スルニ當リ作リタル「せとるめんど」ニヨリ再婚ヲ「去ん去どれ」去よん」トシテ利益ヲ得ル所ノ子

「ぼらんちや」ハ左ノ二種ノ者ヲ云フ
一、「ぼらんたど」どらそと」ノ「せとちゆい、く、どらそと」

二、「どらそと、べーすど、あばん、ばりゆ」ノ「せとちゆい、く、どらそと」ニシテ「去ん去どれ」去よん」ヲ與ヘタルノ對手ニアラサル人

一例ヲ舉クレハ婚姻ノ「せとるめんど」ニ依リ夫ハ約シテ曰ク凡ソ婦ノ

権利ヨリ夫ノ得ル所ノ金錢ニ付其利子ハ婦ノ生存間ハ之ヲ婦ノ爲メ

ニ「どらそと」ヲシテ監護セシメ婦ノ死後ハ夫ノ爲メニ監護セシメ夫

ノ死後ハ子ノ爲メニ監護セシメ子ナクンハ婦ノ親族ノ爲メニ監護セ

シムヘシト、斯ノ如キ場合ニ於テ婦ノ親族ニ關スル「どらそと」ハ「どらそと、べーすど、あばん、ばりゆ」ナレハ此親族ハ「ぼらんちや」ニ止マレリ「去ん去どれ」去よん」ノ對手ニハアラサルナリ、此區別タル「えきせきゆう

どれ」どらそと」ノ時ニ於テ其用ヲナスモノトス後將サニ論スルカ如ク「えきいて」法律ハ假令「どらそと、べーすど、あばん、ばりゆ」ナルノ時ト雖モ「ぼらんちや」ノ請ニヨリ斯ノ如キ「えきせきゆう」どれ」どらそと」ヲ

實行スルコトナシ誰ニテモ「去んまどれ」まよんノ對手ハ「せとるる」ノ約
 シテ作リタル「せとるめんど」ノ他ノ對手ナルニヨリ「ぼらんちや」ノ爲
 メニ「其せとるめんど」ノ實行ヲ請求スルヲ得ルコトモアルヘシ然レモ「ど
 らそと、べいそと、あぼん、ばまゆ」ナルノ場合ニ於テハ依テ利スル所ノ人
 カ「ぼらんちや」ナリトテ「せとるる」ノ債主及ヒ「どらそと」ノアリシコトヲ
 知ツテ後ニ買フタルノ買主ハ「せとるめんど」ヲ取消スコトヲ得サルナリ
 抑「ぼらんちや」セとるめんど「ぼらんちや」ト「せとるめんど、べいそ
 と、あぼん、ばまゆ」ノ「ぼらんちや」ノ間ニ存スル區別ハ其二ハ「せとるる」
 ノ債主及ヒ「どらそと」ノアリシコトヲ知ツテ後ニ買フタルノ買主ニ對シ
 其一ニ勝レルノ權力ヲ有スルコト是ナリ
 凡ソ何ニ限ラス「せとるめんど」又ハ「えくいて」法理ノ許シ又ハ問ハサ
 ルノ事ヲナセル「どらそと」ノ所業又ハ怠慢ノ行爲ヲ名ケテ「ぶま」ち、を

ふ、どらすと」ト云フ蓋シ「どらすと」ニ關シタル義務ヲ盡サス又ハ其目的
 ニ反シ「どらすち」ノ犯セル所業ヲ云フナリ
 以上「どらすと」ニ關スル用語ノ解ヲ終レリ是ヨリ「でくれや」ど、どらす
 と」ノ事ヲ講述スヘシ

凡ソ「でくれや」ど、どらすと」ヲ構成スルニ必要ナル原素六個アリ左ノ
 如シ

- 第一 「せとるる」カ明ニ文章ヲ以テ「どらすと」ヲ作ルノ意ヲ表明スル
 一
- 第二 前後ノ事情ニヨリ之ヲ取消シタルモノニアラサルコト
- 第三 其意思ヲ達スルカ爲メナシタル行爲ニシテ其意思ヨリ退ク
 コトヲ得サラシムルモノアルコト
- 第四 「どらすと、ぶま」ばるち」タル「せとるめんど」ノ處分ヲナスニ付

法律ノ許スモノナルヲ

第五 「とらすと」ノ目的適法ナルヲ

第六 「とらすと」ヲ作リタルノ證據備ハレルヲ

以上ノ諸原素ヲ具備スルハ正當ナル「でくれや」ど、とらすと」ヲ作ル
ヲ得ヘシ左レト左ノ如キ場合ニ於テハ其効力ナキモノトス

第一 「せとるる」ニ是ヲ作ルノ資格ナキハ

第二 「せすちゆい、く、どらすと」トナリタルモノ、其斯クナルヘキノ

資格ヲ有セサルハ

第三 「せとるめんど」ヲ作ルニ當リ錯誤又ハ詐欺ノアリタルハ

又「せとるめんど」ハ其對手間ニハ効アル場合ニテモ「せとるる」ノ債主又
ハ身代限ノ財産處分人若クハ後ニ其情ヲ知ラス善意ヲ以テ買ヒタル
者ニ對シテハ其効力ナキモノトス

「とらすと」ヲ作リタル事情ヨリ論スルハ「せとるる」ノ用ヒタル語ニ廣
キ解釋ヲ與フルニアラサレハ其意思ヲ知ル能ハサルカ如キ場合モ亦
「でくれや」ど、とらすと」ノ部ニ於テ之ヲ説明スヘキモノタリ左ニ順次
講述セン

凡ソ正當ナル「でくれや」ど、とらすと」ヲ作ルニ必要ナル原素ノ中「とら
そと」ヲ作ルノ意思ヲ表明スル文言ハ法律ニ於テ別ニ之ヲ規定シタル
雛形トテハナシ如何ナル詞ニテモ苟モ「とらすと」ヲ作ルノ目的及ヒ財
産管護ノ方法明示アリテ「せとるる」カ用ヒタル文言「とらすと」ヲ作ルノ
意ヲ顯ハシ又ハ「とらすと」ノ方法ニヨリテ其目的ヲ達スルヲ得ヘキ
利益ノ明示アルハ以テ足レリトス夫ノ「とらすと」ヲ信任スルノ語、
指圖ノ語、又ハ爲メニ「とらすち」ノ義務ヲ負ハシムル語アル場合若シ
ハ他人ヲシテ第三者ノ爲メニ財産ヲ處分スルヲ命スルカ又ハ其第

三者タル一ノ階級中ニ入ルヘキモノ、悉皆又ハ幾人ニシテ其文言ニ添フルニ若シ此財産處分ノ目的ヲ達セサルキハ更ニ他人ヲシテ是ヲ處分セシムルヲ得ルノ意ナキキハ可ナリ

又財産處分ニ付依頼シタルカ又ハ財産處分ノ事ヲ忠告シタルノ意ヲ表スル文言アルキハ可ナリ然レモ忠告依頼ノ語ヲ用フルモ其是レヲ受ケタル人ニ於テ其見込通り處分スルノ權ヲ有スルカ又ハ忠告依頼カ命令ノ意ヲ含マシムルヲ打消スルノ語アルキ又ハ依頼忠告ノ語タルセどるるノ意ヲ説明シタルニ止マルキ又ハ忠告依頼カセどるるノ希望ニ止ルキ又ハ他ノ事情ニヨリ命令ノ意ヲ含マサルヲ明ナルキハ法律見テどらすとシテ作リタルモノト做サ、ルナリ

又でくれやード、どらすとシテ作リタルセどるめんとナキモノ一ノ財産ヲどらすとノ道ニヨリテ處分スルノ約定アルキハ可ナリ

實例ニヨルニ甲ハ乙ニ財産ヲ謀リ丙ノ爲メニ是ヲ處分スヘキヲ命シタルキハ乙ハ指圖ニヨリ之ヲ所持スルヲ以テどらとち一ナリト判決セラレタリ又一ノ財産ヲ乙ニ讓渡シ乙ハセどるるノ死後十二ヶ月ヲ經テセどるるノ負債ヲ拂フヘシトノ條件ヲ附着スルキハ以テ乙ハどらととノ義務ヲ負ヒタルモノナリト解釋セリ

去レモ與ヘラレタル財産ニ付指定セシ文書中ニ記入アルト否トニ拘ハラス凡ソ家ヲ讓受クルニ付相當ノ修繕ヲナスノ義務アルカ如キハ以テどらととノ關係ヲ生スル義務アルモノトナスヲ得ス是レ家ヲ修繕スルハ家ヲ所有スル者ノ通常爲スヘキヲニシテ特別ナルどらととノ性質アル義務ニアラサレハナリ

遺言者アリ其不動産ヲ賣ルヲ差圖シ以テ其負債ヲ拂ヒ且ツ是ヲ分配スルノ義務ヲ負ハシムルキハ其不動産ハ遺産相續人ニ移ルヘキモ

ノナレハ裁判所ハ之ヲ以テ「どらそと」ノ關係アルモノトシ其讓受人即讓受人ハ己ノ利益ノ爲メニ之ヲ取ルコトヲ許サス必ス「どらそと」トシテ處分スヘキモノトセリ

又遺言者カ其婦ノ生涯間ハ不動産ヲ其婦ニ與ヘ婦ノ死後ハ半ハ是ヲ寄附金トナシ半ハ是ヲ婦カ相當ナリト思惟スル夫ノ親族ニ與ヘンコト「せとる宛んど」ニ記入シタルニ婦ハ其讓渡ヲナサスシテ死シタルニ裁判所ハ是ヲ半ハ寄附金トナシ其半ナル殘額ニ付テハ夫ノ親族ニ與フヘキ分配ノ金額明示ナキカ故ニ通常法律ノ定メタル配當規則ニヨリ夫ノ親族間ニ分ツヘキモノトナセリ

又違言者カ其財産ノ「どらそと」ニ權力ヲ與ヘテ其女子若シ「どらすち」ノ承諾ヲ得テ婚姻シ其後死スルキハ其財産ヲ夫ニ與フヘシト云フキハ此「どらすち」ノ有スル權力タル遺言者ノ指圖ニ從ヒ女子ト結婚

シタル夫ノ爲メニハ「どらそと」ノ關係ヲ生シタルモノト云フヘシ

依頼ヲ表スル語ニヨリ「どらそと」ヲ生シタルヤ否ヤヲ定ムルコトハ實際容易ノコトニアラス夫ノ遺言者カ甲ニ財産ヲ渡シテ甲ノ是ヲ爲スコトヲ望ム又ハ是ヲ爲スコトニ付疑ナシ又ハ是ヲ依頼ス又ハ是ヲ好ム又ハ是ヲ勸ム又ハ甲ノ其然ル事ヲ知ル等ノ語アルキハ是レ即チ甲ハ乙ノ爲メニ右等ノ事ヲ依頼忠告セラレタルモノニシテ苟モ甲ニ於テ乙ノ爲メニ財産ヲ處分スルノ方法曖昧ナルカ又ハ不充分ナルカ又ハ甲ニ於テ自然ニ所分スルノ權利ヲ有セサルカ又ハ其財産タル全ク甲ニ與ヘタルカ若クハ與ヘタル意ヲ示スニアラサレハ裁判所ハ以テ「どらそと」ノ關係アルモノトス然レモ若シ右ニ反對ノ語アルキハ依頼ハ命令ノ意ヲ表スルニアラスシテ法律ハ見テ「どらそと」ノ關係ヲ生シタルモノト做サス

百
斯ノ如ク「どら」と「ど」ノ關係ヲ明ニ作ルカ又ハ作ルノ意ヲ示シタル等ノ
場合ハ夥多ニシテ一々枚舉ニ違アラサレハ爰ニ畧ス其詳ナルヲ知ラ
ント欲セハ原書ニ就テ之ヲ見ルノ外道ナキナリ
孰レノ「せ」とる宛んど」ヲ讀ムモ依頼ノ語命令ノ意ヲ含マサルハ「どら
んど」ノ關係ヲ生セス又假令明示ナキモ前後ノ事情ニヨリ財產所持人
他人ノ爲メニ之ヲ所持スルモノナルヤ將タ己ノ利益ノ爲メニ之ヲ所
持スルモノナルヤ一般ノ規則ニヨリ之ヲ區別スルヲ得ヘシ凡ソ書
面ハ其書面ニ認メタル目的ヲ達スルニ最モ緊切ナル様之ヲ解釋スヘ
シトハ一般ノ原則ナリ此場合ニ於テ若シ「せ」とる「カ」或ル者ニ財產ヲ
渡シ是ト共ニ達スヘキ一ノ目的アリテ未タ「せ」とる宛んど」ニ記入ナク
只讓受人カ承諾シタル證據アルノミナルニ讓受人ハ不正ノ所爲ヲ以
テ之ヲ實行セサルハ法律上「せ」とる」ノ意ヲ實行セシムヘキモノナ

百一
リ其詳細ナルハ後ニ至リテ説明スル時アルヘシ
凡ソ一ノ財產アリテ「どら」と「ど」ノ道ニヨリ之ヲ處分スヘキノ約アルハ
「ゑくいて、ろ」ハ之ヲ解釋シテ爲スヘキモノハ實際爲サ、ルモ爲
シタルモノト見做スカ故ニ左ノ約定ヲ以テ「ゑきせきゆ」ト「どら」と「ど」
ト「ナリトス去レ」ト約定ノミノ「どら」と「ど」ハ「ば」ヨ「ゑ」ト「ふ」る、
「あん」ト「え」ト
れ「えよん」ヲ要ス而シテ「あん」ト「え」ト「ふ」ルノ對手カ實行ヲ求ムル
ニアラサレハ「どら」と「ど」ノ實行ヲ命セサルモノトス
今一例ヲ掲ケンハ甲ニ其女乙ノ將サニ丙ト結婚セントスルノ「あん」ト
「えよん」ニヨリ其田地ヲ丁ニ讓リ乙丙夫婦ノ爲メ及ヒ其子孫ノ爲
メニ監護セシムルハ甲ハ「どら」と「ど」ノ事ヲ示シタルモノニシテ「どら
んど」ヲ作ルヘキ約定ニ止マルト雖モ猶ホ「どら」と「ど」ノ道ニヨリテ「處分
スヘキモノトス故ニ其田地ハ之ヲ買ヒタルモノ其情ヲ知ラス且ツ相

當ノ價ヲ拂ヒタルニアラサレハ甲ノ作リタル約定ニ基キテ「どらそと」ノ義務ヲ負ヘキモノトス
 是ヨリ無効ナル「どらそと」ノ事ヲ講述スヘシ
 凡ソ「せとるめん」とノ文言ニヨルキハ或人カ其「せすちゆいくどらすと」ノ如ク見ユルモ其全體ヨリ考察スレハ「せとるる」ノ目的タル其人ノ爲メニ「どらすと」ノ關係ヲ生セサルノ意明ナルキハ法律ハ其人ヲ以テ「せすちゆいくどらすと」ナリトセス故ニ其者ハ「せとるめん」とノ實行ヲ要求スルヲ得サルモノトス假令ハ負債家アリ其負債ヲ拂フ爲メ其財產ヲ「どらすち」ニ渡シ負債辦償ノ方法ヲ立テタルモ其實ハ債主ニ隱シテ此方法ヲ定メタルモノナルキハ其「どらすち」タル債主ノ「どらそち」タルヲ得スシテ「せとるる」ハ己ノ便利ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノトス故ニ金圓ヲ受取リタル「どらそち」ト債主トノ間ニハ毫モ關係ヲ

生スルヲナク「せとるる」ハ何時ニテモ之ヲ廢止スルヲ得ヘシ
 去レテ債主若シ其方法ヲ定ムルヲニ參加シタルキハ法律ハ債主ノ爲メニ此「どらすと」ヲ作リタルモノナリト見做スカ故ニ債主ハ己ノ爲メニ「どらすと」ヲ實行セシムルノ權アリ又債主其事ニ參加セサルモ負債主ヨリ其事ヲ通知シタルキハ債主ハ「せすちゆいくどらすと」トナリタルモノトス蓋シ其債主ハ財產ノ己ノ爲メニナルモノト思惟シ訴フヘキモノヲ訴ヘサルニヨリ所謂「おんまどれ」まよん」ヲ與ヘタルモノナリ
 又債主實地其相談ニ承諾ノ上其方法ニ基キテ所分シ雙方ノ間ニ爭論ナキキハ債主ニ「せすちゆいくどらすと」トナリタルモノトス
 凡ソ一ノ財產ヲ「どらすち」ニ渡シ其中ヨリ「どらすち」ノ給料及ヒ雜費ヲ拂ハシメ其餘ヲ第三者ニ拂ハシムル場合ニ於テ其書類ヲ起稿

シタル代言人ノ如キハ「せすちゆい、く、どらすと」ニアラス故ニ代言人ハ諸入費ノ支拂ヲ受クルノ權アルモ「どらすと」ノ實行ヲ請求シテ支拂ヲ求ムルノ權ナシ其他「どらすと」ノ目的ヲ達スル爲メ入費ヲ出シタル者ノ如キ又政府ヨリ公用ノ爲メ備ヘタル金額ニ對シテ之ヲ受クルノ權アル官吏ハ「せすちゆい、く、どらすと」ニアラサルナリ

凡ソ「どらすと」カ「どらそと、べーすと、わばん、バリゆ」ナルキハ其「えきせきゆ」てつど、「どらすと」ナルト「えきせきゆ」て「どらそと、べーすと、わばん、バリゆ」ナルキハ其「えきせきゆ」ハス渾テ實行ヲ要求スルヲ得ル者トス而シテ此場合ニ於テハ「せとるめんど」ノ完全ナルト否トヲ問ハス又「せとるる」カ「どらすち」ヲ定メタリシト否トヲ論セス「こん玄どれー玄よん」ノ對手タルモノハ其事ノ實行ヲ要求スルノ權アルモノナリ

若シ「せとるる」ノ用ヒタル文言ニシテ充分ニ「どらすと」ヲ作ルノ意ヲ見

ルヘキモノナルキハ其財産ニ對シ「どらそと」ノ意ヲ結付ケ以テ其「どらそち」ヲ定ムヘキモノトス故ニ假令「どらそち」ノ記入ナキモ爲メニ「どらそと」ハ無効トナルヲナカルヘシ而シテ其財産ニ關シ「どらそと」ガ「えきせきゆ」て「どらそと」ヲ有スル人カ「どらそと」ノ關係アルヲ知ラス之ヲ買ヒ入レタルキハ善意ニテ相當ノ代價ヲ拂ヒシニアラサレハ其人ハ唯「ぼつ玄ーぶ、どらすち」ニ止マルモノトス故ニ其人ハ「あくちーぶ、どらすち」ニ「どらすと、ぶるをるち」ヲ引渡スノ義務アルモノトス

遺言書ノ「せすちゆい、く、どらすと」ハ「どらすと、べーすと、わばん、バリゆ」ニヨリテ請求スルノ權アル「こん玄どれー玄よん」ノ對手ト同一ノ權利ヲ有セリ然レモ「ぼらんちやー」ハ之ヲ要求スルノ權ナク唯「ぼらんたどらと、どらすと」ヲ法律ニ於テ許ス場合ノミ此權アリトス

今其一例ヲ舉ケンニ若シ結婚ノ財産處分書中ニ凡ソ夫ハ婚姻間其婦

ノ權利ニヨリ得ル所ノ代金ヲ「どらそち」へ渡スヘシト記載シアル片
 ハ夫ハ斯ノ如キ財産ノ己ノ手ニ來ルヤ否直チニ之ヲ其「どらそち」ニ
 引渡スノ義務アリ而シテ斯ノ如ク之ヲ「どらそち」ニ渡スマテノ間ハ
 右ノ夫ハ「どらそち」ノ位地ニ立ツモノトス然ルニ斯、ル場合ニ於テ
 夫若シ其約束通り處分セサルキハ唯ニ違約ノ訴ヲ受クルノミナラズ
 其手元ニ有スル財産ハ渾テ「えきせきゆ」ト「どらそち」ニ充ツヘキ
 モノニシテ之ニ關係ナキ「ぼらんた」ト「どらそち」ニ依テ得ル所ノモノ
 亦皆ナ「えきせきゆ」ト「どらそち」ニ充ツヘキノ責任ヲ負ヘルモノナ
 リ若シ其財産ヲ讓渡シタルキト雖モ其對手之ヲ知りテ買取リタルキ
 ハ其財産ハ猶ホ「えきせきゆ」ト「どらそち」ニ充ツヘキノ責任ト共
 ニ之ヲ讓受ケタルモノトス
 又一例ヲ擧ケンニ凡ソ衡平法裁判所ハ方式ヨリモ意思ニ基キ裁判ス

ルモノナルカ爰ニ衡平法ノ判決例ヲ掲ケントス將ニ夫婦ニナラント
 スル所ノ男女結婚前ニ約束スル所アリ其婦女ノ父母、婦女ニ不動産ノ
 利益ニ就キ其幾分ヲ附與センコトヲ約シ原告即チ右ノ夫タルモノハ或
 ル「どらそち」ニヨリ婦女ノ得ル所ノ利益ヲ處分センコトヲ約セリ而シテ
 此婦女ハ約定書ノ對手ノ一人ニシテ約定書ニ記名調印セシト雖モ其
 處分スルコトニ付テハ約定書ニ記入セサリシ然ルニ婦ハ約束通り未ダ
 處分アラサルノ以前死去シタルニヨリ右ノ不動産ハ法律ニ從ヒ婦女
 ノ相續人ニ移レリ是於原告ハ訴ヲ起セシカ衡平法ニテハ對手ノ明ニ
 見ルヘキ意思ハ約定通り讓渡スコトナレハ婦ハ處分チナスニ付明言ハ
 セサリシト云ヘ約定書ノ一人タル以上ハ其處分チナスヘキコト勿論ナ
 リ故ニ其財産ヲ得タル相續人ハ之ニ就キ「えきせきうどれ」ト「どらそち」
 ヲ實行シ必要ナル丈ケノ處分ハナサ、ルヘカラスト判決セラレタリ

今一例ヲ舉ケンニ凡ソ「どらそち」カ死去スルカ又ハ其職ヲ辭スルカ
 若クハ其資格ヲ失フカ或ハ其他ノ理由ニヨリテ「どらそち」ノ目的ヲ達
 スルヲ能ハサルキハ「どらそち」ニ付る「ち」カ他人ニ移ツルヲアルモ
 善意ノ買主ニアラサルモノハ其「どらそち」ヲ實行セサルヘカラサルノ
 責アリ故ニ其人タル新タニ命セラルヘキ「どらそち」ヘ財産ヲ讓渡ス
 ヘキ「ばつえ」ニ「どらそち」ト云フモ敢テ不可ナキナリ
 尙ホ一例アリ遺產者カ遺言書中ニ不動産ヲ賣渡シ其賣得金ヲ處分
 スルノ方法ヲ設ケタレトモ之ヲ處分スルノ人ヲ指示セサルキハ法律ニ
 ヨレハ其不動産ハ相續人ニ移ルヘキモノナレトモ衡平法ニ於テハ裁判
 所ノ命スル所「どらそち」ヘ右ノ財産ニ關スル「どらそち」ガるゑとて「ど
 ち讓渡スヘキモノトナセリ
 是ヨリ「ばらんたり」ニ「どらそち」ノ事ニ移ルヘシ

「ばらんたり」ニ「どらそち」ハ其手續完了スルニアラサレハ裁判所ハ之ヲ
 實行セシムルノ助ヲ與フルヲナキモノトス凡ソ「どらそち」カ「ばらんた
 り」ニ「どらそち」ニシテ且ツ遺言書ニヨリ作りタルモノニアラサルキハ
 「せどろる」ニ於テ財産ノ性質ニ從ヒ其爲サ、ルヘカラサル種々ノ手續
 ヲ完了スルニアラサレハ裁判所ニ於テ之レカ實行ヲ助クルヲナシ又
 其「どらそち」タル假令價ヲ出シタルモノナルモ猶ホ「ばらんちや」ノ請
 求ノミニテハ裁判所ヨリ助クルヲナキモノトス而シテ右ノ手續ヲ完
 了スル方法左ノ如シ

第一 其財産ニ關スル全体ノ利益即チ權利ノ「どらそち」ガるゑと「ナル
 ト」ニ付いて「どらそち」ナルトチ問ハス其悉皆「どらそち」ヘ讓
 渡シ若クハ之ヲ渡スニ付可成的ノ手續ヲ完了スル
 第二 「せどろる」カ明ニ「どらそち」ノ處分ニ充ン爲メ財産ヲ所持スル

ノ意ヲ示ス

第三「せどろる」カ明言シテ其意ヲ示サ、ルモ其「どらすど」ノ贈與ヲ爲シタリト思考セシヲ証明スルノ外ハ更ニ「せどろる」カ取扱タル取引ノ全躰ヲ取調ヘタル上自ラ「どらすち」トナリタルノ意アルヲ証明スルヲ得ヘキ

今例ヲ舉ケテ之ヲ説明センニ爰ニ或ル父アリ其娘ノ爲メニ甲ナル財産ヲ「どらすち」ヘ譲渡シ又同一ノ「どらすど」ノ爲メ乙ナル財産モ「どらすち」ヘ譲渡スヘシトノ約束ヲナシ置キタリシニ其父ハ乙ナル財産ノ處分ヲナサスシテ死去シ遺言書ニヨリテ甲乙財産ノ幾分ヲ其妻ニ譲渡セリ此場合ニ於テ甲ナル財産ニ對シテハ其處分ヲ實行セシムヘシ何トナレハ娘ノ所有權完全ナレハナリ去レハ乙ナル財産ニ對シテハ其處分ヲナサシムルヲ得ス何トナレハ「せどろる」カ自ラ「どらすち

財産法

「」ヘ譲渡スノ手續モナサス唯譲渡ノ約束ヲナシタルニ止マルモノニシテ敢テ衡平法裁判所ノ力ヲ貸スノ所ナケレハナリ且ヤ「せどろる」ハ嘗ニ娘ノ爲メニ「どらすち」トナルノ意ヲ示サ、ルノミナラス既ニ遺言書ニヨリ之ヲ其妻ニ譲渡シタルニ於テハ亦「せどろる」ニヨリ娘ニ財産ヲ譲渡スノ意ナキヲ見ルヘケレハナリ

結婚財産譲渡處分書ニヨリ妻ノ財産譲渡ノ處分ヲ定メテ曰ク夫婦生存間ハ其財産ノ利益ヲ得セシメ若シ夫死シテ子ナク妻生存スルハ妻ニ其利益ヲ得セシメ若シ妻死シテ夫生存スルハ妻ノ定メタル遺言書ニヨリ處分シ若シ妻遺言書ヲ定メ置カサルハ其親族ヘ之ヲ配當シ尤モ夫ハ右親族中ヨリ取除キ助言スルヲ得サルモノトセシニ妻ハ子ヲ産ムヘキ時期ヲ經過スルモ未ダ子ヲ舉ケサルニヨリ夫婦其財産ヲ處分セント欲シテ謂ヘラク此處分法タル法律ノ許ス所ノ「とら

ひと、べいそどあばん、バリゆナリト雖モ其親族ハ「ぼらんたり」どらそ
 と「止マルモノナレハ直ニ」とらそと、ぶろばるち「元金ヲ己ニ受取
 ラン」ヲ請求セシニ判事ノ言ニ曰ク「既ニ元金ハ「どらそち」ニ渡リタ
 ル以上ハ假令其者「ぼらんたり」どらそと「どらそち」ナルモ充分其
 利益ヲ有スル者ノ爲メニ保護セサルヘカラス故ニ「せそちゆい、く、どら
 ひと」ノ承諾アルニアラサレハ之ヲ他人ニ讓渡スヘキモノニアラスト
 ス又陪席判事ノ言ニ斯ノ如キ「どらそと」ハ假令「あきせきゆとり」どら
 ひと「ナルモ其手續ヲ完了シタル以上ハ其利益ヲ得ヘキモノナリ」ぼら
 んたり「どらそと」ナルカ爲メニ毫モ妨ケラル、ナキモノナリト
 又甲ハ或ル長期賃借ノ約ヲナシ其權利ノ處分書ヲ設ケ凡ヘテ之ヲ讓
 渡スヘキ「ぼらんたり」どらそと「ノ手續ヲ行ヘリ然ルニ此「どらすと」ヲ
 取消サントスルノ對手謂ヘラク甲ハ曾テ「どらすち」トナリシヲ示

サス又示サント企テタル「モナク且ツ」どらそち「」ヘ其財産ヲ讓渡ス
 「ヲ」チモナサ、レハ此「せとるめん」と「無効ナルヘシト判事ノ曰ク書
 面ヲ見ルニ右ノ書面ヲ作りタル「キ」ニ於テハ甲ハ處分書ヲ作テ後「長期
 賃借」ヲ實地得ルマテノ間ハ果シテ之ヲ得ルノ權利ヲ有セル「ヲ」チ示シ
 タル「ヲ」ナリ唯約定書ノ「ミア」ト謂フニ止マリ之ニ關スル財産讓渡手
 續「ヲ」盡ス「フ」位地ニ居ルモノニアラサレハ甲ノ既ニ履行シタル所ハ充
 分ニ盡シ得ヘキ手續ヲ盡シタルモノト謂フヘシ故ニ「ぼらんたり」ど
 らそと「ナルモ其効力アルモノト言ハサルヲ得ス
 又或ル財産ヲ甲ナル女ノ爲メニ生涯間讓渡シ其後ハ其娘ニ利益ヲ得
 セシムル「ヲ」トセリ娘ハ結婚スルニ當リ遺言書ニヨリ其姪ノ爲メニ「と
 らそと」ヲ定メ娘ノ有スル利益ヲ讓渡セリ此時娘ノ母ハ尙ホ生存シ之
 ヲ妨ケントセシカ裁判所ハ曰ク此財産ハ姪ニ對シテハ「ぼらんたり」

とらむとナレハ尙ホ有効ナリ何トナレハ遺産處分書ニヨリ爲シ得ヘ
キヲチ爲シタルモノナレハナリ去レヒ斯ノ如キ場合ニハ娘ハ實地之
チ所有スルモノニアラサルカ故ニせどるめんどチ作り之ニ讓渡ノ旨
チ記入スルモノニシテ其爲シ得ヘキノ手續ヲ盡シタルモノト謂テ可
ナリ

又例ヲ舉クルニ或ルどらむとノ方法ニヨリ遺言者一萬圓ノ金ヲ遺産
處分人ニ預カラシメ之ニ年々四分ノ利子ヲ附シ置クノ權力ヲ與ヘ
タリ而シテ右ノ遺産處分人ハ亦遺言ニヨリ配當ヲ受クルノ一人ナリ
遺言者ノ死シタル後其處分人ハ遺言ヲ受ケタル者ノ得タルハ一萬圓
ニアラスシテ一萬五千圓ヲ與フル遺言者ノ意ナリシヲ判然シ而シテ
配當ヲ受クヘキ者ノ親ニ謂テ曰ク右ハ一萬圓ニテモ亦一萬五千圓ニ
テモ孰レニセヨ余ハ遺言書ニ記シタルヨリ五千圓多キ様ニ配當スヘ

シト而シテ其後約定書ヲ認メ遺産處分人ハ毎年一月七月ノ兩度ニ於
テ一萬五千圓ニ對スル四分ノ利子即チ六百圓ヲ配當受人ニ渡スヘシ
ト記シテ之ニ記名調印セリ而シテ尙ホ其證書ニ認メテ曰ク配當受人
カ一萬圓乃至一萬五千圓ノ配當ヲ受クヘシト配當受人ニ話セリト其
後配當受人ノ死スルマテ右ノ利子ヲ拂ヒ來レリ此場合ニ於テ訴訟ノ
論點ハ右ノ處分人ハ五千圓ニ對シテ自ラどらむとナルヲ示セシ
ヤ否ヤニアリシカ裁判所ハ自ラどらむとナルノ意ヲ示セシモノ
ナリト判決セリ其時有名ノ判事理由ヲ述ヘテ謂ヘラク元來裁判所ヨ
リどらむとノ取引ヲ完了シタルキハ尙ホ其手續ヲ盡シタルモノニシテ
とらむとノ取引ヲ完了シタルキハ尙ホ其手續ヲ盡シタルモノニシテ
助ヲ與フヘシト雖モ未タ全ク其手續ヲ終ラサルキハ裁判所ヨリ助ヲ
貸シテ其實行ヲナサシムルヲナシ今本件ノ場合ニ於テ處分人ト配當

受人トハ「どらすち」ト「せすちゆい、くどらすど」ノ關係アルカ否ヤ此證書ニ據テ見レハ死者ノ處分人ニ言ヒタルハ此金圓ハ相當ノ方法ニ據リ融通スルヲ得ヘシ故ニ之ヲ以テ公債株券ヲ買フモ可ナリ又握持スルモ可ナリ然レモ若シ之ヲ握持スルキハ年四分ノ利子ヲ拂フヘシト謂フニアリ故ニ此場合ニ處分人カ遺言書ヲ證明シ其手續ヲ盡シタルノ後配當金ヲ拂フニ充分ナル財産ヲ受取りナカラ右ノ一萬圓ニ對シ「どらすち」ニアラスト謂フハ法律ノ許サ、ル所ナリ遺產處分人ハ一萬五千圓ノ積ニテ記名シタリト言ハ、一萬五千圓ノ「どらすち」ナリ又一萬圓を預リタリト言ハ、一萬圓ノ「どらすち」タルヘシ故ニ處分人ニ於テ一萬五千圓ノ利子ヲ拂ヒタル所ヲ以テ見レハ其者ハ到底一萬五千圓ノ「どらすち」トセサルヲ得ス

又例ヲ舉ケレハ死者ナル甲生存中ニ乙ヘ動産ヲ與ヘ其動産ヲ乙ノ女

子ノ爲メニ之ヲ預カラシムルトセリ此場合ニ於テ乙ハ其名義ニテ動産ヨリ生スル利潤ト己ノ金錢トヲ合シテ之ヲ他人ニ預ケ後右ハ其女子ノ爲メ預リ居ルモノナルヲ言ヒリト謂フ乙死亡後右ノ預ケ金ハ乙ノ金錢ト動産ヨリ生シタル利潤ト區別スルヲ能ハサルニ至リ之ヲ裁判所ニ訴ヘシカ乙ハ動産ノミナラス其餘ノ預ケ金ニ對シテモ亦「どらすち」トシテ女子ノ爲メ預リタルモノナリト判決セラレタリ

又例ヲ舉ケンニ或ル「せとろる」カ株式取引所ニ書ヲ出シテ或ル婦人ノ爲メニ公債證書ヲ買ハンヲ申込ミ之ヲ買取リシカ其後右ノ婦人ハ發狂セリ元來右ノ證書ハ「せとろる」ノ名ヲ以テ買取リタルモノナリシカ「せとろる」ヨリ書狀ヲ以テ株式取引所ニ右ノ婦人ノ名前ニ改メンヲ乞ヒタルモ「せとろる」ノ死亡スルマテ遂ニ之ヲ改メサリシヲ以テ右公債證書ヲ與ヘシヲハ全ク恩惠ニ出テタルモノニシテ未ダ手續ヲ盡

サス「せどろる」ノ物タルヘシトテ出訴セシカ裁判所ハ「せどろる」タル婦人ノ爲メニ「どらそち」タルコトヲ考ヘテナシタルモノナレハ其公債證書ハ婦人ノ物ナリト判決セリ

又或ル「せどろる」カ或ル會社ノ株券ニ裏書シテ余ハ此株券ヲ娘乙ヘ渡スヘシト言ヘルモ尙ホ其株券ハ己ニ於テ之ヲ所持セリ右ノ會社規則ニテハ裏書ノミニテハ讓渡ノ正式ニアラサリシカ訴訟トナリタル上娘ノ代言人ハ裏書アレハ會社讓渡ノ正式ニアラサルモ「どらそち」ヲ作ルニ充分ナリ即チ「でくれや」どらそち「ヲ作りタルモノナリト然レハ裁判所ハ右ノ「せどろる」ハ正當ノ式ヲ履ミテ「どらそち」トナリタルニモアラス又其人ノ記入シタル裏書タル「どらそち」ヲ定ムルノ正式ニモアラス唯此株券ヲ贈ルヘシト謂フニ止マルモノナリ凡ソ贈與ニハ渡スト言フコトナカルヘカラス法律ハ「せどろる」カ行ハント欲シテ未

タ行ハサル所ノ事ヲ助成シテ完全ナルモノトナスコトヲ得サルナリト判決セリ

又「せどろる」カ再度婚姻シ前妻ニモ子アリ後妻ニモ子アリ而シテ後妻ノ子ハ幼年者ナリシ「せどろる」一日旅行先キヨリ歸リシカ幼兒ノ乳母「せどろる」ニ謂テ君ハ家ニ歸ラレタレハ幼兒ニ土産ナキヤト言ヒケレハ父ハ答テ彼レニハ靴一足ト他ニ好物ヲ與フヘシトテ部屋ヨリ四千五百圓ノ小切手ヲ持來リ之ヲ乳母ニ示シ此切手ト猶ホ多分ノモノヲ與フヘキニ就キ其處分ハ幼兒ノ隨意ニナスヘシトテ之ヲ藏シ其後代言人ニ向テ右ノ小切手ニ五百圓ヲ加ヘ五千圓ヲ幼兒ノ爲メニ預ケ置クヘシト言ヘリ然ルニ父ハ數月ヲ經テ死去シ幼兒ニ與フルノ手續ヲ爲シ置カサリシ是ニ於テ幼兒ノ母ハ右ノ財産ヲ得ント欲シ充分ナル「どらそち」アリト言ヒタリシカ裁判所ハ判決シテ曰ク右ノミノ事實ニ

テハ之ヲ法理ニ照ラスモ判例ニヨルモ金ヲ贈與シタルモノト謂フヘ
 カラス又「どらそと」ノ關係ヲ生シタルニモアラス父ハ固ヨリ充分ノ資
 格ヲ具ヘ心身共ニ完全ノ間ニ作リタルコナレハ不動産ナレハ讓渡證
 書又動産ナレハ手渡ヲ以テ贈與シテ可ナリ然ルニ此事ナシ故ニ右ノ
 財産ハ幼兒ニ移リタルモノニアラスト
 或ル判例ニヨレハ動産ナレハ「ぼらんた」¹、「どらそと」ニテモ口頭ニテ
 「どらそと」ヲ作ルノ意ヲ示スキハ充分ナリトノ説ナキコラス若シ手
 渡スレハ其手續完了スルモノトス若シ明言スルカ又ハ暗示スルコトニ
 ヨリ「せどろる」カ己自ラ或人ノ爲メ贈與シタル財産ノ「どらそと」トナ
 リタルコト言フキハ其「とらそと」ハ完了シタルモノニシテ其原因タル
 「あんぞとれ」¹「ぞよん」ナキモ實行スルコトヲ得ルモノトス故ニ此等ノ場
 合ニ於テ定ムヘキコトハ「でくれや」¹と、「どらそと」ナルカ將タ不完全ナル

贈與ナルカノ點ニアリ若シ不完全ナル贈與ナレハ裁判所ハ出訴スル
 人カ「ぼらんちや」¹ノ位置ニアルモノナレハ力ヲ貸スコトナシ若シ「でく
 れや」¹と、「どらそと」ナルキハ之ヲ實行スル人カ「あんしどれ」¹しよん」¹ヲ
 與ヘタルト否トヲ問ハス裁判所ハ力ヲ貸シテ之ヲ實行セシムルナリ
 或ル判事曰ク「ぼらんた」¹、「せどる宛んど」¹ヲシテ完全有効ノモノタラ
 シムルニハ其「せどろる」カ「せどる宛んど」ニ記シタル財産ノ性質ニヨリ
 之ヲ讓渡スニ盡スヘキ丈ノ手續ヲ盡シ因テ作リタル「せどるめんど」¹ナ
 ルヲ要ス而シテ之ヲナスニハ勿論「せどるめんど」ニヨリ贈與ヲナスニ
 實地讓渡ヲナセハ可ナルコト勿論ナレト又斯ノ如ク實地讓渡ヲナサハ
 ルモ「せどるめんど」ヲ以テ「どらそと」¹ヲ作り又ハ「せどろる」カ自ラ「どら
 そと」¹トシテ預カルト謂フコト自ラ言ヒタルキハ充分ナリ然レト以
 上ノ内其一ニヨラサル場合ニ於テハ其「せどるめんど」ハ無効ナリト

又或ル判事曰ク凡ソ讓渡證書ヲ作ルニ當リ其時直ニ完了スルモノナ
 レハ「でくれや」ト「どらそと」ニ等シキモノトス凡ソ區別スヘキコトハ後
 來ニテ或ル事ヲナスヘシト言ヒタルノミニテ其書面ヲ作ラサルコト及
 ビ夫ノ「ゑくいて」ト「ぶる」ト「ゑとて」ト「チ作リタルノミニシテ」ト「ど」ト「が」ト「る」ト
 「そて」ト「ト」ト「チ移ス」ト「能ハサルキ」ト「ノ如キ未タ其手續ヲ完了セサル間ハ」ト「ど」
 「らそと」ト「ノでくれわれ」ト「えよん」ト「ト」ト「言フ」ト「チ得サルナリ去レ」ト「ト」ト「が」ト「る」
 「ゑとて」ト「ト」ト「ハ關係ナク其他ハ皆ナ財産ニ關スル權利ヲ讓渡スノ意」
 「明ナルキ」ト「ハ」ト「どらそと」ト「ノでくれわれ」ト「えよん」ト「アリタルモノトス」
 又或ル判事曰ク「どらそと」ト「ノでくれわれ」ト「えよん」ナルヤ否ヤヲ決スル
 ニハ「せとろる」ト「カ用ヒタル文言ニ」ト「ノミヨルヘカラス其書面ノ性質ニヨ」
 「リ決スヘシ元來世人ハ」ト「せとろる」ト「カ盡スヘキ丈ノ手續ヲ盡シタル上ハ」
 「充分完全ナル讓渡アリタルモノ」ト「、如ク論スレ」ト「是レ誤謬ナリト謂フ」

ヘシ假令「せとろる」ハ其手續ヲ完了セサルモ「どらそと」ト「ノでくれわれ」
 「しよん」ト「アリタルモノナルコト」ト「充分ニ證シ得ルキハ尙ホ」ト「どらそと」ト「ノで」
 「くれわれ」ト「しよん」ト「アリタルモノトス譬ヘ」ト「ハ」ト「せとろる」ト「カ讓渡スノ意ヲ」
 「示ス」ト「キハ假令其事ヲ讓受人ニ通知セサルモ爲メニ讓渡ノ完全ナルヲ」
 「害スルコトナシ」

一時ハ夫婦ノ間ニ起リタル取引ニハ右ノ原理ヲ適用スルコト能ハスト
 ノ議論行ハレ判事ノ中ニモ其說區々ナリシカ一千八百八十二年有夫
 婦財産條例ニヨリ夫婦間ノ取引モ他ノ場合ト異ナルコトナシト定メラ
 レタリ

次ニ論スヘキハ如何ナル財産カ「どらそと」ト「ノ制ニヨリ處分スルコト」ト「得」
 「ヘキヤ」ト「ノ點ニ」ト「アリ凡ソ財産ハ其動産タルト不動産タルト」ト「チ問ハス」ト「又」
 「ト」ト「が」ト「る」ト「ゑとて」ト「ト」ト「ナルト」ト「ゑくいて」ト「ト」ト「ぶる」ト「ゑとて」ト「ト」ト「が」ト「る」ト「ト」ト「ナルヲ論セス」

入スル所ノ利益ヲ原告ニ負債ノ抵當トナセリ元來此「うゐんざー」ト言
 ヘル所ハ倫敦ヲ距ル十五里許ニ於テ女皇ノ宮殿アリテ政事ニ參スル
 所ナリ此所ノ寺院ハ別ニ務ムヘキトテハナク唯一年ニ二十一日間
 墓參ヲナスノ務アルノミナリ此場合ニ於テ僧正ハ寺院ニ收入スル所
 ノ利益ハ猶ホ年俸恩給ト同シケレハ之ヲ抵當トスルコトアルモ有効ナ
 ルモノニアラスト主張セシカ裁判所ハ若シ右ノ務ニシテ公務ナルカ
 又ハ公務ト關係ヲ有スルモノナレハ答辯ノ理由相立ヘシ何トナレハ
 若シ公務ニ關スルモノトセハ之ヲ抵當トスルニ於テハ公益ヲ害スル
 コト大ナレハナリ夫ノ軍人ノ月給ノ半額ヲ受ケテ待命スルモノ、如キ
 之ヲ抵當トスルコト能ハサルヘシ是凡ソ官吏ハ公務ヲナスコトヲ必要ト
 スルノミナラス亦之ヲナスノ位置ヲ有スルヲ必要トスルヲ以テ其給
 與アルナリ去レヒ過去ノ功勞ニヨリ受クル恩給ノ如キ現時公務ヲナ

スカ爲メニ受クルモノニアラサルモノハ之ヲ抵當トナスモ有効ナリ
 是通則ナルモ本件ニテモ僧正ノ收入金ハ右ノ性質ヲ帶ヒサルヲ以テ
 其答辯ハ立ダサリシナリ

又政府ノ條例ヲ以テ特ニ禁スル財産アリ譬ヘハ英國ニ有名ナル「まゐ
 ばろー」公ノ功勞ニ酬ユル爲メ公ノ家族ニ永代年金ヲ議院ヨリ附與セ
 シカ此財産ハ公ノ功勞ニ酬ヒ其家族ノ位ヲ保タシムルカ爲メ給與ア
 ルモノナレハ之ヲ讓與スルコトヲ得ス故ニ讓受クルモノアルモ之ヲ受
 クルコトヲ得サルモノトセリ

又陸海軍將校及其寡婦若クハ制限ニ從ヒ恩給ヲ受クル所ノ者ハ其恩
 給ヲ讓與スルコトヲ得ス去レヒ公務ノ爲メニ要スル所ノモノニアラサ
 ルキハ此限ニアラス

凡ソ財産ヲ享有スル方法ハ英國内ト雖モ土地ニヨリ其趣ヲ異ニシ或

ル領地ニテハ「悉くいて」にふる、悉くして」ノ制ニヨリ「どらそと」ヲ設定
 スルヲ能ハサルモノトセリ
 以下「どらそと」ニヨリ顯ハレタル目的ノ適法ナルカ否ヲ講述セントス
 凡ソ「どらそと」ニヨリ明ニ顯ハレタル目的ハ當ニ公益ニ違背スヘカラ
 サルノミナラス又布告條例等ニ適合セサルヘカラス若シ之ニ違フ
 アルキハ其「どらそと」ハ無効ナルモノトス去レテ其無効ナル部分他ノ
 部分ト區分スルヲ得テ此等無効ナル部分ニ關係ナキモノハ有効ナ
 ルモノトス
 今其著シキ例ヲ擧クレハ「どらそと」ノ目的タル非常ニ永ク財産ヲ牽束
 シテ其融通ヲ妨クル場合ノ如キ身代限ノ債主ノ權利ヲ蔑如シテ永ク
 財産ヲ保持スルカ如キ法律カ與ヘタル財産所有權ヲ制限スルカ如キ
 不道德詐欺不正ヲ獎勵スルカ如キ又ハ婚姻ヲ制限スルカ如キ場合ニ

財産法

ハ其「どらそと」ハ無効ナルモノトス
 其他條例ニ於テ禁スルノ場合一々枚舉ニ違アラスト雖モ其尤モ重モ
 ナルノハ「も」ト云ヘル條例ヲ犯シタル場合ナリ
 「どらそと」ニ或ル人ノ生涯間又ハ數人ノ生存間財産ヲ預カラシメ其
 者ノ死後尙ホ二十一年間其財産ヲ預カラシムルカ如キハ公益ニ反シ
 社會ノ融通ヲ妨クルモノナルヲ以テ英吉利法律ハ之ヲ許サ、ルナリ
 又財産ヲ處分スルニ當リ由テ以テ「せそちゆい、く、どらそと」ノ得ル利益
 ハ之ヲ債主ノ請求ニ對シテ責ヲ負フヲナシト定ムルカ如キハ無効ナ
 リ又身代限ヲナスニ當リ「どらそと」ニヨリ其財産ヲ讓渡スカ如キハ無
 効ナリ何トナレハ斯ル場合ニハ法律ニ反シ公益ヲ害スレハナリ去レ
 テ婦女ノ婚姻ヲナスニ當リ財産ヲ讓渡シ其財産ハ夫ノ生存間ハ讓渡
 スヲ得スト謂ヘルカ如キ「どらそと」ハ有効ナリ蓋シ英國ニテハ古來

夫ノ權利大ニシテ婦ノ財産ヲ浪費スルノ惡風アリテ婦ノ權利ヲ害スルノ恐アレハ之カ保護法ヲ設ケタルモノナリ
 又未來ニ於テ生レントスル私生ノ子ノ爲メニ作リタル「どらそと」セ
 どろる「カ死後ニ在テ斯ノ如キ不品行ヲ獎勵スルニ均シキモノナレハ
 右ノ「どらそと」ハ無効ナリ但シ未タ生レサル子ノ爲メニ「どらそと」ヲ作
 ルカ如キハ其目的ノ確定セサルモノナルヲ以テ是亦「どらそと」ノ無効
 トナル一ノ理由ナレトモ是ヲ後ニ説明スヘシ元來英國ニテハ私生ノ子
 ヲ虐待シ妾ノ如キハ公認スルコトナシ故ニ右ノ如キ「どらそと」ヲ無効ト
 スルナリ
 又例ヲ舉クレハ遺言者カ遺言書ニヨリ其子ト甲乙ノ二女及ヒ丙ナル
 婦人ノ産ミタル子其他今後生ル、所ノ子ニシテ遺言者ノ爲メニ子孫
 ト稱スヘキ者ノ爲メニ作リタル「どらそと」ハ有効ナリヤ否ヤトノ問題

ニ於テ斯ノ如キ「どらそと」ハ有効ナルコトナレリ其時判事ノ謂ヘラク
 元來惡事ヲ獎勵スル「どらそと」ナレハ法律ニ於テ許スコトナク又惡事ニ
 基ツキタル約定ハ法律ハ之ヲ無効トス其他「どらそと」ノ目的ヲ達スル
 爲メニ不適當ナル條件ヲ實行スルコトヲ要スル場合モ法律ニ於テ許ス
 コトナシ而シテ「どらそと」ノ目的タル永ク續クコトカ或ハ續クヲ要スルコ
 トナル時ハ其事タル不法ノ條件タルニヨリ法律之ヲ禁ス譬ヘハ其ノ條
 件未來ニ於テ惡事ヲナスニアルキハ其「どらそと」不法ナリ去レトモ遺言
 者カ死スル時既ニ生レタル私生ノ子ニ與フル爲メニ作リタル遺言書
 ハ不法ニアラス他ノ判事曰ク此場合ニ於テ遺言書ヲ可トスル所以ハ
 私生ノ子ノ親カ自ラ子ノ爲メニ設クルモノニテ毫モ他人ノ不品行ヲ
 獎勵スル等ノ事ナケレハナリ元來遺言ヲ法律ニ於テ助ケサル場合ハ
 遺言者カ不品行ヲ獎勵スルノ恐レアレハナリ然ルニ此場合ニ於テハ

之ヲ獎勵スルノ道ナク又遺言ハ遺言者ノ獨リ爲セル事ニテ丙之ヲ知
 リタルコトナク設シヤ又丙ニ於テ之ヲ知ルトスルモ遺言者ノ死亡スル
 マテノ間ニハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ヘキモノナリ故ニ本件ニ
 於テハ遺言書ハ法律ニ於テ許可シ毫モ不品行ヲ獎勵スルモノニアラ
 サルナリ殊ニ獎勵スルコトアリトスルモ斯ル理由ハ漠然タルコトニシテ
 以テ本件ノ裁判ヲ動かスニ足ラス即チ遺言書ハ遺言者ノ死後効アル
 モノニシテ生前不法ノ事ヲナスカ爲メニ設クルモノニアラサレハ不
 法トナスニ足ラサルナリト
 又男女アリ未來ニ於テ離婚セシコトヲ約シ離婚ノ時ニ効チ有スルカ如
 キ「どらすど」ハ不法トスヘシ去レト既ニ離婚シタル上ニテナシタル「ど
 らすど」ハ有効ナリ蓋シ此場合ニ於テハ其離婚シタル婦人ヲ扶助スル
 爲メニ設ケタルモノナレハナリ

又離婚シタル上ニテナシタル約束ト雖モ直ニ行ハル、ニアラスシテ
 後ニ効チ生スヘキモノハ有効ナラス去レト離婚ノ時ニ當リテナシタ
 ル「どらすど」ハ不法ナルモノニアラス蓋シ此場合ニ於テハ離婚ヲ獎勵
 スルノ弊害ナクレハ毫モ社會ノ公益ヲ害スルコトナキヲ以テナリ
 又「どらすど」チ或ル女ニ與ヘ此「どらすど」チ汝ニ與フレト若シ一年ニ五
 千圓以上ノ歳入チ有スル男子若クハ特別ノ職業アル男子ト結婚スル
 キハ無効トスヘシト記載シタルキハ其「どらすど」ハ有効ナラス何トナ
 レハ斯ル約束ハ婚姻ヲ制限スルモノナレハナリ去レト其條件タル特
 別ノ人ヲ指名シテ之ト婚姻スルコトヲ禁シタルニ止マルキハ單ニ其人
 一人ニ對シ制限スルモノナルニヨリスノ如キ「どらすど」ハ有効ナリト
 ス

又或ル人カ遺言書ヲ作り之ニヨリ配當ノ殘金ヲ「どらすど」ニ讓渡シ

夫レヨリ生スル金圓ヲ娚及ヒ姪二人ニ與ヘ娚ノ生存シテ再婚スルコ
 アルキハ姪ノ子ノ爲メニ與ヘ其子ナキハ遺言者ノ妹ノ子ニ與フヘ
 シトノ事ヲ定メシカ娚ノ婚姻スルニ當リ姪ノ子ニ讓ルコトハ無効ナラ
 ストセリ其時判事ノ言ニ元來婚姻ヲ制限スル傾向アルコトニ就テハ此
 規則タル國是ニ背キタルニモアラス唯理由ナシニ定メタル法律規則
 ナリ故ニ如何ナル場合ニテモ此規則ヲ用ユヘシトハ考フヘカラス今
 日ノ如キ開明社會ナラシムルハ斯ル規則ヲ定ムルコトナカリシナラント
 雖モ古來ノ習慣ニテ今日ニ存スルモノナレハ此規則ヲ濫用シテハ不
 可ナリト去レヒ右ハ第一回ノ婚姻ノ場合ニシテ第二回ノ婚姻ノ場合
 ハ如何ナルヤ未タ先例ナシ國是トシテモ第一回ノ婚姻ト第二回ノ婚
 姻トハ大差アリ凡ソ第二回ノ婚姻ノ場合ニテハ贈與者ハ男又ハ女ノ
 爲メニ特別ニ「どらそと」ヲ設クルカモ知レス若シ男ナレハ其生存間贈

與シ其死亡後ハ妻ニ與フルノ目的ヲ以テシタルカモ知レサルナリ故
 ニ此場合ニ於テハ能ク其事情ヲ察シ右ノ「どらそと」ハ正當ナリト決ス
 ヘキモノトス
 又「どらそと」ヲ設ケ其目的タル毫モ「せそちゆい、く、どらそと」ノ利益ニナ
 ラサルカ如キ場合ニ於テハ其「どらそと」ハ無効ナリ譬ヘハ遺言者カ家
 屋ヲ讓渡シ二十年間ハ四間ノ外錠ヲ下シテ開クコトヲ許サス其後ニ至
 リテ之ヲ全ク甲ニ渡スヘシト定メタリシカ裁判所ハ二十年間家ヲ閉
 ツルコトハ不可ナレハ死後二十年間ハ讓渡ナカリシモノト看ルヘシト
 判決セリ

凡ソ「どらそと」ヲ作ルニハ書面ニヨリ記名シタルモノナラサルヘカラ
 ス如何ナル種類ノ「どらそと」ニテモ右ノ書面ニヨリ之ヲ證明スルカ又
 ハ他ノ目的ヲ説明スル所ノ書面ニヨリ之ヲ證明スルコトヲ得ヘキモノ

ナラサルヘカラス而シテ其書面ハ法律上「どらそと」ヲ作り得ヘキ人ノ
 作りタルモノナルヲ要ス若シ其者ノ作りタル「どらそと」ナルモ詐欺ニ
 出テタルモノナルキハ無効ナリ
 凡ソ「どらそと」が、る、ゑ、て「どらそと」ニ於テ有スル財産ヲ讓渡スニ
 ハ「ゑ、く、い、て、い、ぶ、る、ゑ、て、い、ど」ヲ有スル「せ、そ、ち、ゆ、い、く、どらそと」ニ於テ
 其「どらそと」ヲ作り之ニ記名スルコアルヲ要ス
 右ハ不動産ニ關スル規則ナリ動産ニ關スル「どらそと」ハ口頭ニテモ證
 明シ得ヘシ又動産タルト不動産タルトナ問ハス遺言ニヨリ作ル「どら
 そと」ハ法律ニ於テ要スル所ノ遺言書式ノモノナラサルヘカラス而シ
 テ此場合ニ於テ遺言書中ニ不動産配當受主又ハ動産配當受主トシテ
 記名サレタル者ハ死者ノ更ニ遺言書ニ據テ指示シタルニアラサレハ
 其財産ノ「どらそと」トナルコトヲ得ス但シ詐欺アリタル場合ハ格別ナ

リトス

又遺言ニヨリ或人ヲ「どらそと」トシテ「どらそと」ノ目的ヲ達セシムル
 爲メ財産ヲ讓渡スニハ遺言書外ノ書面ニテ作ルコトヲ得サルモノトス
 而シテ斯ノ如キ場合ニ於テ此「どらそと」ヲシテ「せ、そ、ち、ゆ、い、く、どらそ
 と」ノ地位ニ立タシムルニハ同一ノ手續ヲ履ミテ作りタル遺言書ナル
 ヲ要ス若シ此手續ヲ履ミタルニアラサレハ遺言者ハ配當受人ヲシテ
 「せ、そ、ち、ゆ、い、く、どらそと」ヲタシムルノ目的アラサリシコト明ナルヲ以テ
 「どらそと、ぶ、ろ、ば、る、ち、い」ハ遺言者ノ相續人又ハ近親ノ者ニ移ルヘキモ
 ノニシテ原語ニ所謂「れ、ざ、る、ち、ん、ぐ、どらそと」トナルヘシ「れ、ざ、る、ち、ん、ぐ、
 どらそと」トハ始メニ作りタル「どらそと」法律ニ於テ許サハルニヨリ「ど
 らそと、ぶ、ろ、ば、る、ち、い」ハ戻リテ遺言者ノ權利ヲ繼クヘキ相續人又ハ近
 親ニ歸ルモノヲ謂フ、譬ヘハ或ル巨富家甲某石炭山ノ幾分ヲ有シ又或

ル銀行ノ仲間ノ一人ナリシカ其銀行ノ他ノ仲間ノ者ハ甲ハ右ノ石炭山ヲ以テ銀行仲間ノ爲メニ「どらそと」ぶろばるち「トナシタルモノナルヲ主張シ出訴セシカ判事ハ雙方兩造ノ意見ヲ聞テ曰ク原告ニ於テハ石炭山ノ持主ノ手紙ニ其人ハ己レ自ラ「どらそち」トナリテ銀行仲間ノ爲メニ所有スルモノナリトノ意顯ハル、カ故ニ之ヲ以テ充分「どらそと」ノ成立シタルヲ知ルヘシト謂フト雖モ被告ニ於テ答辯セラルカ如ク斯ノ如ク大切ナルヲ即チ「どらそと」ヲ作ルニ當リ漠然ト記シタル手紙ニ「どらそと」ノ意顯ハル、ヲ以テ「どらそと」ノ成立スルモノトセハ裁判所ハ恆ニ「せどろる」ノ意ニ反シテ「どらそと」ヲ實行セシメサルヲ得サルニ至ラン故ニ其果シテ「どらそと」ノ成立セシヤ否ヤヲ知ルニハ明カニ「どらそと」ヲ作リタルヲ示シタル正式ノ證據アルヲ必要トス然ルニ本件ニ於テハ明カニ「どらそと」ヲ作リタルヲ證シ得ルモ

ノニアラス故ニ原告ノ請求ハ相立難シト
又或ル訴訟事件ニテハ甲ハ放蕩家ニシテ負債夥多アリシヲ以テ其婦乙ノ兄丙ト相談ノ上甲ノ不動産及ヒ商業ヲ悉皆丙ニ讓渡シ其代リニ丙ハ乙及ヒ其子孫ノ爲メニ右ノ財産ヲ處分スルヲ約セリ此場合ニ於テ明ニ丙ハ「どらすち」トナリタル旨ノ文書ハナカリシト雖モ諸書ヲ集收シテ照合スレハ其「どらすち」ナルヲ明ナリシ、而シテ丙ハ質取主ニ金ヲ拂フニ當リ渡シタル書面ニヨレハ乙ノ有スル動産及ヒ不動産ノ「どらすち」トシテ右ノ金額ヲ拂フタルモノナルヲ明ナリキ其後丙ハ遺言書ヲ遺サスシテ死去シ丙ノ不動産ハ悉皆乙ノ手ニ移レリ蓋シ乙ハ丙ノ相續人トシテ之ヲ得タルナリ然ルニ甲ハ乙ノ夫ナリトノ廉ヲ以テ右ノ財産ヲ得ント欲セシカ乙ハ之ニ抗辯シテ曰ク丙ハ既ニ乙及ヒ其子孫ノ爲メニ「どらすち」トナリタルモノニテ丙ノ財産ハ「ど

らすとト其ニ其責ヲ負ヒテ乙ニ移リタルモノナレハ所謂とらすと、
 るをるちトニシテ甲ハ之ヲ得ルヲ得スト裁判所ハ判決シテ曰ク被
 告ハ右ノ關係ヲ以テとらすとナリト主張スト雖モ其果シテとらすと
 ナリヤ否ヤ明ニ之ヲ記シタル書面ナク唯被告ノ主張スル所ハ丙ヨリ
 質取人ニ入レタル書類ニ自ラとらすちトシテノ文言アルヲ以テ其
 根據トスト雖モ元來右ノ書類ニとらすちトアルハ丙カ甲ノ負債ヲ
 拂フニ就キとらすちトシテ記シタルモノナルヤモ知ルヘカラス故
 ニ漠然スルヲノミコテハとらすとノ關係アリト謂フヲ得サルナリト
 動産ハ不動産ノ如ク其手續嚴格ナラス畧式ニテモ亦とらすとヲ創成
 スルヲ得ヘシ今一例ヲ舉ケンニ或ル婦女其夫トノ間ニ生レタル子
 ノ爲メニ株券ヲ渡シ口頭ニテとらすとヲ作ルノ意ヲ示シ日記帳ニ此
 株券ハ其子ノ爲メニ買フタルモノナリト記シ記名調印ハセサリシト

雖此之ヲ以テ正式ノ證ヲ備ヘサルモ口頭ノ證ヲ支フルニ足ルヲ以テ
 充分とらすとノでくれあれト云ふアルモノトセラレタリ
 又一例ヲ舉ケンニ債主ハ負債主ニ金ヲ渡シ此金ハ甲某ノ爲メニとら
 そちトシテ預カルヘシト負債主ハ此言ニ從ヒ負債ノ幾分ヲ甲ニ拂
 ヒシカ此場合ニ於テモとらすとハ充分成立シタルモノトセリ
 生存中ニ作リタル遺言書ニシテ死後効ヲ生スル所ノとらすとハ法式
 ニ從ヒ記名調印シタル書面ニヨリ証スルキハ詐欺アルニアラサレハ
 有効ナリ今其近例ヲ舉ケンニ一千八百八十二年ニ死去シタル某遺言
 者ニ以テ被告ニ其財産ヲ讓渡シ被告ヲ以テ其專任財産處分人トナセリ
 被告ハ代理人ニシテ且其遺言書ヲ作リタル人ナルカ證ヲ舉ケテ曰ク
 遺言者ノ意ハ被告カ遺言者ノ令シタル贈與ノ目的ヲ達スル爲メニと
 らそちトシテ財産ヲ所持シ其贈與ノ如何ハ遺言者後ニ至リテ指示

ス等ナリシカ遺言者生存中ハ遂ニ受贈者ヲ差圖スルヲナクシテ死シ
 後ニ被告ニ宛テタル封書二通アリシ而シテ其文中ニ被告ハ右ノ財産
 ノ中二十五磅ヲ取り之ヲ以テ物品ヲ買入レ其遺言者ヨリ得タルノ紀
 念トナシ其餘ハ之ヲ甲女ニ與フヘシト記セル旨ヲ陳述セリ甲女ハ又
 證シテ曰ク遺言者ハ封書ヲ二通作りシヲ余ニ話シ又一通ノ紛失セ
 シルノ豫備トシテ二通ヲ作レル旨ヲ話シ且其所在モ告ケ遺言者死去
 ノ後ハ之ヲ被告ニ送ルヘキ旨ヲ告ケリ故ニ余ハ其命令ニ從テ之ヲ被
 告ニ送付セリト此事實ニ於テ被告ノ「どらそち」ナルコトハ確定セリト
 雖モ被告ハ果シテ甲女ノ「どらそち」ナルヤ將タ遺言者近親ノ「どらそ
 ち」ナリヤ定ムヘキノ點ナリトス判事實ヲ吟味シテ謂ヘラシ凡ソ
 遺言者カ遺言書ニ據リ明示セサル場合ニハ最モ普通ノ道ニ從テ其「ど
 らそち」ヲ示サ、ルヘカラサルモノナルニ甲女ノ爲メニ設ケタル「どら

そと」ナルコト明ナラサルニヨリ本件ニ於テハ被告ハ「どらそち」ナルコ
 ト承認スルモ到底遺言者ノ近親ノ爲メニ「どらそち」トナリタルモノ
 ナリ併シ此訴訟ニ於テ注意スヘキ點ハ此場合ニハ被告自ラ己ハ遺言
 者ノ利益ヲ得ルモノニアラサルコトヲ謂フヲ以テ可ナリト雖モ若シ故
 ラニ之レカ利益ヲ得ルモノナリト謂ヒ故意ニ其利益ヲ得ントスルキ
 ハ則チ是レ詐欺ナリ去レモ若シ被告カ自ラ「どらそと」ノ財産ヲ得ルコ
 トハ遺言者ノ意ニアラサリシコトヲ知ラスシテ己自ラ遺言書ノ利益ヲ得
 シコトヲ企ツルコトアルモ右二通ノ封書アルカ爲メニ被告ノ利益ヲ褫フ
 ヘカラス故ニ甲女并ニ近親ハ俱ニ一ノ財産ヲ得ルコト能ハサルヘシ、又
 遺言書ヲ作ルニ當リ被告ニ於テ其旨ニ「どらそち」トナルニ止マルコ
 トヲ知リタルト否トヲ問ハス其後遺言者ヨリ被告ニ「どらそと」ノ利益ヲ
 得ヘキモノニアラサルコトヲ通知シ「どらそと」ぶるばる「どらそと」ニ就キ特別

ノ「どらそと」ヲ差示シタルカ或ハ如何ナル「どらそと」ニヨリ處分セシムルカノ意ヲ示サストモ被告ニ於テ單ニ「どらそと」ノ資格ニテ財產ヲ預カルヘシト明ニ承諾スルキハ被告ハ「どらそと」トシテ財產ヲ得タルモノニシテ遺言者ノ意思通り之ヲ實行スルノ義務アルモノトナサハルヘカラスト

以上ノ例ニ於テハ皆ナ詐欺ナカリシ場合ナリ今詐欺アリタル場合ヲ舉ケシニ相續人自ラ親族ノ爲メニ必ラス配當ヲナスヘシト言ヒ依テ死者ヲシテ遺言書ヲ作ラシメサリシ場合ニ於テハ相續人ニ詐欺アルモノトス故ニ此場合ニハ假令書面ナキモ尙ホ在ルモノ、如ク看做シ相當ノ分配ヲナサシムルモノトス判事曰ク凡ソ英國古來ノ格言ニ據レハ政府ノ法律ヲ以テ詐欺ヲ助クルコトナシ若シ詐欺ヲ達スル機關トシテ政府ノ法律之カ媒介トナルコトアラハ之ヲ退ケシムルコト能ハサレ

財産法

此レニヨリ所有權ヲ得タル人ヲシテ詐欺ヲ以テナサントシタル所ノ事柄ニ就キ其責ヲ負ハシム彼ノ詐欺條例遺言書條例ノ如キモ此方法ニ據テ作リタルモノナリ若シ死セントスル所ノ者近親又ハ相續人ノ勸メニヨリ遺言書ヲ作ラス又ハ其人カ遺言書ヲ作りナカテ更ニ記入ノ人ヘ財産處分ノ方法ヲ示シ其人ヲシテ其意ヲ實行セシメントシテ其意ヲ示サスシテ止ミタルカ如キ場合ニ於テハ書面ニ認メサリシハ全ク詐欺ニヨリタルモノニテ配當ヲ受クヘキ人ハ「どらそと」ノ責ヲ負ヒ其財産處分ノ義務アルモノトス是詐欺ニヨリ利益ヲ受クヘキ譯ナケレハナリ

又一例ヲ舉ケンニ原告ハ被告ニ借地權賣却ノ約定書ヲ渡シ且口頭ニテ原告ノ爲メ其財産ニ就キ「どらそと」トナルヘシトノ副約束ヲナセリ此場合ニ於テ被告ハ原告ノ爲メニ「どらそと」トシテ借地權ノ幾分

財産法

チ有セシカスノ如キ「どらす」ハ口頭ノ証據ニテ證明スルヲ得ヘシ
何トナレハ既ニ其約束アリタル事實アルニ口頭ノ証據ヲ許サ、ルキ
ハ詐欺ヲ行ハシムルニ至ルヘケレハナリ
以上ハ一見シテ「せとるめんど」ノ原素ヲ具備スルヤ否ヤ知リ得ヘキ場
合ヲ講セリ是ヨリ「せとるめんど」チ一見シタルニ於テハ其原素アルカ
如ク見ユルモ實際無効トナルヘキモノアルヤ否ヤ知ルニ必要ナル
場合ヲ講述スヘシ

第一 何人カ「せとる」トナリ得ヘキヤヲ論ス
凡ソ財産ニ就キ「ど」がる「若クハ」ゑくいて「ぶる」ノ權利ヲ有スル者又
ハ其權利ヲ讓渡スヘキ權力ヲ有スル者ハ其權利ニ就キ「どらす」チ作
ルヲ得ヘシ即チ其者ハ「せとる」タルヲ得ルモノトス故ニ幼年者
ハ英國現行法ニテ充分結約スルノ能力ナキニヨリ確乎トシテ取消ス

ヘカラサルノ「どら」チ作ルヲ得ス若シ之ヲ作ルアルモ其「どら
そ」ハ後ニ至リ之ヲ取消スヲ得ヘシ去レ「廿一歳以上ノ男子及ヒ
十七歳以上ノ女子」ニシテ婚姻スルニ當リ裁判所ヨリ許可ヲ得テ之
作りタルキハ現ニ有スル動産及ヒ不動産ニ就キ確乎トシテ取消スヘ
カラサルノ「せとるめんど」チ作ルヲ得ルモノトス
又既婚婦ハ一千八百八十二年前ニアリテハ其財産ニ就キ特權ナキ以
上ハ一切「どら」チ作ルヲ能ハサリシカ其後ニ在テハ己ノ有スル財
産又ハ讓渡スヲ得ヘキ財産ニ就キ夫ノ同意ヲ待タスシテ「どら」
チ作り之ヲ他人ニ讓渡スヲ得ルヲナレリ
又囚徒ハ特赦又ハ減刑ニヨリ放免セラル、ニアラサレハ其服役中「ど
ら」チ作ルヲ能ハサルモノトス

第二 何人カ「せとちゆい、く、どら」トナリ得ヘキヤヲ論ス

レモ右ノ場合ニ於テ「せとるる」若シ威力ノ止ミタルカ又ハ其効力ヲ知
 リタル上之ヲ黙視シテ不問ニ附シ去リ若クハ實行スルキハ最早取消
 スヲ得サルモノトス
 若シ又「せとるる」ト「せとちゆい、く、どらそと」トノ關係タル親ト子、後見人
 ト被後見人、代言人ト依頼者醫師ト患者、僧侶ト門徒又ハ「せとちゆい、く、
 どらそと」カ「せとるる」ノ「どらそと」ナリシカ如キ場合ニ於テハ「せとる
 る」と「ノ箇條至當適法ノモノナル」又ハ「せとるる」カ一々取引ノ何物
 タルヲ熟知シタルノ上ナシタルヲ「せとらゆい、く、どらそと」ニ於テ證
 明スルノ責アリトス而シテ普通ノ場合ニ於テハ「せとるるめんど」ノ箇條
 適法至當ノモノナルヲ證シ非常ノ場合ニ於テハ「せとるる」カ一々熟
 知ノ上ナシタルモノナルヲ證スヘキモノトス
 右ノ箇條カ如何ナルモノハ普通ニシテ如何ナルモノハ非常ナルカソ

ハ各場合ニ就テ定ムルヲニシテ豫メ一定ノ規則ヲ定ムルヲ能ハスト
 雖モ取引ノ効力ヲ支ユル爲メ「せとるるめんど」ノ中ニ之ヲ取消スヲノ權
 力アル旨ヲ記入スルト否トハ必要ナラス又相當ノ代言人ニ相談シタ
 ルヤ否ヤモ敢テ必要ニハアラサルナリ以下例ヲ舉ケテ以上ノ原則ヲ
 解明スヘシ

爰ニ甲某アリ其子乙ノ爲メ或ル銀行ノ役員丙ナル者ト連名ニテ株券
 ナ讓渡シ丙ヲシテ乙ノ爲メニ右ノ株券ヨリ生スヘキ利益ヲ計算セシ
 メタリ其後甲ハ遺言書ヲ改正シ右ノ「どらそと」ヲ取消サント欲セシカ
 其時裁判所ニ於テ判事ノ言ニ凡ソ讓渡ノ證據明ニシテ毫モ疑義ノ其
 間ニ存セサルモノナルキハ後ニ至リテ之ヲ取消スヲ能ハサルヤ素ト
 ヨリ言ヲ待タス况ンヤ此場合ニ於テ甲ノ乙ニ讓渡シタルハ己ノ子ノ
 爲メニ養育料ヲ豫備シタルモノナリ何ソ後ニ至リテ之ヲ取消スヲ

得ン故ニ遺言書書キ改メタリト雖モ其効力ナシト謂ヘリ
 又放蕩家甲某ナル者アリ他人ヨリ金ヲ得ルノ權ヲ有セシカ代言人及
 ヒ「どらそち」ノ爲メニ欺カレ右ノ金圓ヲ「どらそと」ニヨリ「どらそち」
 ニ讓渡ス「ト」ナレリ而シテ其「どらそと」タル甲ノ生存間ハ右ノ金圓ノ
 幾分ヲ甲ニ與ヘ甲ノ死後ハ其妻子ノ爲メニ之ヲ與ヘ若シ妻子ナケレ
 ハ其從兄弟ニ與フヘシト謂フニアリ而シテ其「せとるめん」と「ハ取消
 ノ權利アル」ヲ記サス又財産ヲ甲ニ於テ處分シ得ル「ヲ」記サス又右
 ノ「どらそと」ヲ如何ナル方法ニテ新ニ任スヘキヤモ記サスト雖モ甲ニ
 於テハ充分「どらそと」ヲ作ル「ト」就キ之ヲ熟知セリ其後甲ハ右ノ「どら
 そと」ヲ取消サント欲シ裁判所ニ出訴セシカ判事ノ曰ク何人ト雖モ「ど
 らそと」ヲ作ルニ當リ其利益ヲ得ントスル者ハ「せとるめん」カ充分熟知シ
 テナシタルモノナル「ト」證明スルノ責アリト雖モ其「せとるめん」と「ニ

取消ノ權利アル「ト」記サルハカ故ニ右ノ「せとるめん」と「ハ無効ナリト
 謂フヲ得ス若シ「せとるめん」ニ於テ充分熟知ノ上ニテナシタルモノナレ
 ハ夫レニテ充分ナリ故ニ甲ハ之ヲ取消ス「ト」能ハサルナリト又他ノ判
 事ハ「せとちゆい、く、どらそと」ニ利アル説ヲナセリ其言ニ先例ヲ案スル
 ニ「ぼらんた」¹、「どらそと」ノ「せとるめん」と「ハ正當ナルヤ否ヤハ其利益
 ヲ享クル者ニ於テ之ヲ證明スルノ責アルカ如ク見ユレト其實決シテ
 左ニアラス凡ソ年齢熟シ精神充分ナル者ニ於テナシタル「ト」ハ雙方共
 ニ其責ナカルヘカラス故ニ若シ後年ニ至リ先キニナシタル「どらそと」
 ヲ取消サントスルカ如キ者アラハ其者ニ於テ之ヲ取消スヘキ理由ヲ
 示スノ責アリ要スルニ此規則ハ「せとるめん」タル「ト」せとちゆい、く、どらそ
 と「ナルト」ヲ問ハス原告タル者舉證ノ責アリト又或ル訴件ニテ某判事
 ノ曰ク「ぼらんた」¹、「せとるめん」と「中ニ記スヘカラサル箇條ヲ記入

スルキハ其せどる宛んどヲ取消スヲ得ヘシト謂ヘル者アレヒ元來
 右等ノ事柄タル裁判所ノ干涉スヘキコニアラス裁判所ハ「せどる」ニ
 於テ熟知ノ上作リタル「せどる宛んど」ナレハ其條件ノ如何ハ毫モ問フ
 ナ要セサルナリ故ニ若シ「せどる宛んど」ノ中ニ通常人ナレハ爲スマシ
 キ事柄ノ記入アレハ之ヲ以テ「せどる」カ何事ナシタルヤ知ラサリ
 シ一ノ理由トナスヲ得ヘシト雖モ其他ノ場合ニ於テハ箇條ノ如何ニ
 ヨリ「せどる宛んど」ヲ取消サシムルコトナシト
 又寡婦甲某僧侶ノ爲メニ欺カレ「ぼらんた」と「どら」と「チ作りシカ右
 ハ僧侶ト門徒ノ間柄ニシテ其「せどる宛んど」ハ無効ナリト判決セラレ
 タリ
 又未丁年者甲某其父ノ監督中己ノ財産ヲ父ニ讓渡スヘキ「せどる宛ん
 ど」ヲ作レリ此場合ニ於テ其父右ノ「せどる宛んど」ノ有効ナルコトヲ證セ

ンニハ甲ニ於テ獨立ノ代言人ニ相談シ「せどる宛んど」ノ何タルコトヲ熟
 知ノ上其利益ヲ與ヘタリト謂フコトヲ立證セサルヘカラス若シ證明シ
 能ハサルニ於テハ「せどる宛んど」無効トナルヘシ
 又甲某其家ニ同居セル己ノ子乙ニ迫リ威力ヲ以テ其義兄弟ノ爲メ財
 産ヲ讓渡スヘキ「せどる宛んど」ヲ作ラシメタリ其後時ヲ經テ乙ハ右ノ
 「せどる宛んど」ヲ取消サント欲セシカ裁判所ニ於テハ乙若シ其當時速
 ニ出訴シタランニハ之ヲ取消サシメタルナルヘシト雖モ乙ハ速ニ之
 ヲ訴ヘス永年黙止シテ其手續ヲ履行シタルカ故ニ最早之ヲ取消サシ
 ムルコト能ハス蓋シ此場合ニ於テハ幼年ノ時ニナシタル「せどる宛んど」
 ヲ追認シタルモノト見レハナリ故ニ之ヲ追認スルノ所爲ヲナシタル
 片ハ其所爲タル全ク「せどる宛んど」ノ何物タルコトヲ知ラスシテナシタ
 ルニアラサレハ裁判所ハ助ケテ假シテ其取消ヲ命スルコトナシト謂ヘ

又甲某死去セントスルニ臨ミ嘗テ作リタル「せとるめんど」ニ記名調印セリ去レ其代理人ハ甲ノ變心セシコト恐レ右ノ「せとるめんど」ニ取消スコト得ヘシトアルヲ故意ニ删除シ之ヲ甲ニ讀聞カサスシテ記名調印セシメタルナリ故ニ此場合ニハ其「せとるめんど」タル取消スコト得ヘキモノトス

又詐欺ニヨリ作リタル「せとるめんど」ハ「ぼらんたり」せとるめんど「ナルト」どらそど、べーそど、あばんばりゆ」ノ「せとるめんど」ナルトヲ問ハス裁判所ハ其實行ヲ助ケサルモノトス今其例ヲ舉ケンニ甲某ナル婦人其夫ニ勸メテ離婚ノ爲メ「せとるめんど」ヲ作ラシメ其實姦夫ト同居セシカ爲メ之ヲ得タルモノナルキハ右ノ「せとるめんど」タル無効ナリ去レハ甲若シ「せとるめんど」ヲ作ラシメタル時惡意ナク其後ニ姦通ヲナ

シタルカ如キ場合ニ於テハ「せとるめんど」ヲ作ルノ當時詐欺ナカリシモノナレハ右ノ「せとるめんど」ハ有効ナリトス故ニ後ニ至リ之ヲ取消スコト能ハサルナリ

又「ぼりゆゑ」ふる、こん玄どれ「玄よん」ニヨリ作リタル「せとるめんど」ニテモ「せとるる」カ老耄ノ爲メ「せとるめんど」ノ何物タルコト知ラスシテ作リタルノ證アルキハ對手ニ於テ充分ノ價值ヲ與ヘテ取引シタルコトヲ證スルニアラサレハ取消スコト得ヘシ

又「せとるる」カ「せとるめんど」ノ効力ヲ謬リタルカ如キ場合モ取消スコト得ルモノトス今其例ヲ舉ケンニ甲某其親族ノ代理人トナリタル爲メ「ぼらんたり」どらそど「ヲ作り之レニ財産ヲ與ヘントセリ而シテ其「せとるめんど」ニハ取消ノ權利アルコト記入ノ積ナリシカ實際其記入ナカリシ其後甲ハ遺言書ヲ作り讓渡ノ手續ヲナシ且ツ右ノ「せとるめ

んどハ取消ノ權理アルヲ記載スルモノナルヲ記セリ此場合ニ於テ若シ右ノ遺言書ナキハ其せとるめんど有効ナレハ此遺言書アルカ爲メせとるるニ取消ノ意アリシヲ充分知り得ヘク隨テ右ノせとるめんどハ取消シ得ヘキモノナリトス

第四 債主ニ對シせとるめんどノ効力如何ヲ論ス
現在せとるるノ債主タルト將來ニ於テ債主タル者トチ問ハス渾ヘテ「せとるる」ノ債主ニ對シテハ動産不動産孰レニテモ左ノ場合ニハ「とら」と無効ナリトス

(一) 「せとるめんど」ヨリ生スヘキ結果又ハ生セシメントスル結果ノ何タルチ問ハス債主ノ請求スヘキ權利ヲ妨ケ又ハ遷延スルノ意ニ出テ、作リタル直接ノ確認アル時

(二) 斯ノ如キ確認ナキモ「ばらんと」、「とら」とニシテ其情況ヲ察

スルニ必定債主ノ回復權ヲ妨害又ハ遷延スヘキ勢アルモノナル時而シテ其負債ハ訴訟ノ時ニ既ニ辦償セルト否トチ問ハス「とら」と「無効ナルモノトス去レ」セとるる「カ債主ノ回復權ヲ妨害若クハ遷延セシムル」アルモ其妨害又ハ遷延タル「せとるめんど」ヨリ自然ニ生シタル結果ニアラサルキハ「とら」と「有効ナルモノトス」又斯ノ如キ無効ナル「とら」と「ナル」ば「ゆるゑ」ぶる、ふん、とれ、と、ま、ん、と、ら、ん、と「與ヘタル善意ノ買主ニ對シテハ其せとるる」ヨリ買ヒタルト「とら」と「効」ニヨリ權利ヲ得タル者ヨリ買ヒタルトチ論セス有効ナリトス例ヲ舉ケテ以上ノ原則ヲ解明スヘシ
甲某ナル者アリ乙ヨリ二百圓ヲ借用シ又丙ヨリ千圓ヲ借用セリ丙ハ貸金返濟ノ訴ヲナセシカ甲ハ己ノ負債ヲ辦償スルノ名義ニテ己ノ財産ノ中千五百圓ノ價值アルモノヲ乙ニ讓渡シ其財産ハ尙ホ自ラ之ヲ

所有セリ是ニ於テ裁判所ハ甲ノ所爲ヲ以テ丙ノ回復權ヲ妨害シタル
 モノトシ假令乙ハ右ノ財産ヲ得ルニ就キ「ば」（バ）「ゆゑ」（ユヱ）ト云ふ、（云）「ん」（ン）「ぞ」（ゾ）「れ」（レ）
 「（一）「（二）「（三）「（四）「（五）「（六）「（七）「（八）「（九）「（十）」
 ノ取引ハ無効ナリ何トナレハ若シ右ノ取引ニシテ書入質ナランニハ
 不正ナル所業ノ證トナスヲ得サレト書入質ニハアラスシテ讓渡ナル
 ニ甲ハ尙ホ其財産ヲ所有ス是レ其不正所業ノ明證ナリ故ニ甲ト乙ト
 ノ取引ハ正シカラサルニヨリ債主ノ回復權ヲ妨害シタルモノニシテ
 不正ナリト謂ヘリ
 又會社ノ理事甲ナル者會社ヨリ訴ヘラレ其敗訴トナランコト懼レ己
 ノ財産ヲ其娘ニ讓渡セシカ裁判所ハ右ノ取引ヲ以テ不正ナルモノト
 シ會社ニ對シテハ有効ナラストセリ而シテ會社ハ果シテ債主ナルト
 否トチ問ハス又爲メニ妨ケラルヘキ債主ノ有無ニ拘ラス右ノ娘ハ相

當ノ價值ヲ與ヘタルニアラサレハ法律ノ保護ヲ受クルコトナシト謂ヘ
 リ
 又「せ」（セ）「と」（ト）「る」（ル）「め」（メ）「ん」（ン）「ど」（ド）「チ」（チ）作ル時ニ於テハ負債辦償ノ資力アレト
 二三週ノ後ニハ返濟スヘキ負債アルニ就キ其辦償ヲ免レンガ爲メ財
 産ノ大部ヲ「せ」（セ）「と」（ト）「る」（ル）「め」（メ）「ん」（ン）「ど」（ド）ニテ他人ニ讓渡シ其餘ハ之ヲ浪費シテ債主
 ノ權利ヲ妨害セントセリ此場合ニ於テハ債主ノ權利ヲ妨害スルコト明
 ナルヲ以テ右ノ「せ」（セ）「と」（ト）「る」（ル）「め」（メ）「ん」（ン）「ど」（ド）ハ取消スヘキモノトス
 又甲某ナル者アリ多年麵包商ヲ營ミシカ傍ハラ八百屋商ヲナサント
 欲シ其株ヲ買ヒ開業スルニ當リ財産ノ大部ヲ妻子ノ爲メニばらんと
 リ「せ」（セ）「と」（ト）「る」（ル）「め」（メ）「ん」（ン）「ど」（ド）ニヨリ讓渡セリ然ルニ八百屋開業ノ後六箇月ヲ經
 テ非常ニ損耗セシヲ以テ得ラル、丈ケノ金ヲ得テ八百屋ヲ閉業シ專
 ラ麵包商ニ從事セリ然レト負債彌増シ其高タル「せ」（セ）「と」（ト）「る」（ル）「め」（メ）「ん」（ン）「ど」（ド）チ作リ

テヨリ三年後ニハ財産ヲ超過スルニ至リタレハ身代限ヲ願ヘリ而シテ「せどるめんど」ヲ作リタル時ニ負ヒタル所ノ負債ハ悉ク辨償シタリキ去レモ裁判所ハ曰ク甲ハ「せどるめんど」ヲ作ル時ニ當リ負債ヲ辨償スルノ資力アリシヤ否ヤ知レサレモ元來八百屋商タル甲ニハ不熟ノ商業ナレハ之ヲ營ミテ損耗シタルモ現存財產ヲ他人ニ渡サ、ランカ爲メ妻子ニ讓渡サントシタルモノト看做スヘキモノナレハ其「せどるめんど」不正ナリ若シ之ヲ許ストセハ甲ハ若シ利ヲ得レハ丸儲トナシ損スレハ債主ノ負擔トナスカ如キ不都合ノ結果ヲ生スルニ至ラント以上擧ケタルハ「ぼらんたり」せどるめんどノ例ナリ然レモ「せどるめんど」ベイスド、あぼん、ばりゆノ場合ニ於テハ債主ノ權利ヲ妨クルノ意明ニシテ「こんぞどれ」ぞよんノ對手カ其情ヲ知リタルノ證アルニアラサレハ其「せどるめんど」ヲ無効トスルヲ得ス若シ右ノ證アルモハ假

令「こんぞどれ」ぞよんアルモ其基ク意思不正ナルニヨリ「せどるめんど」ノ債主ニ對シテハ「せどるめんど」無効ニシテ法律之ヲ保護セサルナリ左ニ例ヲ擧ケテ説明スヘシ
 婚姻ノ爲メニ作リタル「せどるめんど」ニヨリ甲某ナル者己ノ身代限ヲナスマテハ其所有財產ヲ自ラ所持シ若シ身代限ヲナスモハ其時ヨリ其妻ニ與フヘシト記スモハ債主ノ權利ヲ妨クルノ意明著ナルヲ以テ其妻ハ情ヲ知リテ得タルモノトシ法律ハ右ノ「せどるめんど」ヲ以テ債主ニ對シ有効ナラストセリ
 又甲某ナル者其妾ト婚姻シ債主ノ權利ヲ妨クル爲メ妾ト同意ノ上ニテ財産ノ全部又ハ大部分ヲ妾即チ妻トナリタル婦人ニ與ヘリ元來婚姻ハ法律ノ許ス所ニシテ此場合ニハ讓渡ノ「おんぞどれ」ぞよん充分ナルカ如クナレモ此事タル素ト故意ニナシタルモノニシテ斯ノ如キ

婚姻ハ詐欺ヲナス爲メノ手段ナリ故ニ「せとるめんど」ニヨリ利益ヲ得
 へキ婦人ハ甲ノ惡事ニ加担シタルモノトシ右ノ「せとるめんど」ハ「せと
 る」ノ債主ニ對シテハ無効ナリトス但シ其「とらとと」若シ「とらとと」ベ
 「とらとと」あばん「ばりゆ」ナルトキハ「せとる」ト債主ノ間ニハ無効ナルヘ
 キモ「あんまどれ」「まよん」ノ對手ニ於テ惡意ナク全ク其情ヲ知ラサル
 非ハ有効ナリトス

右有効ナル場合ノ一例ヲ擧ケンニ甲ナル者乙ト組合ニテ麻糸製造所
 ヲ設立セリ其後甲ハ婚姻スル爲メニ「せとるめんど」ヲ作り其書面ニ將
 ニ婚姻セントスル婦人ヨリ十萬圓ノ借金アルコトヲ記シ依テ「とらとと」
 ノ道ニヨリ右ノ婦人へ其借金ヲ拂フヘキコトヲ約シ且ツ甲カ麻糸製造
 所ヲ設立シタルキハ之ヲ以テ右ノ抵當トナスヘキ旨ヲ記シ「とらとと」
 「若シ二十萬圓ノ金ヲ貸シテ麻糸製造所ヲ抵當トスルナラハ其レヨ

リ上ル所ノ金圓ハ左ノ如ク所分スヘキコトセリ即チ婦人ノ使用ノ爲
 メ其生存間ハ揚リ高チ婦人ニ與へ婦ノ死後ハ夫ノ生存間又ハ夫カ身
 代限ヲナスマテノ間夫ニ與へ夫死後ハ夫婦ノ間ニ生レタル子ノ爲メ
 ニ與フヘキ「とらとと」ナリシ然ルニ事實甲カ婦人ヨリ十萬圓ヲ借入レ
 タルコトハナク甲ノ身代饒ナラスシテ其負債ヲ拂フノ資力ナカリシト
 雖モ婦人ハ其事ヲ知ラス其後甲ハ麻糸製造所ヲ買入レ之ヲ十萬圓ノ
 抵當トシテ「とらとと」へ質入トナセリ然レモ實地金錢ノ取引ハアリ
 タルニアラス此場合ニ於テ甲ノ身代限ヲナシタルニ當リ其債主ハ右
 ノ「せとるめんど」ヲ以テ己等ニ對シテハ無効ナリト主張セシカ裁判所
 ハ判決シテ云ヘラク假令其事實ハアラサリシニモセヨ之ニ基キテ作
 レル「せとるめんど」ノ對手ハ其妻子ニシテ「あんまどれ」「まよん」ノ對手
 ナレハ右ノ「せとるめんど」ハ有効ナリ何トナレハ妻ハ「せとる」ノ犯シ

タル詐欺ニ與ミシタルニアラス夫ト婚姻シタルニヨリ得タル「せとるめんど」ナレハ充分「ば」もゑ「ふる、ふん」迄どれ「よん」ヲ與ヘタルモノナリ又其子ハ「ば」もゑ「ふる、ふん」迄どれ「よん」ニ基キタル取引ノ對手ニシテ情ヲ知ラサルモノナレハ毫モ無効トスルノ理由ナケレハナリト

又「どら」と「べい」と「あんば」も「い」ノ場合ニ於テハ其「ふん」迄どれ「よん」ノ對手ニ向ヒ其無効ナルヲ示サントスルカ又「せとち」も「い、く、どら」と「い」ヨリ相當ノ價ヲ出シテ買受ケタル買主ニ對シテ其「ば」もゑ「ふる、どら」と「い」ノ無効ナルヲ示サントスルニハ明ニ此對手ハ其情ヲ知リテナシタルモノナルヲ立證セサルヘカラス若シ之ヲ立證スルヲ能ハサルキハ假令取引ノ結果タル讓渡人ノ債主ノ權利ヲ妨クルヲアリトスルモ其取引善意ニテ情ヲ知ラサル者ノ間ニナシタルモノ

ト推測スルカ故ニ有効ナリトスヘシ

又第二番ノ債主ニ對シテ「せとるめんど」ノ有効ナリヤ否ヤヲ定ムルノ例ヲ示サンニ或ル寺院ノ僧侶毎年五千圓許ノ入額ヲ生存間有スルノ權アリ僧侶「せとるめんど」ナリ「せとるめんど」ヲ作ラントスルニ其ノ當時頻リニ債主ヨリ返金ノ催促ヲ受タルヲ以テ之ヲ拂ハンカ爲メ世話人ヨリ借金シ其抵當トシテ五千圓ノ生命保險書ヲ渡セリ然ルニ其借債タル五千圓ノ保險證書ニシテ八千圓程餘分アレリ「せとるめんど」ハ銀行ヨリ二千圓許ノ借債ヲナシ「せとるめんど」ヲ作ルキニハ借用總高凡ソ二千五百圓程ニナレリ於是僧侶ハ銀行ト結約ノ上歳入金ノ一部ヲ代言人ニ預ケ其中ヨリ五百圓銀行ニ返濟シ其餘ハ當坐預ケトシテ銀行ニ預ケ置ケリ而シテ銀行ハ右ニテ出訴スルヲナカルヘシトハ約スルヲナカリシ僧侶ハ或ル婦人ノ爲メ「ばら」んたり「どら」と「い」ノ「せとるめんど」

んど「チ作り其結果タル二千五百圓ノ負債ヲ拂フ」モ能ハス抵當ヲ入ルヘキ道モナク跡ニ殘ルハ唯器具ノミニシテ到底負債ヲ皆済スルノ望ナカリシ之ヲ以テ其後ニ至リ債主ハ右ノ「ぼらんたり」どらそと「チ取消サシメント欲シ訴ヘテ曰ク「せどる宛んど」ノ結果タル「仮令詐欺ハナカリシニモセヨ債主ノ權利ヲ妨害シ「せどる宛んど」チ作りシ以前ヨリ存スル債主ニ對シテ其負債ヲ辦償スルコト能ハサルノ勢ナレハ其後ニ生シタル債主ニ對シテモ亦其「せどる宛んど」チ取消サシメサルヘカラスト此場合ニ於テ裁判所ハ判決シテ曰ハク「元來不正ノ「ぼらんたり」せどるめんど」チ禁スルノ主旨タル人若シ他人チ惠マント欲セハ先ツ己ノ負債ヲ辦償シ然ル後ニ之チナスヘシト云フニアリ故ニ右ノ場合ニ於テハ其「せどるめんど」ハ取消スヘシト

從來判決例ニヨリ定マリタル所ニヨレハ惡意アリタル直接ノ證據ナ

キモ「せどるる」カ己ノ財産ヨリ其負債ヲ拂フニ足ルヘキ部分ヲ除キ之ニ充テントセシニ其財産タル負債ヲ拂フニ足ラサルキハ「せどるめんど」ノ結果タル債主ノ權利ヲ幾分カ妨害スルモノナルモ之ヲ以テ債主ノ權利ヲ妨ケ又ハ辦償ヲ怠リタルモノト見做ス「チ得ス何トナレハ夫レカ必スシモ債主ノ權利ヲ妨ケシモノト言フチ得サレハナリ

又或ル判事ノ言ニヨレハ「ばりゆゑ」ぶる、去ん、えどれ「えよん」ニ基キタル「せどるめんど」チ取消サントスルニハ明ニ其情ヲ知リタル「チ得セサル可ラスト雖モ其「せどるめんど」タル「ぼらんたり」せどるめんど」タルキ惡意ノ存在スル「チ得」アラハ種々ノ方法ニヨリ其存在ヲ發見スル「チ得」ヘシ譬ヘハ「ぼらんたり」どらそと「ニヨリ與ヘタル財産ヲ除キ去ルキハ負債ヲ拂フニ充分ナル財産アラサルキノ如キハ債主ノ權利ヲ妨害スルノ意アリシモノト法律上認ムル「チ得」ヘシ又「せどるめんど」

ど「ヲ作ルニ當リ之ヲ作ル者實地負債ヲ辦償スルヲ得ルノ地位ニ在ラサルキハ債主ノ權利ヲ妨害スルニ出テタルモノナリト法律上認定スルヲ得ルカ如シ

又或ル婦人婚姻セントスルニ當リ原告ヨリ借金シナカラ其家具飾器ノ外ハ動産不動産ヲ問ハス一切己ヨリ生ル、所ノ子ニ與ヘ若シ子ナキハ其近親ニ與フヘキ「どらすど」ヲ作レリ而シテ右ノ婦人及ヒ其夫ハ原告ニ負債ヲ拂フ前死亡シ其間ニ子ナカリシハ裁判所ニ於テハ右ノ「どらすど」ハ「ぼらんたり」どらすど「ナルニ付近親ニ對シテハ有効ナラストセリ併シ「どらすど、べいすど、あぼん、ばりゆ」ノ場合ニ於テ若シ「せとるめんど」カ「ぼらんたり」せとるめんど「ナルキハ「せとるる」ノ債主ニ對シテハ無効トナルヘキトスルモ彼ノ「せすちゆい、どらすど」カ「こん玄どれーんよん」ノ對手ニアラサルト云フ事柄ノミニテハ明ニ詐欺ア

リタル「ヲ」ヲ証スルニアラサレハ其「せとるめんど」ヲ無効トスル「ヲ」ナシ且ツヤ「どらすど、べいすど、あぼん、ばりゆ」ノ「ぼらんちやー」ハ「ぼらんたり」どらすど「ノ」ぼらんちやー「ヨリ」ハ「せとるる」ノ債主ニ對シ一層勝リタル地位ニ居ルモノナレハ「どらすど、べいすど、あぼん、ばりゆ」ノ場合ニ於テハ「せとちゆい、く、どらすど」カ「ぼらんちやー」ナリトテ之ヲ取消ス「能ハサルナリ

又甲某毎年五十万圓宛ノ利益アル商業ヲナセリ其死去前二年ト一年トノ兩度ニ其妻ノ爲メ「ぼらんたり」どらすど「ヲ」作レリ而シテ其第一ノ「どらすど」ニヨリテ價格五千圓ノ保險証書ヲ讓渡シ第二ノ「どらすど」ニテ五千圓程ノ家具ヲ讓渡セリ甲カ第一ノ「せとるめんど」ヲ作リタルキノ身代ハ負債ヲ方財産ヨリ六千圓多ク第二ノ「せとるめんど」ヲ作リタルキニハ負債ノ方財産ヨリ五万圓程多カリシ此場合ニ於テ其債主

ノ一人ハ第一ノ「せとるめんど」ト第二ノ「せとるめんど」ノ間ニ貸シタル者ナリシカ第二ノ「せとるめんど」ヲ取消サシメントシテ訴ヘリ裁判所ハ曰ハク「せとるる」ノ負債ハ兩度ノ「せとるめんど」ヲ作りタルヲ既ニ負債ノ方財産ヨリ多ク「せとるる」ハ負債ヲ辨償スルノ地位ニ居ラサリシモノニテ原告始メ其他ノ債主ニ對シテ詐欺ニ出テタルモノナリ故ニ「せとるる」ハ第一ノ「せとるめんど」ヲ作りタル日存在シタル負債ハ後ニ皆濟セシモ尙ホ其レノミニテハ正シキ取引ト云フヘカラス何トナレハ詐欺アル以上ハ右ノ一事ヲ以テ無効ナルモノヲ有効トスルコト能ハサレハナリト

又右ニ反シタル例ヲ舉クレハ甲某ハ毫モ債主ヲ害スルノ意ナク「ぼらんとり」せとるめんど」ヲ作りシカ元來貧困ニシテ饒ナラス去レト「せとるめんど」ニ記入シタル財産ノ外ニ右ノ「せとるめんど」ヲ作りタル當

時負ヘル負債ヲ償却スル丈ノ財産ハ所有シタリキ此場合ニ於テ「せとるめんど」ヲ作ル當時其負債ノ大部ヲ拂ハサルモ實際拂フ丈ノ資力アリタルモノナレハ債主ニ對シテ右ノ「せとるめんど」ハ有効ナリ蓋シ「せとるる」貧困ナリト雖モ其當時債主ヲ妨クルノ意ハ毫モ之ナケレハナリ

次ニ「せとるる」カ身代限ヲナシ又ハ分散辨濟ノ處分ヲ受ケタルニヨリ「せとるる」ノ「とらそち」即チ身代限ノ財産又ハ辨濟スヘキ財産ノ處分人ニ對シ「せとるる」ノ作りタル「ぼらんとり」せとるめんど」ノ効力如何ヲ論スヘシ

前ニモ述ヘタルカ如ク債主ニ對シテ「ぼらんとり」せとるめんど」ノ効力アル場合ニテモ身代限又ハ分散辨濟ノ處分人ニ對シテハ「ぼらんとり」せとるめんど」無効ナル場合アリ左ノ如シ

第一 婚姻ノ後婦ノ權利ニ基キ「せとるる」ノ手ニ渡リタル財産ヲ其婦及ヒ子ノ爲メニ「せとるめんど」ノ處分ヲナシタル場合ト千八百八十二年有夫婦財産條例第一節ニ記シタル生命保險證書ヲ婦及ヒ子ノ爲メニ處分シタル場合トテ除キ凡ヘテ夫ノ作リタル「ぼらんたゞ」一、せとるめんどハ夫若シ其日付ヨリ二年内ニ身代限ヲナスカ又ハ分散辨濟ノ處分ヲ受クルキハ其「ぼらんたゞ」一、せとるめんど「右ノ」ト「らそち」ニ對シテハ全ク無効ナリトス

第二 前ノ場合ノ外「ぼらんたゞ」一、せとるめんど「ヲ作ル」ノ日ニ於テ斯ノ如クシテ讓渡シタル財産ノ助ナキモ其時ノ負債ヲ充分辨償スルノ資力アリシ「及ヒ」「ぼらんたゞ」一、せとるめんど「ニヨリテ讓渡シタル財産ノ權利ハ之ヲ作ルヤ否直チニ「せとるめんど」ノ「らそち」一」ヘ移リタル取引ヲナシタルモノナリト云フ「ヲ」ヲ證スルニアラサレ

「せとるる」若シ「せとるめんど」ノ日付ヨリ十年内ニ示談ニヨリ身代限ノ處分ニ遇フカ又ハ分散辨濟ヲナスキハ其「ぼらんたゞ」一、せとるめんど「ハ無効トナルヘシ

第三 婚姻ヲ「おん」迄「ぞれ」一迄「よん」トシテ本來ニ於テ其婦及ヒ子ノ爲メニ特示シタル財産又ハ金錢ヲ讓渡ス「ノ」「せとるめんど」ヲ作リ其財産タル婚姻ノ日ニ於テハ毫モ夫ニ所有權ナク且ツ婦ノ權ニヨリ得ルモノニモアラサルキハ夫カ身代限ヲナスカ又ハ分散辨濟ノ處分ニ遇フニ於テハ其財産又ハ金錢タル右ノ處分前ニ約束通り讓渡タルニアラサレハ未タ渡サ、ル所ノ財産ニ付設ケタル「ぼらんたゞ」一、せとるめんど「ハ其」「らそち」一ニ對シテハ無効ナリトス

例ヲ舉ケテ之ヲ説明センニ爰ニ甲ナル者アリ書入質トナシタル不動産ニ付キ「ぼらんたゞ」一、せとるめんど「ヲ作リ」「らそち」一ト約シテ云ヘ

ラク余ハ書入質ニヨリ借リタル負債ノ利子ヲ拂ヒ請求ニ依リテハ何時ニテモ其本金ヲモ拂フヘシト然ルニ其後未タ二年ヲ經サルニ此不動産ヲ除キテ他ノ財産ノミナレハ書入質ニヨリ借リタル負債ヲ拂フヲ能ハス其餘ノ負債ヨリ餘分ハ辨償スルノ資力ナキニ至リ終ニ身代限ヲナセリ其時裁判所ニ於テ元來此セどるめんどタル詐欺ヲ以テシタルト否トニ拘ハラス其効ナシ何トナレハ斯ルコトハ身代限條例ニ於テ明ニ之ヲ禁スルモノナレハナリト云ヘリ

第三ノ場合ハ特示シタル財産又ハ金錢ニ限ルモノナルカ故ニ左ノ場合ニハ之ヲ適用スルヲ能ハサルモノトス譬ヘハ甲者「まゝゑゑ」セどるめんど「婚姻ニヨリ作りタル」セどるめんど「ニヨリ其どらそち」ヘ或ル金額ヲ拂フヘキヲ約セル場合ハ其セどるめんど「有効ナリトス元來第三ノ規則ノ意タル」セどるめんど「ヲ作ルノキニ當リ現ニ」セどるる

財産法

カ有セス只未來ニ於テ得ント希望スル財産ニ就キ相當ノ理由ニ基ク「ナク」セどるめんど「ヲ作ラントスル弊害ヲ除カンカ爲メニ設ケタルモノナレハ斯ノ如キ場合ニハ此弊害ナク之ヲ無効トスルノ理由ナクレハナリ某判事曰ク立法院カ右ノ規則ヲ設ケタル所以ハ若シ特示シタル財産ニシテ此規則ナキハ獨リ「どらすち」之ヲ領取シ「セどるる」ノ債主ノ間ニ分配スルヲナキニ至ルノ弊アレハナリ故ニ「ゑくいち」法律ニ據レハ斯ノ如キ特示シタル財産ヲ「セどるめんど」ニヨリ渡スヘキ約束ハ現ニ其財産ヲ渡シタル時ニ於テハ有効ト爲スモノナリ

右ノ規則ノ意タル「セどるめんど」ヲ作ルキニ當リ有セサル財産ハ債主ノ手ニ歸スヘキモノニシテ「セどるる」ノ手ニ歸スヘキモノニアラスト言フニアリ故ニ假令「セどるる」カ爾後得ル所ノ財産ハ一切「セどるめんど」ニヨリテ處分スヘシト約束スルコトアルモ其當時之ヲ握有シテ未タ

權利ヲ有セサルニ於テハ其約束タル身代限ノ「どらすち」ニ對シテハ無効ナリ而シテ苟モ賣ルヲ能ハサル財産ニ非ル以上ハ其財産各債主間ニ分配スヘキモノトス

次ニ「せとるめん」と「せとるめん」ヲ作リタルヨリ後ノ取引ニヨリ其財産ヲ買ヒタル買主ニ對シ効力ノ如何ナルヘキヤヲ論述スヘシ

凡ソ不動産ノ「せとるめん」ニシテ買主ヲ欺クノ意ニテ作リタルカ又ハ「ばりゆゑ」トふる、おんまどれ「まよん」ナシニ作リタルカ又ハ真正ニ作リタル遺言書ノ中ニ之ヲ取消スノ權利ヲ記サスシテ作リタルカ又ハ真正ニ行フタル遺言書ニアラサルモ實地「せとるる」ノ取消シ得ヘキヲ記スルヲナキモノナルキ相當ノ價ヲ出シテ「せとるる」ヨリ後ニ買フタル善意ノ買主又ハ質取人又ハ借地人ニ對シテハ其「せとるるめん」とハ無効ナリ而シテ後ノ買主質取人又ハ借地人ノ「せとるるめん」アリ

タルヲ知リタルモ爲メニ此規則ヲ左右スルモノニアラス去レモ若シ實ニ犯シタル詐欺アルニアラサレハ其「せとるるめん」タル只後ノ取引ニ關スル目的ヲ達スルニ必要ナル丈ケノ部分ヲ無効トシ其他ハ効力ヲ有スルモノナリ

斯ノ如キ場合ニ於テ「ばらんたり」せとるるめん」ノ「せとるるめん」ニ「せとるるめん」ノ「せとるるめん」ニ對シテ其買主ヨリ受ケタル代金引渡ヲ要求スルノ權ナシ但シ右ノ「せとるるめん」タル相當ノ價ヲ與ヘタル善意ノ後ノ買主カ其利益ヲ受クル場合ナルカ又ハ「せとるるめん」ニ關係ナキ第三者カ善意ニテ與ヘタル「こんまどれ」「まよん」ニ基キテ作リタル「せとるるめん」ノ「ばらんちや」ナルキハ有効ナリトス而シテ右買主ノ場合ニ於テハ買主カ「せとるるめん」ニヨリテ直接ニ其權ヲ主張セントスルモ亦「せとるるめん」ノ「ばらんちや」ノ權ニヨリ主張セントスルモ其「せとるるめん」

めんどノ有効ナルニ於テハ一ナリ買主若シ「ぼらんちや」ノ權ニヨリ
 請求セントスルキハ其「ぼらんちや」セとるめんどナルヲ知リタル
 ト否トニ拘ハラス之ヲ主張スルヲ得ヘシ
 元來本節ノ意タル既ニ一度「ぼらんちや」セとるめんどヲナシタル後
 再ヒ「むりゆゑ」ふる、こん玄どれ「玄よん」ノ爲メニ「せとるる」カ賣ルニ
 當リテハ全ク先キノ「ぼらんちや」セとるめんどヲ停止シテ其財産ヲ
 賣ルノ意ヲ示シタルモノニ就キ「せとるる」自ラニ對シ又「せすちゆとく」
 どらとどニ對シテ「せとるる」カ「ぼらんちや」セとるめんどヲ作ル當
 時之ヲ取消スノ意アリシモノトセリ故ニ到底斯ノ如キ「ぼらんちや」
 どらとど「ヲ作リタルニ買主ヲ欺ク積ナリシモノニテ此規則ヲ適用ス
 ヘキ場合」セとるる「ト後ノ賣人カ同一ナル場合ニ限ルモノトス若シ
 後ノ賣人相續人ナルカ又「ぼらんちや」ナルニ於テハ此規則ヲ適用

セサルナリ尤モ其「せとるめんど」タル詐欺ニ出テタルヲ示スルハ右
 ノ限ニアラスシテ一般ノ說ニヨレハ斯ノ如キ場合ニ「せとるめんど」ヲ
 有効ナラシムルニハ些少ニテモ「おん玄どれ」玄よん「アルキハ足レリ
 ト言ヘリ

近來ノ判決ニ借地權ノ「ぼらんちや」セとるめんど「ヲ作リタル場合ニ
 於テ讓受人ハ借地權ニ就キ責任ヲ履行スルヲナリシカ此責任ノミニ
 テ充分「おん玄どれ」玄よん「アルモノトセリ去レ」此判決ハ甚タ疑フ
 ヘキモノニシテ凡ソ「おん玄どれ」玄よん「タルニハ當ニ盡スヘキヲ
 盡シタリトテ充分ナルモノニアラス必ス其財産ニ關係ナキヲ要ス
 ルモノナリ

凡ソ取引詐欺ニ出テタルニアラサレハ前ノ取引有効ナルヲアリ即チ
 「ぼらんちや」セとるめんど「アリタル後其財産ヲ書入トナシタルカ如

キ場合ニシテ「ばらんたり」せとるめんど「ノ」せとちゆい、く、とらそと「ハ」書入質ノ濟ミタル後其財産ヲ得ヘシ而シテ若シ書入質ノ中ニ「ハ」せとるめんど「ノ」財産ニアラサル他ノ財産ト共ニ書入ル、コアルヘシ斯ノ如キハ他ノ財産タル充分書入質ノ借金ヲ辦濟スルニ足ルハ其せとちゆい、く、とらそと「ハ」毫モ書入質ノ義務ヲ負フコナクシテ「せとるめんど」ノ財産ヲ得ヘシ

又相當ノ價ヲ與ヘテ後ニ買ヒタル買主ト雖モ善意ニアラサレハ其取引無効ナリ故ニ後ニナシタル取引不充分ニシテ些少ノ「おんまどれ」まよん「ナル」ニ於テハ「ばらんたり」せとるめんど「ノ」せとちゆい、く、とらそと「ヨリ」後ニナシタル賣買タル詐欺ニ基キタルモノニテ賣主ハ既ニ作リタル「せとるめんど」ヨリ責ヲ免レン爲ニ内約シタルモノトシ「せとちゆい、く、とらそと」ヨリ抗辯スルコアルヤモ知レサルナリ

次ニ「でくれや」せとらすと「ノ」解釋ニ關スル規則ヲ講述スヘシ

凡ソ「ゑきせきゆ」てつと、とらすと「ヲ」解釋スルニハ極メテ狭ク其意義ヲ解セサルヘカラス詳言スレハ「ゑきせきゆ」てつと、とらすと「ヲ」解スルニハ其用語ハ極メテ法律上定リタル意義ニ解シ「ゑきせきゆ」てつと、とらすと「ヲ」解スルニハ「音」ニ「せとるめんど」ノ言語ノミニヨラス他ノ事實ヲモ參考シテ解釋スヘキモノトス故ニ若シ「せとるめんど」ノ文言不都合ナルカ不規則ナルカ又ハ不法ノ「とらすと」ヲ作ラントスルモノナルカ其他「せとる」ノ意ヲ害スルモノニシテ是等ノ事柄タル兼テ「せとる」カ「せとるめんど」ヲ作ルノ意ヨリ考ヘ又一般ノ目的ヨリ考ヘ其他其中ニ記シタル文言ニヨリ且ツ「せとる」ノ考ヲ左右シタル事情ヨリ考ヘテ其本主旨ヲ知り得ヘキ場合ニ於テハ裁判所「せとるめんど」ノ文字ニ拘泥セス其「せとるめんど」タル正當適法ノモノニシテ「せとるめ

んどノ對手ノ意ヲ達シ目的ヲ果ス様ニ之ヲ解スヘキモノトス譬ヘハ
 「せどろる」カ孫女ノ婚姻スルニ當リ「どらすど」ノ方法ニヨリ遺言書ヲ作
 リ「どらすち」ヘ不動産ヲ渡セリ而シテ其文言ニハ婦女ノ生存間ハ其
 用ニ供スル爲メ不動産ヲ讓渡シ婦女死去ノ後ハ夫ノ生存間其用ニ供
 シ夫死去ノ後ハ其子ノ用ニ供シ子ナキハ其財産ヲ他ニ示シタル道
 ニヨリ渡スヘシトアリ斯ノ如キ場合ニ於テ若シ「どらすど」カ「えきせき
 ゆ」トシ「どらすど」ナルキハ斯ノ如ク讓渡シタル財産タル元來英國法
 ニヨレハ其婦女ノ産ミタル男子ニノミ移ルモノトシテ解スヘキモノ
 トス去レ「ト」トラス「ト」若シ「えきせきゆ」トシ「どらすど」ナルキハ「せど
 ろる」ノ意ヲ達セシムルカ爲メ其財産ハ女子モ受クヘキモノト解スヘ
 キモノトス

又婚姻ノ約束ナシ其中ニ夫ノ生存間ハ夫ニ不動産ヲ渡シ夫ノ死後

ハ婦女ノ生存間其用ニ供シ婦女死去ノ後ハ其間ニ生レタル男子及ヒ
 其男子ノ相續人ニ渡スヘキ旨ヲ約セリ斯ノ如キ場合ニ於テハ其「どら
 そ」若シ「えきせきゆ」トシ「どらすど」ナルトセハ其夫ハ或ル財産權
 ナ得充分處分スルヲ得レ「ト」若シ其「えきせきゆ」トシ「どらすど」ナ
 ルカ故ニ其間ニ生ルヘキ子孫ノ養育ノ爲メニ設ケタルモノトシ夫ハ
 自由ニ之ヲ處分スルヲ能ハサルモノト解釋セサルヘカラス
 又婚約書ノ中ニ子ニ讓渡スヘキ旨ヲ記シタル約束ノ如キハ「えき
 せき」トシ「どらすど」ナルニヨリ女子ヲモ含ミタルモノトス去レ「ト」
 明カニ其方法等ヲ示シタル場合ニ於テハ斯ノ如キ解釋ヲ下スモノニ
 アラス

以上でくれや「ど」トラス「ト」ヲ講述シ來リタレハ是ヨリ「こんすどらく
 ち」トラス「ト」ヲ説明スヘシ「こんすどらくち」トラス「ト」ハ前既

財産ヲ讓渡スニ足ル丈ノ廣キモノニアラサルキ若クハ之ヲ實行スル
ヲ能ハサルカ如キ場合ニ於テハ讓渡人又ハ其名代人ノ爲メニ財産戻
ルモノトス即チ是等ノ人ノ爲メニ「れざるちんぐ、どらすと」ノ關係起ル
ナリ

夫ノ讓渡シタル「べねふいゑやゐ、いんとれすと」ヲ與フルノ性質ヲ負ヒ
サルモノナルヲ讓渡ノ書面ニ顯ハレサルキハ之カ反證ヲ許スヲナシ
然レモ明記セシニアラスシテ書面ノ全體ヨリ觀察シテ斯ノ如キモノ
ナリト推測スル場合ニ於テハ孰レノ場合ト雖モ此推測ヲ存廢スルニ
就キ口頭ニテ證明スルヲ得ヘシ而シテ生存中ニナシタル贈與ノ場
合ニ於テハ特ニ之ヲ口頭ニテ證明シ得ルモノトス譬ヘ「余ノどらす
ち」ヘ不動産ヲ渡スト「記シタルモ如何ナル方法ニヨルヘキカヲ明示
セサルキハ其どらすち」ハ相續人ノ爲メニ之ヲ監護スヘキモノトス

何トナレハ書中ニ「どらすち」ノ語アルノミニテ他ニ説明スヘキモノ
アラサレハ「べねいゑやゐ、いんとれすと」ヲ渡スノ意ハ其文言中ニアラ
サルヲ明ナレハナリ

又遺言者カ遺言書ヲ作り余ノ動産不動産ヲ甲乙及ヒ其相續人遺產處
分人ニ渡スヘシ其どらすと「ハ動産ヲ不動産ニ替ヘ其實上代金ト其他
ノ財産トヲ所持シ只動産ニノミ適用スヘキ監護ヲナスヘシトセリ然
ルニ遺言者ノ不動産ハ「どらすち」ヘ移リタリシカ元來此どらすと「タ
ル動産ニ適用スヘキ道ニヨリ處分スヘシト言ヒ又どらすち」ハ動産ニ
「どらすち」ナリト明示シタルノミナレハ其どらすち「ハ不動産ニ
對シ「べねふいゑやゐ、いんとれすと」ヲ得ル能ハス故ニ此場合ニハ「せと
ろる」ノ相續人ノ爲メ不動産ノ「れざるちんぐ、どらすと」起ルモノトス
又「でくれや」ど、どらすと「曖昧ニシテ之ヲ實行スルヲ難キカ又ハ其目

的ヲ達スルヲ能ハスシテ「どらすと」無効トナリタルキハ其「どらすち」カ「べねふい」をやる、いんどれすと「ヲ得ル」ヲ明ナラサルヲ以テ「れざるちんぐ、どらすと」アリトスルモノトス

又毫モ「こん」をどれ「と」與ヘサルカ又ハ只有名無實ノ「こん」をどれ「と」對シ不動産ノ讓渡アリテ其不動産ニ就テハ少シモ「どらすと」ノ目的ヲ示サス讓渡人ハ其他ノ証ニヨルモ「どらすち」ヘ「べねふい」をやる、いんどれすと「ヲ渡サントシタル」ノ意見ヘサルキハ法律上讓渡人ノ意ハ「べねふい」をやる、いんどれすと「ヲ與フルモノ」ニアラサルカ如クナル故讓受人ハ讓渡人及ヒ其名代人ノ爲メ「どらすち」トシテ讓受ケタルモノト推測スルナリ然レモ讓渡シタル財産カ動産ナル場合ニ於テハ「べねふい」をやる、いんどれすと「ヲ與フル」ノ意アリシモノト法律上推測スルノ傾向アリ尤モ此場合ニ於テハ反證ヲ舉ケテ其推測ヲ

産財法

打消スヲ得

又負債ヲ拂ヒ或ハ年金ヲ拂ハシムルノ目的ニテ「どらすと」ノ方法ニヨリ財産ヲ讓渡シタル上其負債ヲ拂ヒ年金ヲ渡スルハ殘ル所ノ財産ニ就テハ「れざるちんぐ、どらすと」アリ又負債ヲ辨償スル爲メニ債主ノ間ニ賣上金ヲ分配スルノ目的ニテ財産ヲ處分スル爲メナルキハ其負債ヲ辨償シタル上尙ホ殘餘アレハ其殘餘ニ就キ「れざるちんぐ、どらすと」アリトス

又「どらすち」ヘ財産ヲ讓渡シタルニ其者ハ負債ヲ拂フ丈ノ財産ナシ而シテ其中ノ或ル負債ニ就テハ請求スル人ナキキハ請求ナキ負債ヲ拂ハシカ爲メ當テタルモノニシテ殘リタル財産ハ請求アル負債ノ不足ヲ補フ爲メニ「れざるちんぐ、どらすと」アリトス

又婚姻スルノ目的ニテ「せとる」先ん「ト」作リタルニ婚姻ノ約破棄シタ